

令和2年度

病虫害発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供等	
1. 発生予察情報の一覧	5
2. 病害虫の診断・同定の件数	8 5
VI. 病害虫の発生経過の概要	8 6
VII. 作物病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	9 1
2. 予察圃場などにおける定点調査	9 3
3. 水稻巡回圃場調査	9 4
1) 圃場における病害虫の発生状況	9 5
2) 主要病害虫の発生程度別面積	1 0 7
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	1 1 5
VIII. 野菜・花き病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	1 2 1
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	1 2 9
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	1 3 4
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 予察ほ場などにおける調査	1 3 5
2. 巡回調査結果	1 5 7

令和2年度病害虫発生予察事業年報

I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病害虫」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病害虫の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

II. 事業実施方針

病害虫発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入病害虫、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソミドリカスミカメ類）、イネミズゾウムシ (指定外) 白葉枯病、萎縮病、ごま葉枯病、内穎褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ (指定外) べと病、灰色かび病、軟腐病、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、べと病 (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
ス イ カ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類

作物名	対象病虫害
キュウリ	(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ） (指定外) 斑点細菌病、疫病、モザイク病、黄化えそ病、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
ナス	(指 定) うどんこ病、灰色かび病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハスモンヨトウ、オオタバコガ (指定外) モザイク病、疫病、すすかび病
トマト ミニトマト	(指 定) 灰色かび病、葉かび病、疫病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、オオタバコガ、ハスモンヨトウ (指定外) うどんこ病、モザイク病、黄化葉巻病、ハモグリバエ類、ハダニ類
エンドウ	(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、立枯性病害、ウイルス病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類（マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ）、ウワバ類、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）
イチゴ	(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類（ワタアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウナマ）、ハスモンヨトウ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ） (指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類（ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）、ロウムシ類（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ゴマダラカミキリ、クワゴマダラヒトリ、ミカンハモグリガ
キウイフ ルーツ	(指 定) かいよう病

作物名	対象病虫害
カキ	<p>(指定) 炭疽病、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャハマキ、チャノコカクモンハマキ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ</p>
モモ	<p>(指定) せん孔細菌病、ハダニ類（クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ）</p>
ウメ	<p>(指定) 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）</p> <p>(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑病、アブラムシ類（ムギワラギクオマルアブラムシ）、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ</p>

IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 査 主 査 副主査 副主査 技 師	前田 和也 藪野 佳寿郎 菱池 政志 井沼 崇 岡本 晃久 高岸 香里 中居 由依奈
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 主 査 技 師	井口 雅裕 武田 知明 松山 尚生
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 任 副主査 副主査	和中 学 南方 高志 弘岡 拓人 増田 吉彦
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 副主査 技 師 技 師	中 一 晃 沼口 孝司 下村 友季子 柏本 知晟

V. 病害虫発生予察情報の提供等

1. 発生予察情報の一覧

1) 特殊報

令和2年7月17日

令和2年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：タバコノミハムシ *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)
2. 作物名：ナス
3. 発生地域：紀の川市
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本年5月下旬、紀の川市の露地栽培ナスにおいてノミハムシ類の成虫による葉の食害が確認された。成虫を採集し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県ではこれまで未確認のタバコノミハムシであることが判明した。なお、県内の他のほ場における発生は確認されていない。

本種は、平成23年に群馬県で初めて発生が確認された。その後、平成24年に栃木県、平成25年に神奈川県、平成27年に静岡県、平成28年に愛知県、平成29年に三重県、岐阜県、平成30年に大分県、新潟県、令和元年に奈良県、滋賀県、岡山県、大阪府、京都府から病害虫発生予察特殊報が発表されている。

5. 形態および生態

成虫の体長は1.5～2.5mm、長楕円形でやや扁平であり、後腿節が顕著に肥大している。体色はやや光沢のある赤褐色で、上翅に不明瞭な黒斑がある（図1）。

成虫は後脚を用いて活発に跳躍する。卵は地表に産みつけられ、孵化した幼虫は地中で根を加害した後、地表近くで蛹化する。

国内ではこれまで、ナスの他、ジャガイモ、トマト等のナス科植物で発生が確認されている。

6. 被害の特徴

成虫が葉の片側の表皮を残して、または葉を貫通して食害する。このため、直径1～2mm程度の白い斑点状の食害痕や円形の穴が多数観察される（図2）。

7. 防除対策

- 1) 現在、ナスにおいて本種に対する登録薬剤はないが、他府県の特殊報の事例によると、主に有機栽培や減農薬栽培のほ場で発生するとされており、慣行の薬剤防除を行っているほ場において被害が拡大する可能性は低いと考えられる。
- 2) 本種が寄生している作物の栽培終了時には、近隣のナス科作物へ本種が移動しないように残渣を速やかに処分する。



図1 タバコノミハムシ成虫



図2 ナスの葉の被害

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300

令和2年11月12日

令和2年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferris
2. 作物名：ピーマン
3. 発生地域：岩出市
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本年8月下旬、岩出市の施設栽培ピーマンにおいてカイガラムシ類の成幼虫の寄生が確認された。成虫を採集し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県ではこれまで未確認のナスコナカイガラムシであることが判明した。なお、県内の他のほ場における発生は確認されていない。

本種は、平成15年に高知県で国内初の発生が報告された。その後、長崎県、愛知県、茨城県、奈良県、京都府、鹿児島県、岐阜県、岡山県、群馬県、長野県、佐賀県、千葉県、大分県、神奈川県、石川県の計15府県で特殊報が発表されている。

5. 形態および生態

成虫の体長は3～5mm、長楕円形でやや扁平であり、背面は白いロウ質の分泌物で覆われている。体周縁のロウ物質の突起は短く目立たないが、18対ある(図1)。

本種は単為生殖を行い、雄は知られていない。卵胎生のため、雌成虫は直接産仔する。産仔数は200程度で、3齢幼虫を経て成虫になる。

国内ではこれまで、ピーマン、ナス、キュウリ、パンプキン等で発生が確認されている。海外ではナス科、キク科等の草本植物やミカン科等の木本植物での発生も確認されており、広食性である。

6. 被害の特徴

葉、莖に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成虫、幼虫の吸汁による生育阻害や、排せつ物に起因するすす病によって葉や果実の汚れが問題となる。

7. 防除対策

- 1) ピーマンのコナカイガラムシ類を対象として、チアメトキサム顆粒水溶剤（商品名：アクタラ顆粒水溶剤）が登録されている（令和2年10月28日現在）。
- 2) 本種は寄生範囲が広く、雑草にも寄生する可能性があるため、施設内外の除草に努める。
- 3) 薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用

用する。



図1 ナスコナカイガラムシ成虫および幼虫

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300

2) 注意報

令和2年8月14日

令和2年度病虫害発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病虫害防除所

1. 病虫害名：トビイロウンカ
2. 対象作物：普通期水稻
3. 対象地域：県北部および中部
4. 発生量：多
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 県北部における8月中旬の発生ほ場率は65%（平年10%）、25株あたり成・幼虫数は2.5頭（平年0.4頭）、県中部における8月上旬の発生ほ場率は100%（平年17%）、25株あたり成・幼虫数は15.0頭（平年1.5頭）で、いずれも過去10年間と比べて最も多い（表1、2）。
 - 2) 予察灯による6月上旬から7月中旬の誘殺数は、紀の川市12頭（平年0.7頭）、上富田町157頭（平年0.7頭）、那智勝浦町172頭（平年3.2頭）で、いずれも過去10年間と比べて最も多い。
 - 3) 大阪管区气象台が8月6日に発表した向こう1か月の予報では、気温は高い確率が70%、降水量は平年並または少ない確率がともに40%と予想されており、本種の増殖を助長する気象条件である。
6. 防除上の注意事項
 - 1) トビイロウンカ（図1）の発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
 - 2) 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも8月下旬以降に高密度となり、坪枯れ被害（図2）を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。
 - 3) 本種はイミダクロプリド剤、チアメトキサム剤、クロチアニジン剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
 - 4) 粉剤、液剤の散布に際しては、本種は株元に生息するため、薬剤が株元に十分到達するように散布する。粒剤は、有効成分が根から吸収されるため、効果が現れるまで時間がかかる。
 - 5) 薬剤散布にあたっては、各農薬の使用基準を遵守する。収穫期が近い場合は、特に使用時期（収穫前日数）に注意するとともに、周辺ほ場への飛散防止に努める。
 - 6) 防除薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

表1 トビイロウンカの発生状況（令和2年8月上～中旬） 25株あたり虫数（頭）

地域	調査地点	幼虫	成虫	計	（平年）
県北部	和歌山市 谷	0	2	2	
	和歌山市 直川	2	1	3	
	和歌山市 和佐関戸	0	7	7	
	和歌山市 朝日	0	2	2	
	和歌山市 小瀬田	0	4	4	
	海南市 別院	1	7	8	
	海南市 次ヶ谷	1	2	3	
	紀美野町 福田	0	0	0	
	紀の川市 丸栖	0	0	0	
	紀の川市 井田	0	2	2	
	紀の川市 西三谷	0	0	0	
	岩出市 中迫	1	9	10	
	橋本市 山田	1	0	1	
	橋本市 赤塚	0	0	0	
	かつらぎ町 下天野	0	0	0	
	かつらぎ町 西飯降	0	1	1	
	広川町 広	0	0	0	
	平均			2.5	(0.4)
県中部	御坊市 野口	0	1	1	
	日高町 高家	9	0	9	
	印南町 印南原	1	1	2	
	みなべ町 西本庄	36	3	39	
	日高川町 和佐	5	1	6	
	日高川町 熊野川	9	0	9	
	田辺市 甲斐ノ川	28	11	39	
	平均			15.0	(1.5)

注)ほ場における払い落とし調査

表2 トビイロウンカ発生状況の推移（8月上～中旬）

	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	平年	
県北部	発生ほ場率（％）	29	18	12	18	0	0	0	12	0	12	65	10
	25株当たり虫数（頭）	1.4	0.2	0.1	1.5	0	0	0	0.4	0	0.2	2.5	0.4
県中部	発生ほ場率（％）	0	43	14	14	14	0	14	0	0	71	100	17
	25株当たり虫数（頭）	0	0.6	0.4	0.1	0.4	0	0.1	0	0	12.9	15.0	1.5

注)ほ場における払い落とし調査（調査ほ場数：県北部17、県中部7）



図1：トビイロウンカ成虫
長翅型(左)、短翅型(右)



図2：トビイロウンカによる坪枯れ被害
(令和元年9月、和歌山市)

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300

令和2年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トビイロウンカ
2. 対象作物：水稲
3. 対象地域：県北部および中部
4. 発生量：多
5. 注意報発表の根拠

トビイロウンカについては8月14日付けで病害虫発生予察注意報（第1号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり多発傾向が継続している。

- 1) 9月上旬の県北部における発生ほ場率は88%（平年14%）、25株あたり成・幼虫数は90.9頭（平年3.0頭）、県中部における発生ほ場率は100%（平年29%）、25株あたり成・幼虫数は15.6頭（平年1.7頭）で、いずれも過去10年間と比べて最も多い（表1、2）。
- 2) 各地で坪枯れの発生が散見されており（図1）、今後拡大すると予想される。

※坪枯れ：トビイロウンカが株元に多数生息し、吸汁することによりイネ株が枯死して円形状に枯れ上がり、次第に広がる。

6. 防除上の注意事項

- 1) トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場全体をよく観察する必要がある。
- 2) 1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。すでに防除を行ったほ場でも防除効果が不十分な場合があるので、再度発生状況を確認する。
- 3) 本種はイミダクロプリド剤、チアメトキサム剤、クロチアニジン剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
- 4) 本種は株元に生息するため、粉剤、液剤の場合は、高圧で散布する、噴口を株際に入れる等して薬剤が株元に十分到達するように散布する。粒剤は、有効成分が根から吸収されるため、効果が現れるまで時間がかかる。
- 5) 発生の多いほ場でも1週間以内に収穫予定の場合は、薬剤散布を行わず早めに刈り取る。
- 6) 農薬の使用基準を遵守し、危害防止に努めること。収穫間近の防除になるので、薬剤の使用基準（収穫前日数）に注意するとともに、周辺ほ場への飛散防止に努める。
- 7) 防除薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

表1 トビイロウンカの発生状況(令和2年9月上旬) 25株あたり虫数(頭)

地域	調査地点	幼虫	成虫	計	(平年)
県北部	和歌山市 谷	51	81	132	
	和歌山市 直川	18	45	63	
	和歌山市 和佐関戸	1	15	16	
	和歌山市 朝日	16	85	101	
	和歌山市 小瀬田	46	30	76	
	海南市 別院	0	0	0	
	海南市 次ヶ谷	6	100	106	
	紀美野町 福田	2	62	64	
	紀の川市 丸栖	2	2	4	
	紀の川市 井田	19	61	80	
	紀の川市 西三谷	1	21	22	
	岩出市 中迫	36	131	167	
	橋本市 山田	39	116	155	
	橋本市 赤塚	35	50	85	
	かつらぎ町 下天野	107	125	232	
	かつらぎ町 西飯降	143	100	243	
	広川町 広	0	0	0	
平均				90.9	(3.0)
県中部	御坊市 野口	1	3	4	
	日高町 高家	1	2	3	
	印南町 印南原	10	15	25	
	みなべ町 西本庄	11	11	22	
	日高川町 和佐	13	4	17	
	日高川町 熊野川	0	10	10	
	田辺市 甲斐ノ川	4	24	28	
	平均				15.6

注) ほ場における払い落とし調査

表2 トビイロウンカの発生状況(平成22～令和2年、9月上旬)

	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	平年
県北部 発生ほ場率 (%)	12	0	0	82	12	6	6	12	0	12	88	14
県北部 25株当たり虫数(頭)	0.9	0	0	25.0	0.2	3.4	0.1	0.2	0	0.2	90.9	3.0
県中部 発生ほ場率 (%)	14	-	14	86	57	29	0	0	0	86	100	29
県中部 25株当たり虫数(頭)	1.3	-	0.1	6.9	2.1	1.4	0	0	0	3.0	15.6	1.7

注1) ほ場における払い落とし調査(調査ほ場数: 県北部17、県中部7)

注2) 平成23年は県中部の調査を実施していない



図1 トビイロウンカによる坪枯れ被害
(9月8日、左: 円形状のもの、右: ほ場の全面に広がったもの)

和歌山県農作物病害虫防除所
電話: 0736(64)2300

令和3年3月8日

令和2年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：タマネギべと病
2. 対象作物：タマネギ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 発生時期：2～6月
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 3月上旬の県北部におけるタマネギべと病越年罹病株(写真1)の発生ほ場率は10%、発病株率0.09%と、3月中～下旬の平年(発生ほ場率6%、発病株率0.04%)に比べて高い(表1)。
 - 2) 3月4日に大阪管区気象台より発表された1か月予報(3月6日～4月5日)では、平均気温は高い確率70%、降水量は近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%と予想されており、本病の発生を助長する気象条件である。

表1 3月上旬の県北部におけるタマネギべと病越年罹病株の発生状況

	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	平年	令和3年 (本年)
発生ほ場率(%)	3	3	11	3	7	0	8	9	6	10	6	10
発病株率(%)	0.01	0.04	0.03	0.01	0.01	0	0.07	0.03	0.05	0.12	0.04	0.09

注) 調査場所: 和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町
平年: 平成23～令和2年の3月中～下旬における調査の平均

7. 防除上の注意事項
 - 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすいので注意する。
 - 2) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。抜き取った株は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。
 - 3) 孢子飛散による感染拡大を防ぐため、発生が認められないほ場においても早期からの予防散布を徹底する。越年罹病株、二次感染株(写真2)が認められた場合は早急に薬剤散布を行う。
 - 4) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
 - 5) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
 - 6) 防除薬剤は最新の登録情報(独)農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所

電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病越冬罹病株



写真2 タマネギベと病二次感染株の病斑

3) 防除技術情報

令和2年5月20日

令和2年度病虫害防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病虫害防除所

クビアカツヤカミキリの発生状況と防除対策について

令和2年5月12日、クビアカツヤカミキリ（図1）による被害が、新たに岩出市でも確認されました。また、これまでに被害が確認されていたかつらぎ町内の被害本数も増加しています。本種は産卵数が多く、1000個を超える個体も報告されています。急速な被害の拡大が懸念されますので、果樹園内の見回りを実施するとともに防除対策を徹底してください。

1. 対象地域：県北部

2. 対象作物 モモ、スモモ

3. 発生時期

- 1) 幼虫の加害によるフラス（糞と木くずが混ざったもの）の発生時期 4～10月
- 2) 成虫の発生時期 6～8月

4. 発生状況

令和2年5月15日現在、かつらぎ町内のモモ14本、スモモ10本、岩出市内のモモ2本の合計26本で被害が確認されている（表1）。

表1 令和2年5月15日現在の被害状況

地区	品目	園地数	被害本数
かつらぎ町	モモ	5	14
	スモモ	2	10
岩出市	モモ	1	2
計		8	26

5. 本種の特徴

1) 生態

成虫は幹や枝の樹皮表面や割れ目などに産卵し、孵化した幼虫が樹木内へ食入する。食入した幼虫はフラスを出しながら樹木内を食害する。幼虫は春に蛹化後、6～8月に羽化し樹外へ脱出する。

2) 加害植物

モモ、スモモで被害が発生している。その他、ウメやサクラ等を加害する。

3) 被害の特徴

幼虫が幹や枝の内部を食い荒らし、樹勢を低下させ、やがて枯死させる。フラスは幼虫が樹皮に穿孔し排糞することにより排出される。発生初期には直径3～5mm程度のミンチ状のフラスが少量排出されるが（図2）、被害が甚大な樹ではフラスが株元に大量に溜まる（図3）。食入部位は、地表に現れた太い根から高さ2m程度までに多い。ただし、直径6cm程度の枝にも被害が確認される。

6. 防除対策

果樹園内を定期的に見回り、できるだけ早期に被害を発見し対策を行う。防除は、捕殺や薬剤防除等、適切な防除手段を組み合わせる。

- 1) 幼虫は、千枚通しで樹皮をめくり、掘り取って捕殺する。捕殺が難しい場合は、千枚通しや針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してからスプレー型の農薬を注入する。
- 2) 成虫は、見つけ次第捕殺する。また、成虫活動期の6～8月に、主に幹や枝を狙って農薬を散布する。
- 3) 被害樹には、成虫の分散防止のため羽化期（6～8月）に、被害部を中心に目合い4mm以下のネットを巻き付ける。ただし、ネット内部での交尾・産卵や、ネットを切断し隙間から脱出する場合もあるので、ネット設置後も頻繁に見回りを行い捕殺する必要がある。また、ネットを樹幹に密着させると成虫がネットをかみ切るため、ネットを二重にして、樹幹との間に余裕を持たせる。
- 4) 被害が激しい樹は幼虫を全滅させるのが困難であり、早期の枯死が予想されるため、成虫脱出時期以外の9月～翌年4月に被害木を伐採（抜根）し、被害拡大を防止する。この場合、本種は特定外来生物に指定されているため、保管や移動に規制がかかるので注意する。伐採樹の処理は、発生園地内において法令等に従い適切に処分する。
- 5) 栽培園地内で本種成虫や上記の被害を見つけた場合には、直ちに農作物病虫害防除所もしくは管轄する各振興局農業水産振興課に連絡する。



図1. 成虫（大阪市立自然史博物館 提供）



図2. 食入孔からのフラス（発生初期）



図3. 株元に溜まった大量のフラス

クビアカツヤカミキリを対象にモモで使用可能な農薬（令和2年5月15日現在）

【幼虫を対象としたもの】

農薬の種類	農薬の名称	適用作物名
フェンプロパトリンエアゾル	ロビンフッド、 ベニカカミキリムシエアゾル	うめ、もも、おうとう、果樹類 *1、樹木類
スタイナーネマ カーポカプサエ剤	バイオセーフ	もも、うめ、食用さくら（葉）、 さくら

*1かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう（種子）、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く

【成虫を対象としたもの】

農薬の種類	農薬の名称	適用作物名
ボーベリア ブロンニアテ イ剤	バイオリサ・カミ キリ	果樹類、さくら、食用さくら（葉）
チアメトキサム水溶剤	アクタラ顆粒水溶 剤	もも、ネクタリン、おうとう、小粒核果類 *2、うめ
アセタミプリド水溶剤	モスピラン顆粒水 溶剤	小粒核果類*3、もも、うめ、すもも、さ くら
DMTP乳剤	スプラサイドM	もも
DMTP水和剤	スプラサイド水和 剤	もも、うめ、すもも
シクラニプロール液剤	テッパン液剤	もも、すもも

*2うめを除く、*3うめ、すももを除く

【防除薬剤については以下も参照ください】

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

和歌山県農作物病虫害防除所（紀の川駐在）
電話：0736(73)2274

令和2年5月22日

令和2年度病虫害防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病虫害防除所

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ）の発生に注意して下さい

1. 病虫害名 ツヤアオカメムシ
2. 対象作物 ウメ、スモモ
3. 対象地域 日高地域、西牟婁地域
4. 加害期間 5月上旬～
5. 発生状況

- 1) みなべ町東本庄の予察灯における4月下旬のツヤアオカメムシの誘殺数は143頭(平年74.6頭)とやや多く、5月上旬の誘殺数は1,462頭(平年357.4頭)と多かったが、5月中旬の誘殺数は785頭(平年1,028.8頭)と、5月上旬に比べて減少した(表1)。
- 2) 日高、西牟婁地域でツヤアオカメムシの発生が多くみられるウメ園地が確認されている。

表1 みなべ町の予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺数(単位:頭)

調査年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	平年
4月下旬	4	1	9	0	12	124	44	0	200	352	143	74.6
5月上旬	535	29	247	2	600	239	173	146	1,574	29	1,462	357.4
5月中旬	71	35	10	62	2,267	1,491	126	81	5,776	369	785	1028.8

6. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- 2) ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。スモモでは山林に隣接する園地でカメムシ類の飛来する時期が早いので、このような園地では特に注意が必要である。
- 3) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>)や各地域の振興局、JA等の情報を参考にする。
- 4) 農薬については、(独)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の農薬登録情報提供システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)を参照し、適正に使用する。

担当：農作物病虫害防除所 みなべ駐在 (0739-74-3780)

紀の川駐在 (0736-73-2274)

令和2年度病害虫防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

トビイロウンカ、セジロウンカの飛来状況について

I. トビイロウンカ

1. 対象作物 水稻
2. 対象地域 県内全域
3. 飛来状況

6月上旬から7月中旬の予察灯によるトビイロウンカの誘殺数は、紀の川市12頭（平年0.7頭）、上富田町157頭（平年0.7頭）、那智勝浦町172頭（平年3.2頭）で、いずれも平年と比べて多く、坪枯れ被害（図1）が多発した前年と比べても多い。

表1 県内設置の予察灯によるトビイロウンカの誘殺数(頭)

		6月			7月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
紀の川市	本年	0	0	0	4	8
	前年	0	0	1	0	1
	平年	0	0.1	0.1	0.1	0.4
上富田町	本年	0	2	4	143	8
	前年	0	0	0	1	2
	平年	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
那智勝浦町	本年	0	2	2	126	42
	前年	1	0	9	1	2
	平年	0.1	0.2	1	0.9	1

4. 防除上の注意事項

- 1) トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
- 2) 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも今後高密度となり、坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認した場合は、速やかに薬剤防除を実施する。
- 3) 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。
- 4) 本種はイミダクロプリド剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
- 5) 農薬については、（独）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の農薬登録情報提供システム（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。



図1: トビイロウンカによる坪枯れ被害(令和元年9月、和歌山市)

II. セジロウンカ

1. 対象作物 水稻
2. 対象地域 県内全域
3. 飛来状況

6月上旬から7月中旬の予察灯によるセジロウンカの誘殺数は、紀の川市 20 頭（平年 83.7 頭）、上富田町 499 頭（平年 82.3 頭）、那智勝浦町 182 頭（平年 87.9 頭）で、2 地点において平年と比べて多い。

表 2 県内設置の予察灯によるセジロウンカの誘殺数(頭)

		6月			7月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
紀の川市	本年	0	0	0	15	5
	前年	1	0	0	0	4
	平年	0.2	29.9	29.2	12.9	11.5
上富田町	本年	0	2	16	346	117
	前年	1	0	4	0	6
	平年	1.4	0.1	30.1	21.2	6.5
那智勝浦町	本年	0	12	1	139	30
	前年	0	1	10	12	15
	平年	0.2	0.2	9.6	40.6	21.8

4. 防除上の注意事項

- 1) セジロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
- 2) 定期的にはほ場を確認し、1株あたり10頭以上の成・幼虫を確認した場合は、速やかに薬剤防除を実施する。
- 3) 本種はフィプロニル剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
- 4) その他農薬の使用については、トビイロウンカの項に準ずる。

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300

病虫害発生予報 第1号(4月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

＜予報の概要＞

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	並 少	野菜全般	灰色かび病 アザミウマ類	並 並
タマネギ	白色疫病 べと病	並 多	カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ	やや多 並 やや少
エンドウ	褐紋病 うどんこ病	やや多 並			カキ
キャベツ	コナガ	並	ウメ	かいよう病	並
キュウリ	べと病 褐斑病	やや多 やや多	果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報(予報期間 3月21日～4月20日 大阪管区气象台)

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

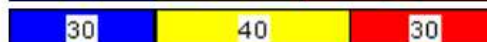
【気温】近畿地方



【降水量】近畿地方



【日照時間】近畿地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (℃)	月降水量(平年値) (mm)
4月	和歌山 14.9	和歌山 100.3
	潮岬 15.6	潮岬 212.7

I. 水 稲

1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並
発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月中旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市2.5頭、成虫率30%（平年12.1頭、成虫率53%）、紀の川市4.8頭、成虫率42%（平年9.3頭、成虫率41%）、かつらぎ町6.8頭、成虫率48%（平年5.4頭、成虫率34%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病ウイルスを媒介する。イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、休閑田や雑草地付近での育苗を避ける。
- ② は種時(覆土前)～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。
- ③ 田植え前から作期を通して、ヒメトビウンカの生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 並
発生量 少

(2) 予報の根拠

① 3月中旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0頭（平年4.4頭、成虫率47%）、紀の川市0頭（平年0.2頭、成虫率17%）、かつらぎ町2.5頭、成虫率50%（平年22.2頭、成虫率41%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① は種時(覆土前)～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は23%（平年24%）、発病株率は0.6%（平年2.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に偏りがみられることがあるので、ほ場全体を見回り発病が集中しているところは特に丁寧に薬剤散布を行う。
- ② 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部での3月中旬の越年罹病株の発生ほ場率は10%（平年6%）、発病株率は0.12%（平年0.04%）であった。二次感染株の発生ほ場率は17%（平年6%）、発病株率は0.58%（平年0.10%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年の発生が多かったほ場では、本年も発生しやすいので注意する。
- ② ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株の発病葉についても、出来るだけ除去する。抜き取った株や除去した葉は袋に入れ、ほ場外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布

を行う。

- ③ 発病が認められないほ場においても予防散布を徹底する。
- ④ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
- ⑤ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
- ⑥ 令和元年度病害虫発生予察注意報第5号（令和2年3月19日発表）を参照する。

＜エンドウ＞

1. 褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における3月中旬の発生ほ場率は53%（過去8年の平均28%）、発病葉率は1.2%（過去8年の平均1.8%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 雨が多いと多発するので薬剤散布は早めに行う。
- ② 多湿条件で発病が助長されるので、排水対策や通風対策に努める。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培での3月中旬の発生ほ場率は0%（平年3%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期から薬剤防除を行う。

＜キャベツ＞

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、1株当たり発生密度0.0頭）であった。
- ② フェロモントラップによる3月1～20日の誘殺数は、紀の川市2頭（平年7.1頭）、和歌山市17頭（過去8年の平均17.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ジアミド系、IGR剤などの薬剤は殺虫効果の低下が認められている。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は連用しない。

＜キュウリ＞

1. ベと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は30%（過去8年の平均24%）、発病葉率は12.7%（過去8年の平均2.9%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
- ② 病原菌は気孔から侵入するので、薬液は葉の表裏にムラなくかかるように散布する。
- ③ 肥効が低下したり草勢が衰えたりすると発病が助長されるので、適切な

肥培管理に努める。

- ④ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長させるので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

2. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は40%（過去6年の平均41%）、発病葉率は12.9%（過去6年の平均5.9%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。

② 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長させるので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

③ ポスカリド剤、チオファネートメチル剤、アゾキシストロビン剤に対する感受性の低下菌が認められている。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は10%（平年2%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトでの3月中旬の発生ほ場率は0%（過去4年の平均7%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。

② 発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長させるので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培イチゴでの3月中旬の発生ほ場率は、ヒラズハナアザミウマ17%（過去4年の平均11%）、ミカンキイロアザミウマ0%（平年0%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は、ミナミキイロアザミウマ0%（過去6年の平均22%）、ミカンキイロアザミウマ0%（過去6年の平均3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 初発日 5月11～20日（やや早）

発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の発芽期は3月24日（平年：4月6日）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は13.3%（平年10.2%）であった。
- ③ 前年10月中旬の春葉発病の発生園率は34%（平年17%）、発病葉率は0.7%（平年0.7%）であった。
- ④ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風施設の整備に努める。
- ② 発芽前の薬剤防除ができなかった園では、新梢伸長期に銅水和剤（薬害軽減のための措置を講じる）を散布する。

2. そうか病

- (1) 予報内容 発生時期 やや早
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の発芽期は3月24日（平年：4月6日）であった。
- ② 前年10月中旬のウンシュウミカンにおける果実発病の発生園率は3%（平年3%）であった。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における3月中旬の発生葉率は、無防除区2.2%（平年3.8%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0%（平年0%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が問題となるため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

＜カ キ＞

1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の「富有」の発生園率は82%（平年79%）、発病葉率は14.9%（平年22.3%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

<ウ　　メ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容　　発生量　並
- (2) 予報の根拠
 - ① 3月上旬の予察ほ場（無防除、みなべ町東本庄）での2年生枝の潜伏越冬病斑形成枝率は0.4%（過去3年の平均2.1%）であった。
 - ② 県南部（みなべ町、田辺市）の前年6月上旬の発生ほ場率は44.1%（平年53.8%）、発病果率は2.0%（平年2.8%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
 - ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

<果樹全般>

1. カメモシ類

- (1) 予報内容　　発生量　やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県内47地点のチャバネアオカメモシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50リットル当たり0.2頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は13.0%（前年6.4%、平年22.5%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 果樹カメモシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - ② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
 - ③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
 - ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
 - ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメモシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ　<農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ　<わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病虫害発生予報 第2号(5月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

予報の概要

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症 ばか苗病 いもち病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ	並 並 や や 少 少 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 黒点病 灰色かび病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ	やや多 並 並 並 並 並 やや少
			タマネギ	灰色かび病 べと病	並 並
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	並 並 や や 少	カキ	うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 チャノキイロアザミウマ	並 並 並 並
			モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	並 やや少
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 アザミウマ類	並 並 や や 少	キウイフルーツ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間 4月25日～5月24日 大阪管区气象台）

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の変動が大きく、2週目は気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>




向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

【気温】近畿地方	
【降水量】近畿地方	
【日照時間】近畿地方	

凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

	月平均気温(平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
5月	和歌山 19.3	和歌山 150.0
	潮岬 19.2	潮岬 249.0

I. 水 稲

1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は0%（平年3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病は場から採種した種子は使用しない。
- ② 種子消毒を行う。

2. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は0%（平年3%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

3. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

4. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生時期 早 発生量 やや少
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市で3.0頭（平年12.2頭）、紀の川市で4.0頭（平年9.2頭）、かつらぎ町で0.8頭（平年4.6頭）であった。

② 越冬世代の50%成虫化時期は、紀の川市で3月14日（平年3月21日）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.1%（平年8.8%）、かつらぎ町4.0%（平年11.0%）であった。

④ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年12%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における20回振りすくい取り調査による平均生息数は、和歌山市4.3頭（平年17.4頭）、紀の川市で8.5頭（平年4.4頭）、かつらぎ町で42.0頭（平年37.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 那智勝浦町での予察灯による4月1～20日の誘殺数は0頭（平成0.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。
- ② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。
- ② 罹病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の二次感染株の発生ほ場率は23%（平成25%）、発病株率は0.7%（平成1.5%）であった。

- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場をこまめに見回り、発病葉を出来るだけ除去する。除去した葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分し、早急に薬剤散布を行う。
- ② 発病が認められないほ場においても予防散布を徹底する。
- ③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。
- ④ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
- ⑤ 収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。
- ⑥ 令和元年度病害虫発生予察注意報第5号（令和2年3月19日発表）を参照する。

<キュウリ>

1. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は31%（過去8年の平均29%）であった。

- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は60%（平成43%）であった。

- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均0%）であった。

② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は70%（平年69%）であった。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とローテーション散布する。

3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は8%（過去8年の平均4%）であった。

② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は20%（過去4年の平均71%）であった。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。

③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

< 野菜全般 >

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のキャベツにおける4月中旬の発生株率は、モモアカアブラムシ0.9%（平年12.3%）、ニセダイコンアブラムシ0%（平年0.3%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は20%（過去6年の平均12%）であった。

③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は50%（過去5年の平均33%）であった。

④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、62頭（平年80.1頭）であった。

⑤ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率38%（平年38%）、発生葉率5.6%（平年13.8%）、カンザワハダニは発生ほ場率13%（平年27%）、発生葉率0.6%（平年6.1%）であった。

② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率

は80%（過去5年の平均64%）、1葉当たりの生息密度は0.2頭（過去5年の平均0.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

3. アザミウマ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率13%（過去4年の平均69%）、1花当たり生息密度0.0頭（過去4年の平均1.1頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%（平年15%）、1花当たりの生息密度0頭（平年0.1頭）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率20%（過去6年の平均39%）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率10%（過去6年の平均3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生時期 並（初発日の平年5月22日）
発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月23日（平年4月24日）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は13.3%（平年10.2%）であった。
- ③ 前年10月中旬の春葉発病の発生ほ場率は34%（平年17%）、発病葉率は0.7%（平年0.7%）であった。
- ④ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。
- ② 罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 並
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月23日（平年4月24日）であった。
- ② 前年10月中旬のウンシュウミカンにおける果実発病の発生ほ場率は3%（平年3%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園や前年多発園は発芽直後の防除を基本とするが、発芽直後に防除できなかった場合は早急に散布を行う。
- ② その他の園では満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病に

も適用のある薬剤を用いる。

3. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 (初期感染) 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹上及び園内外に放置された枯枝が伝染源となるため早急に処分する。

4. 灰色かび病 (開花期)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発園では満開期に防除を行う。
 - ② 開花期～落弁期に曇雨天が続くと発生が助長されるので、必要に応じて防除する。

5. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場 (無防除、有田川町奥) における4月中旬の発生葉率は1.1% (平年2.1%) で、マシン油乳剤を散布している慣行防除園における発生葉率は0% (平年0%) であった。
 - ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していない園では、夏用マシン油乳剤200倍の散布を行う。

6. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生時期 並
発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月中旬の発生ほ場率は7% (平年5%)、寄生果率は0.2% (平年0.4%) であった。
 - ② 予察式によると、第1世代1齢幼虫初発日は5月15日 (平年5月16日) と予想される。
 - ③ 5月の気象予報による。

7. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場 (無防除、由良町) における4月1～20日の黄色粘着トラップによる越冬成虫の誘殺数は7頭 (平年16.5頭) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イヌマキやサンゴジュなど防風樹近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

<カ キ>

1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の「富有」の発生ほ場率は82%（平成79%）、発病葉率は14.9%（平成22.3%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬剤は葉裏をねらって丁寧に散布する。

2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は47%（平成44%）、発病葉率は4.1%（平成5.6%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
- ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は88%（平成65%）、発病葉率は9.0%（平成13.1%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
- ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における4月1～20日の黄色粘着トラップによる誘殺数は0頭（平成5.3頭）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 落弁期を中心に防除する。
- ② イヌマキやサンゴジュなど防風樹の近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤散布を行う。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（平成14%）、発病葉率は0%（平成0.4%）、発病枝の発生ほ場率は0%（平成24%）、発病枝率は

は0%（平年1.2%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。

② 果実発病は、5月以降の風雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。

③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ雌成虫寄生枝の発生ほ場率は30%（平年30%）、寄生枝率は0.8%（平年1.7%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し前に薬剤散布を実施する。

② 近年の県北部のふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが5月1～5日、クワシロカイガラムシが5月中旬頃である。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（前年0%）であった。なお、樹液の漏出や、新梢のしおれや芽枯れの症状は見られなかった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。

② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。

③ 風当たりの強い園では、防風対策を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50リットル当たり0.2頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は13.0%（前年6.4%、平年22.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。

③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して

- 加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。
 - ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病虫害発生予報 第3号(6月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

＜予報の概要＞

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	いもち病 ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ イネミズゾウムシ	並並 やや少 並並 並並	カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ アブラムシ類	並 やや多 並 並 並 やや多
ウリ科野菜	モザイク病 べと病 褐斑病 うどんこ病 疫病 つる枯病 炭疽病	並 やや多 やや少 並並 並並	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	並 やや少
			野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並並 並並 やや少 並
果樹全般	カメムシ類	やや多			

気象予報

1か月予報（予報期間 5月23日～6月22日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気温】近畿地方



【降水量】近畿地方



【日照時間】近畿地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (°C)	月降水量(平年値) (mm)
6月	和歌山 23.0	和歌山 188.6
	潮岬 22.1	潮岬 351.9

I. 水 稲

1. いもち病（苗いもち、葉いもち）

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 6月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続く条件で発生しやすい。

② 県南部の早植え地域の常発地では気象条件に注意し、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③ 県北部、県中部の普通期栽培地域では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」などの罹病性品種を作付けする場合には育苗箱施薬剤を施用する。

④ 田植え後の余り苗を水田に放置しない。

2. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

（1）予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並

縞葉枯病 発生量 やや少

（2）予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0.1頭、那智勝浦町0.2頭）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.1%（平年8.8%）、かつらぎ町4.0%（平年11.0%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年12%）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

③ 第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

3. ツマグロヨコバイ

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0.2頭、那智勝浦町0頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にツマグロヨコバイに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

4. セジロウンカ

（1）予報内容 発生時期 並 発生量 並

（2）予報の根拠

① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（平年の5月1～20日の誘殺数：紀の川市0頭、上富田町0.2頭、那智勝浦町0.4頭。初飛来の平年：5月29日）。

（3）防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にセジロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
- ② フィプロニル剤に対する感受性低下が報告されている。

5. トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（平年の5月1～20日の誘殺数：いずれの予察灯も0頭。初飛来の平年：6月28日）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 田植え時にトビイロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
 - ② イミダクロプリド剤に対する感受性低下が報告されている。

6. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町56頭（平年25.7頭）、那智勝浦町8頭（平年16.9頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を越える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

II. 野 菜

<ウリ科野菜>

1. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（キュウリ：平年3%、スイカ：過去9年の平均0%）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：いずれも0%）であった。
 - ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① アブラムシ類の防除を行う。

2. べと病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は38%（平年40%）、発病葉率は4.3%（平年5.7%）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は67%（平年58%）、発病葉率は25.5%（平年12.7%）であった。
 - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は15%（平成6%）、発病葉率は0.8%（平成0.3%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は17%（過去4年の平均78%）、発病葉率は3.5%（過去4年の平均19.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。

③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

4. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は23%（平成19%）、発病葉率は1.6%（平成1.6%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は67%（平成86%）、発病葉率は17.3%（平成27.0%）であった。

③ 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

④ 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

⑤ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培やトンネル栽培では風通しを良くし、薬剤防除は薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

5. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。

② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

6. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

7. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 6月以降の露地条件で降雨が続くと、病斑上の胞子が雨滴などで飛散するため被害が拡大しやすい。降雨前の予防散布に努める。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%（平成0.6%）、ワタアブラムシ0%（平成0.1%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は63%（平成59%）、生息葉率は0.0%（平成5.5%）であった。
- ③ 黄色水盤（紀の川市）の5月1～20日の飛来数は204頭（平成168頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は22%（平成13%）、生息葉率は1.3%（平成1.5%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は88%（平成68%）、生息葉率は5.0%（平成12.2%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率25%、生息葉率4.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は22%（平成27%）、生息葉率は1.3%（平成7.1%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は75%（過去6年の平均46%）、生息葉率は10.3%（過去6年の平均4.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率5%、生息葉率0.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率8%、生息葉率1.0%）であった。
- ③ 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均：発生ほ場率19%、生息葉率2.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成6%）、生息葉率は0%（平成0.2%）であった。
- ② フェロモントラップによる5月1～20日の誘殺数は、紀の川市2頭（平成3.2頭）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 5月下旬までに薬剤散布を実施していないほ場では早急（6月上旬）に防除を行う。
- ② マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、1回目散布後の累積降水量が250mm程度となった時点で次の散布を行う。
- ③ 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は13.3%（平年10.2%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）において、春葉での初発は5月20日（平年5月22日）であった。
- ③ 前年10月中旬の春葉発病の発生ほ場率は34%（平年17%）、発病葉率は0.7%（平年0.7%）であった。
- ④ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 銅水和剤の予防散布を行う。散布時には薬害軽減の策を講じる。
- ② 罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月中旬の100葉あたりの雌成虫数は、予察ほ場（無防除、有田川町奥）では1.1頭（平年23.8頭、多発年であった令和元年のデータを除いた過去9年の平均0.7頭）、マシン油乳剤を散布している慣行防除園では0頭（平年0頭）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行うと高い防除効果が得られる。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 やや早

第1世代 1 齢幼虫最盛期 5月26～30日

同 2 齢幼虫最盛期 6月17～27日

同 雌成虫初発日 6月20～24日

発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）での第1世代1齢幼虫の初発は5月13日（平年5月16日）であった。
- ② 前年10月における発生ほ場率は7%（平年5%）、寄生果率は0.2%（平年0.4%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多発ほ場では、2齢幼虫最盛期にネオニコチノイド系や有機リン系等の殺虫剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、由良町）における黄色粘着トラップによる5月11～20日の誘殺数は31頭（平年30.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果を参考に、適期防除に努める。

6. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）では5月中旬の寄生新梢率は7.0%（過去6年の平均1.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 各ほ場の発生状況を把握し、適期防除に努める。

<カキ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は24%（平成11%）、発病葉率は0.2%（平成0.3%）であった。

- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 伝染源となる病斑上の病原菌は、6月以降活発に形成され伝染を繰り返す。病原菌は葉裏の気孔から侵入するため、薬剤防除にあたっては葉裏にも丁寧に薬液を散布する。

2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は47%（平成44%）、発病葉率は4.1%（平成5.6%）であった。

- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌の飛散は5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

- ② 5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は88%（平成65%）、発病葉率は9.0%（平成13.1%）であった。

- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。また、病斑上に新たに形成された胞子により、8月中旬以降に二次感染を繰り返す。

- ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

4. カキクダアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1日～5月20日の誘殺数は0頭（平成9.4頭）であった。

- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1日～5月20日の誘殺数は3頭（平成9.3頭）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月中下旬である。

6. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率17%、寄生花蕾率0.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期である6月上中旬に薬剤を散布する。多発園では薬液を丁寧に散布する。

<モモ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発生ほ場率は80%（平成59%）、発病葉率は3.1%（平成2.7%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風ネット、防風樹の設置などの防風対策を励行する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ雌成虫寄生枝の発生ほ場率は0%（平成15%）、寄生枝率は0%（平成1.4%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し前に薬液を散布する。
- ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃である。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬のPsa3系統の発生ほ場率は0%（前年2%）で

あった。前年に発生が認められた耕作放棄園でも葉の発病は認められなかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
- ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。
- ③ 風当たりの強い園では、防風対策を行う。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯での5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが67頭（前年0頭、過去9年の平均152頭）、ツヤアオカメムシが191頭（前年11頭、過去9年の平均56頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯での5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが3頭（前年0頭、過去6年の平均152頭）、ツヤアオカメムシが285頭（前年15頭、過去6年の平均405頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯での5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが104頭（前年80頭、平年223頭）、ツヤアオカメムシが2,247頭（前年398頭、平年1,386頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きいので、園内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。スモモでは山林に隣接する園地でカメムシ類の飛来する時期が早いので、このような園地では特に注意が必要である。
- ③ 今後の発生動向については、農業・環境鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ④ 令和2年度病虫害防除技術情報第2号（5月22日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第4号(7月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 縞葉枯病 ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	やや少 並 やや少 並 やや少 並 並	野菜全般	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	やや少 やや少 並
			カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ	並 やや少 並 並 並
ウリ科野菜	疫病 うどんこ病 つる枯病 炭疽病	並 並 並 やや少	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 並 並 並 並
ナス科野菜	疫病	やや少	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	並 並
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類	並 <small>県北部 並 県中部 やや多</small>	果樹全般	カメムシ類	並

気象予報

1か月予報（予報期間 6月20日～7月19日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

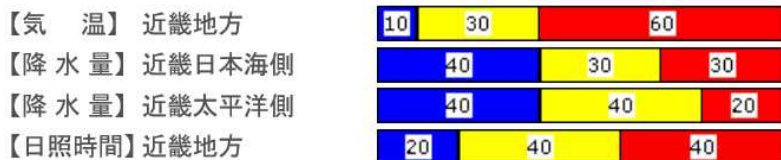
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

		月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
7	月	和歌山 27.0	和歌山 144.9
		潮 岬 25.4	潮 岬 290.6

I. 水 稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月上旬の発病株率は0%(平年0.1%)であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 低温、日照不足、長雨が続くと発生しやすい。
- ② 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。
- ③ 常発地および「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」等の罹病性品種では発病しやすいので初発時期に注意し、発生がみられたら直ちに薬剤防除する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月上旬の発病株率は0%(平年0%)であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における前年9月上旬の発病株率は7.8%(平年19.6%)であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月上旬の発病株率は0%(平年0%)であった。
- ② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%(平年12%)であった。
- ③ 県北部におけるヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市4.1%(平年8.8%)、かつらぎ町4.0%(平年11.0%)であった。
- ④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカの防除を行う。
- ② 第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月上旬の25株あたり生息密度は0頭(平年0.2頭)であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭(平年2.1頭)、上富田町1頭(平年0.4頭)、那智勝浦町0頭(平年1.4頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、縞葉枯病の発生が認められる地域以外は7月の防除は必要としない。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月上旬の25株あたり生息密度は0.2頭（平成0.5頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市13頭（平成2.8頭）、上富田町0頭（平成28.9頭）、那智勝浦町0頭（平成15.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は必要としない。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月上旬の25株あたり生息密度は0頭（平成5.0頭）であった。
- ② 予察灯への初飛来は、上富田町6月14日（平成6月15日）、那智勝浦町5月27日（平成6月13日）であった。紀の川市では6月20日現在、飛来を認めていない（初飛来は平成6月24日）。
- ③ 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成30.1頭）、上富田町20頭（平成24.5頭）、那智勝浦町12頭（平成15.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ツマグロヨコバイに準ずる。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月上旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0頭）であった。
- ② 予察灯への初飛来は、上富田町6月17日（平成7月6日）、那智勝浦町6月13日（平成7月1日）であった。紀の川市では6月20日現在、飛来を認めていない（初飛来は平成7月21日）。
- ③ 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0.1頭）、上富田町2頭（平成0.2頭）、那智勝浦町2頭（平成0.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ツマグロヨコバイに準ずる。

8. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月上旬の25株あたり被害葉数は0葉（平成0葉）であった。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による6月1～20日の誘殺数は0頭（平成0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は平成7月下旬頃である。防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾最盛期の7日後）である。

- ② 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

Ⅱ. 野 菜

<ウリ科野菜>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均2%）であった。
- ③ 県北部の施設栽培キュウリにおける6月中旬の発生ほ場率は31%（平成26%）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

3. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成8%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

4. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均8%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均15%）であった。

- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病した茎葉や果実は、ほ場外に持ち出す。
 - ② 降雨日が連続すると多発する可能性があるため、長雨が予想される場合は予防散布を実施する。

<ナス科野菜>

1. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去6年の平均0%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培ミニトマトにおける6月下旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均6%）であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨前の予防散布に努める。予防散布ができなかった場合は降雨後に早急に防除する。
 - ② ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%（平成2.4%）、ワタアブラムシ0.7%（平成3.9%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は89%（平成60%）、生息葉率は19.3%（平成6.2%）であった。
 - ③ 黄色水盤（紀の川市）による6月1～20日の誘殺数は57頭（平成110.2頭）であった。
 - ④ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 県北部 並
県中部 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ17%（平成37%）、ナミハダニ0%（平成8%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月下旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ78%（平成30%）、ナミハダニ0%（平成20%）であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率19%、生息葉率6.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源にならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率11%、生息葉率1.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培スイカ（性フェロモン剤による交信攪乱処理を実施していない地区）における6月下旬の被害果率は0%（平成1.3%）であった。
② フェロモントラップによる6月1～20日の誘殺数は、紀の川市24頭（平成13.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は6%（平成16%）、発病果率は1.7%（平成1.9%）であった。
② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① マンゼブ剤やマンネブ剤の場合、前回の薬剤散布からの累積降水量が250mm程度となった時点で散布する。
② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯枝が増えるおそれがあるので留意する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬

の春葉での発生ほ場率は13%（平成22%）、発病葉率は0.3%（平成1.0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 罹病葉は果実への伝染源になるので剪除する。

② 防風ネット設置などの防風対策に努める。

③ ミカンハモグリガの防除を徹底する。

④ 罹病性品種では強風雨前に銅水和剤の予防散布を徹底する（葉害軽減のための措置を講じる）。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は23%（平成36%）、発生葉率は10.6%（平成11.8%）、100葉あたり雌成虫数は28頭（平成47頭）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 高度の薬剤抵抗性系統が出現しやすいので、対策として97%・98%マシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は葉害が発生しやすいうえ、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 6月下旬に防除できなかったほ場では、7月上旬のうちに未成熟成虫に対しても効果が高いDMTP乳剤（スプラサイド乳剤40）を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる6月11～20日の誘殺数は、由良町282頭（平成283頭）、有田川町22頭（過去6年の平均60頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生活長調査の結果を参考に適期防除に努める。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努めるとともに、薬剤を散布する。

② 発生が多いほ場では7月中旬以降に、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬剤を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発病新梢率は「富有」、「平核無」・「刀根早生」いずれも0%（平年0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかる。

③ 薬剤は発育枝にも十分散布する。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」41%（平年42%）、「平核無」・「刀根早生」12%（平年11%）であった。発病葉率は「富有」3.4%（平年1.8%）、「平核無」・「刀根早生」1.1%（平年0.3%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。

② 盛夏期には一時病勢は停滞するが、好適な気象条件や園地条件で秋期まで二次伝染を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は47%（平年44%）、発病葉率は4.1%（平年5.6%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌の飛散は5月下旬～7月中旬の降雨後に多く、二次感染はしない。

② 5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は88%（平年65%）、発病葉率は9.0%（平年13.1%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌の飛散は5月上旬から始まり、7月下旬まで続く。二次感染を繰り返す。

② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」12%（平成27%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平成6%）であった。
- ② 県北部における6月中旬の寄生果率は「富有」1.2%（平成1.7%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平成0.2%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の直前に薬剤散布を実施する。
 - ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月22～27日頃であり、次回の防除適期は8月上旬頃と思われる。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における6月中旬の発病葉の発生ほ場率は80%（平成72%）であった。発病葉率は5.3%（平成5.0%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 防風対策に取り組む。防風ネット、防風樹設置園では保守点検を行う。
 - ② 翌年の伝染源軽減のため、秋季に無機銅水和剤を散布する。

2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における6月中旬のウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシの発生ほ場率は0%（平成7%）、雌成虫寄生枝率は0%（平成0.3%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の直前に薬剤散布を実施する。
 - ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃である。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀の川市粉河の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが101頭（前年19頭、平成133頭）、ツヤアオカメムシが481頭（前年87頭、平成207頭）であった。
 - ② 有田川町奥の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが30頭（前年43頭、過去6年の平均224頭）、ツヤアオカメムシが166頭（前年76頭、過去6年の平均315頭）であった。
 - ③ みなべ町東本庄の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが107頭（前年93頭、平成472頭）、ツヤアオカメムシが755頭（前年341頭、平成1,283頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内への多飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。
 - ② 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、

J A等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第5号(8月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多
	紋枯病	並		シロイチモジヨトウ	並
	縞葉枯病	並	カンキツ	黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	やや少		かいよう病	並
	ツマグロヨコバイ	やや少		ミカンハダニ	少
	セジロウンカ	並		ヤノネカイガラムシ	並
	トビイロウンカ	やや多		チャノキイロアザミウマ	やや少
イチモンジセセリ	並	ゴマダラカミキリ	並		
コブノメイガ	やや多	カキ	炭疽病	並	
斑点米カメムシ類	並		うどんこ病	並	
			円星落葉病	やや多	
トマト・ミニトマト	疫病 黄化葉巻病	並 やや少		角斑落葉病	やや多
				フジコナカイガラムシ	並
	アブラムシ類 ハダニ類	並 並	果樹全般	カメムシ類	並
	ミナミキイロアザミウマ	少			
	ミカンキイロアザミウマ	並			

気象予報

1か月予報（予報期間 7月25日～8月24日 大阪管区气象台）

< 特に注意を要する事項 >

期間のはじめは降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みです。

< 予想される向こう1か月の天候 >

期間のはじめは、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >

【気温】近畿地方	
【降水量】近畿日本海側	
【降水量】近畿太平洋側	
【日照時間】近畿地方	

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

8月	月平均気温 (平年値) (°C)		月降水量 (平年値) (mm)	
	和歌山	28.1	和歌山	86.0
潮岬	27.0	潮岬	233.2	

I . 水 稲

1. いもち病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は50%（平成28%）、発病株率は2.0%（平成6.2%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は4%（平成18%）、発病株率は3.8%（平成3.4%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期に追加防除を行う。
- ② 常発地では翌年から罹病性品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）、発病株率は0%（平成0.1%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）、発病株率は0%（平成0.2%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に発病株率が20%以上のほ場では、早急に薬剤防除を行う。
- ② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加防除を行う。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）、発病株率は0%（平成0%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平成3%）、発病株率は0%（平成0.1%）であった。
- ③ 媒介虫であるヒメトビウンカの8月の発生量はやや少と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 縞葉枯病の発生が多いほ場は、ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0.5頭（平成9.3頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.8頭（平成14.1頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市3頭（平成2.7頭）、上富田町4頭（平成0.5頭）、那智勝浦町5頭（平成7.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 縞葉枯病の発生が多い圃場は、ヒメトビウンカの防除を行う。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0.8頭（平成5.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では1.8頭（平成1.4頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平成1.8頭）、上富田町4頭（平成29.4頭）、那智勝浦町20頭（平成265.3頭）であった。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では7.8頭（平成31.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では36.2頭（平成53.2頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市20頭（平成83.7頭）、上富田町499頭（平成82.3頭）、那智勝浦町182頭（平成87.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫10頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。
- ② 令和2年度病害虫防除技術情報第3号（令和2年7月31日発表）を参照する。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平成0.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0頭（平成0.3頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市12頭（平成0.7頭）、上富田町157頭（平成0.7頭）、那智勝浦町172頭（平成3.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。
- ② 令和2年度病害虫防除技術情報第3号（令和2年7月31日発表）を参照する。

8. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたりツト数は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0（平成0.0）、県北部および中部の普通期栽培では0（平成0.1）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢幼虫の防除に重点を置く。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では2.8葉（平成6.2葉）、県北部および中部の普通期栽培では1.9葉（平成0.4葉）であった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による6月1日～7月20日の誘殺数は8頭

(平年1.6頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は7月下旬頃と思われる。
- ② 防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤(乳剤、水溶剤、フロアブル等)の場合は第2世代幼虫発生時期(第1世代の発蛾最盛期の7日後)である。
- ③ 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

10. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培の本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.7頭(平年5.8頭)であった。
- ② 予察灯による7月1~20日の誘殺数は、紀の川市12頭(過去4年の平均111.0頭)、上富田町23頭(過去9年の平均27.4頭)、那智勝浦町114頭(過去9年の平均76.1頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② イネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までには場周辺を除草する。
- ③ 出穂後、本田内でホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシなどの飛来を認めたら、乳熟期(出穂10日後)から糊熟期(出穂20日後)に薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期(出穂3日後)に薬剤散布する。

II. 野 菜

<トマト・ミニトマト>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%(平年10%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。
- ② 露地栽培では、降雨前の予防散布に努める。降雨前に散布できなかった場合は降雨後に早急に防除する。

2. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%(過去7年の平均49%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ② 施設栽培では育苗ほ、本ぽとも施設開口部へ目合い0.4mm以下の防虫ネッ

- トを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。
- ③ 施設栽培では定期的な薬剤散布に加え定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ば初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

＜野菜全般＞

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の生息葉率は、ワタアブラムシ0.7%（平成0.8%）、モモアカアブラムシ0%（平成0.0%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への7月1～20日までの飛来数は0頭（平成12.7頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ33%（平成27%）、6.7%（平成8.2%）であった。ナミハダニの発生は認められなかった（平成：発生ほ場率13%、生息葉率3.4%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率21%、生息葉率4.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
 - ④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発

生ほ場率5%、生息葉率0.2%)であった。

② フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、和歌山市733頭(過去9年の平均96.8頭)、紀の川市514頭(平年44.8頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期(ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき)の防除を心がける。

② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

6. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、紀の川市11頭(平年19.3頭)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における7月中旬の発生ほ場率は39%(平年27%)、発病度は1.9(平年1.2)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。

② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

③ 過乾燥等で樹勢が低下すると枯枝が増えるおそれがあるので留意する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における7月中旬の春葉病斑の発生ほ場率は33%(平年30%)、発病度は0.1(平年0.4)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防風対策に努め、台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。

② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。

③ 幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県北部(海南市下津町)、県中部、県南部(田辺市)における7月中旬の発生ほ場率は9%(平年27%)、発生葉率は3.1%(平年6.6%)、100葉あたり雌成虫数は6.1頭(平年21.6頭)であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に2回以上使用しない。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は3%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第2世代2齢幼虫の発生最盛期は8月中旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の果実の被害ほ場率は9%（過去7年の平均20%）、発生ほ場率は0%（過去7年の平均1%）であった。

- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる7月11～20日の誘殺数は由良町19頭（平年167頭）、有田川町9頭（過去6年の平均31頭）であった。

- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。
② 発生ほ場およびイヌマキやサンゴジュの隣接ほ場では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は3%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 成虫の捕殺に努めるとともに、放任園周辺など発生の多いほ場では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」0%（平年0.1%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。

- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかつたほ場では台風通過後速やかに散布する。
③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」71%（平成67%）、
「平核無」・「刀根早生」18%（平成25%）であった。

② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」5.1%（平成7.1%）、
「平核無」・「刀根早生」0.5%（平成1.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。

② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪いほ場は発病を繰り返しやすいので、これらのほ場では秋雨前の予防散布に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は47%（平成44%）、
発病葉率は4.1%（平成5.6%）であった。

② 梅雨期の降雨は多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は88%（平成65%）、
発病葉率は9.0%（平成13.1%）であった。

② 梅雨期の降雨は多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発ほ場では発病後も防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は、「富有」53%（平成54%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平成19%）であった。

② 県北部における7月中旬の寄生果率は、「富有」3.2%（平成5.2%）、
「平核無」・「刀根早生」0%（平成0.8%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は幼虫発生時期であるため、幼虫発生盛期の直前に薬剤散布を実施する。

② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月22～27日頃であり、幼虫発生盛期の直前は8月上旬頃と思われる。

③ 枝葉の混み合いをなくし、薬液が果実に十分かかるよう丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメモシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察灯による7月1～20日のチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は、紀の川市粉河で306頭（平年440頭）、有田川町奥で113頭（過去6年の平均960頭）、みなべ町東本庄で118頭（平年1,095頭）であった。

② 予察灯による7月1～20日のツヤアオカメムシ成虫の誘殺数は、紀の川市粉河で207頭（平年166頭）、有田川町奥で119頭（過去6年の平均201頭）、みなべ町東本庄で196頭（平年376頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。

② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

③ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第6号(9月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 トビイロウンカ イチモンジセセリ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 並 多 並 やや多 やや多	野菜・花 き全般	ミナミキイロアザミウマ	並 並 並 やや多
				ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ	
トマト・ミ ニトマト	黄化葉巻病	並	カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 やや少 並 やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	やや多	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 並 やや多 やや多 並
野菜・花 き全般	アブラムシ類およびアブラムシ類媒介のウイルス病	やや多		果樹全般	カメムシ類
	ハダニ類	並			

気象予報

1か月予報（予報期間 8月22日～9月21日 大阪管区气象台）

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気温】近畿地方	10	20	70
【降水量】近畿日本海側	30	40	30
【降水量】近畿太平洋側	20	40	40
【日照時間】近畿日本海側	30	40	30
【日照時間】近畿太平洋側	40	30	30

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
9月	和歌山 24.7	和歌山 183.8
	潮岬 24.3	潮岬 304.8

I . 水 稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上中旬の葉いもちの発生ほ場率は33% (平成25%)、発病株率は1.5% (平成6.8%)であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種(「キヌヒカリ」等)の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上中旬の発生ほ場率は25% (平成26%)、発病株率は1.5% (平成4.2%)であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなるので、次作は防除を徹底するとともに密植にならないよう注意する。

3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 8月中旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では2.5頭(平成0.4頭)、8月上旬の県中部の普通期栽培では15.0頭(平成1.5頭)であった。

② 予察灯による8月1~20日の飛来数は、紀の川市18頭(平成2.5頭)、上富田町28頭(平成0.9頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

④ 令和2年度病害虫発生予察注意報第1号(8月14日発表)を参照する。

4. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上中旬の25株あたりツトム数は、県北部の普通期栽培では0(平成0.1)、県中部の普通期栽培では0(平成0.0)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬~9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

5. コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上中旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では1.6葉（平年1.5葉）、県中部の普通期栽培では10.4葉（平年1.1葉）であった。
 - ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1～15日の成虫誘殺数は、20頭（平年4.3頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

6. 斑点米カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月上中旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で38%（平年75%）、3.0頭（平年7.5頭）、県中部の普通期栽培で100%（平年75%）、8.0頭（平年7.8頭）であった。
 - ② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市196頭（過去4年の平均168.5頭）、上富田町34頭（過去9年の平均8.1頭）であった。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

II. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は86%（平年69%）、発病株率は8.6%（平年30.2%）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
 - ② 促成栽培では、生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ほ初期（8～10月）のタバココナジラミ防除を徹底する。また、施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市5頭（過去9年の平均0.1頭）、紀の川市0頭（平年0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類およびアブラムシ類媒介のウイルス病（露地野菜全般）

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は50%（平成15%）、生息葉率は2.0%（平成2.4%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率4%、生息葉率0.2%）であった。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、138頭（平成56.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① アブラムシ類媒介のウイルス病は、シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。

② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は17%（平成23%）、生息葉率は6.7%（平成6.5%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率9%、生息葉率2.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は50%（平成53%）、生息葉率は10.7%（平成12.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市16頭（平成22.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平成3%）であった。
 - ② フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市273頭（過去9年の平均89.5頭）、紀の川市372頭（平成71.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生ほ場率は59%（平成41%）、発病果率は21.6%（平成9.3%）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月中下旬に防除できなかったほ場では、9月上旬に早急に防除を行う。
 - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量（果実および夏秋梢） やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の春葉病斑の発生ほ場率は17%（平成32%）、発病葉率は0.4%（平成1.3%）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
 - ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、9月以降翌春までに剪除する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の発生ほ場率は25%（平成22%）、発生葉率は4.7%（平成5.2%）、100葉あたりの雌成虫数は11.6頭（平成16.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に2回以上使用しない。
 - ② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中旬の果実の被害ほ場率は19%（平年28%）、100果あたりの生息虫数は0頭（平年0.1頭）であった。
- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる8月11～20日の誘殺数は由良町251頭（平年164頭）、有田川町4頭（過去6年の平均31頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」12%（平年5%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年1%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」0.2%（平年0.2%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
 - ③ 7月は強風雨が多かった。
 - ④ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病枝や発病果実がみられる場合は剪除する。
 - ② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすいので、園内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」59%（平年72%）、「刀根早生」・「平核無」29%（平年24%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」6.6%（平年10.0%）、「刀根早生」・「平核無」1.7%（平年1.5%）であった。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平年2%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年3%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0.0%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.1%）であった。
 - ③ 梅雨期の多雨により潜伏感染が多いと考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平年0%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年1%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.0%）であった。
- ③ 梅雨期の多雨により潜伏感染が多いと考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」82%（平年69%）、
「刀根早生」・「平核無」35%（平年28%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」7.2%（平年8.9%）、
「刀根早生」・「平核無」1.3%（平年1.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるとように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」3.2%（平年4.2%）、
「刀根早生」・「平核無」0.4%（平年0.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は216頭（平年509頭）、ツヤアオカメムシが138頭（平年193頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は51頭（過去6年の平均780頭）、ツヤアオカメムシ33頭（同136頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日のチャバネアオカメムシの誘殺数は183頭（平年928頭）、ツヤアオカメムシが184頭（平年514頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ③ ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ④ 台風通過後や強風後には一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブサイト <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyohou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや多 やや少
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並		カンキツ	ミカンハダニ
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 並 並 やや多 並
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並 やや少 並 並 やや少		果樹全般	カメムシ類

気象予報

1か月予報（予報期間 9月26日～10月25日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気温】近畿地方	20	40	40
【降水量】近畿地方	40	40	20
【日照時間】近畿地方	20	40	40

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
10月	和歌山 18.8	和歌山 121.5
	潮岬 20.2	潮岬 243.8

I . 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率9%、発病株率0.4%）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市20頭（過去9年の平均14.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率11%、生息葉率0.9%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は67%（平年24%）、生息葉率は5.3%（平年5.2%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は32頭（平年91.4頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率16%、生息葉率3.8%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率10%、生息葉率1.3%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬のハダニ類の発生ほ場率は18%（平年33%）、生息株率は3.6%（平年13.3%）であった。
 - ③ 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は67%（平年52%）、生息葉率は8.7%（平年15.8%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。
 - ② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は9%（平年27%）、生息株率は0.9%（平年6.4%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市45頭（平年43.9頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は33%（平年15%）、生息葉率は1.3%（平年1.1%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率25%、生息株率3.6%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市1,661頭（平年287頭）、和歌山市3,533頭（過去9年の平均1,027頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率14%、生息株率2.3%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市35頭（平年17.8頭）、御坊市0頭（平年2.9頭）、印南町0頭（平年3.5頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 有田川町における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、予察ほ場（無防除）では0頭（平年0.3頭）、慣行防除園では0頭（平年0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は35%（平成20%）、発病果率は1.2%（平成0.9%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病果は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、発病果を速やかに採取して土中に埋める。
- ② 発病果がみられるほ場や降雨が続く場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 薬剤防除は、耐性菌対策として同一系統の薬剤は連用しないように注意する。
- ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
- ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は47%（平成71%）、発病葉率は11.1%（平成12.8%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は6%（平成6%）、発病葉率は0.1%（平成0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は53%（平成35%）、発病葉率は2.4%（平成4.2%）であった。

- ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は65%（平成75%）、寄生果率は8.7%（平成10.6%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における9月中旬のカキの被害果率は、「富有」で11.5%（平成6.4%）、「刀根早生」・「平核無」で1.5%（平成0.9%）であった。
 - ② 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシ215頭（平成479頭）、ツヤアオカメムシ162頭（平成266頭）であった。
 - ③ 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシ157頭（過去6年平均519頭）、ツヤアオカメムシ188頭（同282頭）であった。
 - ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシ719頭（平成4,683頭）、ツヤアオカメムシ895頭（平成2,613頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
 - ② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
 - ③ ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - ④ 台風通過後や強風後には一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
 - ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第8号(11月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病 ハダニ類 ウラナミシジミ	やや少 並 並 やや少 やや多	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや多 やや少
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病 アブラムシ類 コナガ ヨトウガ	並 やや少 並 並	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 並
			果樹全般	カメムシ類	並

気象予報

1か月予報（予報期間10月24日～11月23日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

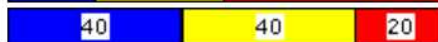
週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

【気温】近畿地方



【降水量】近畿地方



【日照時間】近畿地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

11月	月平均気温 (平年値) (°C)		月降水量 (平年値) (mm)	
	和歌山	13.5	和歌山	90.5
潮岬	15.3	潮岬	160.2	

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率15%、発病葉率0.5%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成4%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成3%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は9%（平成33%）、生息株率は0.9%（平成14.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の被害発生ほ場率は73%（平成55%）、被害株率は14.5%（平成20.6%）であった。

- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
 - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

<ハクサイ、キャベツ>

1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平成：ハクサイ7%、キャベツ6%）であった。
 - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は13%（平成25%）、生息株率は0.6%（平成3.3%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率47%、生息株率10.6%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、28頭（平成42.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率9%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市25頭（過去9年の平均60.2頭）、紀の川市0頭（平成0.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率6%、生息株率0.6%）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市6頭（平成7.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率8%、生息株率0.5%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率13%、生息株率2.3%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市27頭（平成14.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は25%（平成15%）、生息株率は3.8%（平成1.4%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は27%（平成24%）、生息株率3.6%（平成5.1%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市2,174頭（過去9年の平均1,596頭）、紀の川市988頭（平成879頭）、御坊市3,059頭（平成2,032頭）、印南町1,148頭（平成862頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均：発生ほ場率6%、生息株率0.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は9%（平成23%）、生息株率0.9%（平成4.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市46頭（平成29.4頭）、御坊市1頭（平成32.3頭）、印南町45頭（平成19.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は18%（平成14%）であった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

- ② 果実はていねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
- ③ 収穫前の薬剤散布を励行する。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率は11%（平成11%）、発生葉率は2.0%（平成1.8%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。
 - ② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

< 果樹全般 >

1. カメモシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における10月中旬のカキの被害果率は「富有」で12.8%（平成9.7%）であった。
 - ② 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモシ4頭（平成154頭）、ツヤアオカメモシ21頭（平成292頭）であった。
 - ③ 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモシ11頭（過去6年の平均134頭）、ツヤアオカメモシ68頭（同573頭）であった。
 - ④ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモシ9頭（平成1,136頭）、ツヤアオカメモシ155頭（平成7,061頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内外のカメモシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
 - ② 飛来がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

2. 病害虫の診断・同定の件数

1) 本所

作物分類	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水稻	病害	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	虫害	0	0	1	2	5	9	4	1	1	0	0	0	23
	その他	1	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	6
野菜	病害	9	8	8	9	6	6	4	3	5	5	0	1	64
	虫害	0	1	2	4	2	0	1	0	2	4	0	2	18
	その他	4	6	9	3	5	3	3	1	1	1	1	2	39
花き	病害	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	4
	虫害	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	1	0	2	1	0	2	3	4	0	0	0	2	15
果樹	病害	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	虫害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3
小計	病害	9	8	8	9	8	7	7	3	6	5	0	1	71
	虫害	1	1	3	7	7	9	5	1	3	4	0	2	43
	その他	6	6	11	7	7	6	7	5	1	1	1	5	63

2) 有田川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常緑果樹	病害	12	12	10	6	5	7	11	7	5	2	10	9	96
	虫害	2	10	6	5	7	3	4	2	0	7	4	0	50
	その他	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	4
小計	病害	12	12	10	6	5	7	11	7	5	2	10	9	96
	虫害	2	10	6	5	7	3	4	2	0	7	4	0	50
	その他	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	4

3) 紀の川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	3	6	7	4	4	3	3	1	3	2	0	3	39
	虫害	3	2	9	7	4	6	1	2	1	0	0	0	35
	その他	8	8	8	3	4	1	4	1	1	2	1	3	44
常緑果樹	病害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虫害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	3	6	7	4	4	3	3	1	3	2	0	3	39
	虫害	3	2	9	7	4	6	1	2	1	0	0	0	35
	その他	8	8	8	3	4	1	4	1	1	2	1	3	44

4) みなべ駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	13	15	11	3	0	0	1	0	0	5	2	3	53
	虫害	0	0	0	0	8	3	0	0	0	0	0	5	16
	その他	5	7	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	18

5) 全体

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	病害	37	41	36	22	17	17	22	11	14	14	12	16	259
	虫害	6	13	18	19	26	21	10	5	4	11	4	7	144
	その他	20	21	23	12	11	7	12	6	2	5	2	8	129

VI. 病害虫の発生経過の概要

都道府県	農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
和歌山県	早期水稲	葉いもち	4～7月	並	7月中旬の発生ほ場率は50%(平成28年)、発病率は2.0%(平成6.2%)であった。		育苗箱薬剤及び適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	穂いもち	7～8月	並	8月上旬の25株あたり発病穂数は0(平成1.5)であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付ほ場及び山間地では穂揃い期に追加防除。
和歌山県	早期水稲	紋枯病	5～8月	並	8月上旬の発生ほ場率は33%(平成23%)であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	早期水稲	ばか苗病	5～6月	並	7月中旬の発生ほ場率は0%(平成2%)であった。		種子消毒。
和歌山県	早期水稲	もみ枯細菌病	4月、8月	並	8月上旬の発病率は0%(平成0%)であった。		育苗箱薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	7月中旬の発病率は0%(平成0%)であった。		ヒメビウカの防除。
和歌山県	早期水稲	稲こうじ病	8月	並	8月上旬の発病率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	早期水稲	セジロウンカ	6～8月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月中旬7.8頭(平成31.5頭)、8月上旬12.5頭(平成22.6頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	トビロウンカ	6～8月	多	予察灯への初飛来は、那智勝浦町で6月13日(平成7月1日)であった。予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、上富田町157頭(平成0.7頭)、那智勝浦町172頭(平成3.2頭)であった。8月上旬の25株あたり平均虫数は4頭(平成1.1頭)であった。	飛来量が多かった。	7月の薬剤防除。多発時の追加防除。病害虫防除技術情報第3号(7月31日)により注意喚起を実施。
和歌山県	早期水稲	ヒメビウカ	5～8月	やや少	8月上旬の25株あたり平均虫数は7.0頭(平成13.8頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱薬剤の施用と7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	やや多	8月上旬の25株あたり平均虫数は8.0頭(平成3.2頭)であった。		7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	やや少	本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は1.7頭(平成5.8頭)であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	早期水稲	コブノメイガ	6～8月	やや少	7月中旬の25株あたり平均被害葉数は2.8葉(平成6.2葉)であった。		7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	イネスズゾウムシ	5～8月	やや多	6月中旬の25株あたり平均虫数は1.8頭(過去5年の平均0.4頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
和歌山県	普通期水稲	葉いもち	5～8月	並	8月上旬～中旬の発生ほ場率は33%(平成25%)、発病率は1.5%(平成6.8%)であった。		育苗箱薬剤。適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	穂いもち	8～9月	やや少	9月上旬の25株あたりの発病穂数は0(平成2.0)であった。	8月の気温が高かったため。	通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付圃場及び山間地では穂揃い期の追加防除。
和歌山県	普通期水稲	紋枯病	6～9月	やや少	9月上旬の発生ほ場率は33%(平成65%)であった。	7月の気温が低く、8月上中旬の降水量が少なかったため。	通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	普通期水稲	ばか苗病	5～6月	並	8月上旬～中旬の発病率は0%(平成0.1%)であった。		種子消毒。
和歌山県	普通期水稲	もみ枯細菌病	4月、8～9月	並	9月上旬の発病率は0%(平成0.01%)であった。		育苗箱薬剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	縞葉枯病	6～9月	やや少	8月上旬～中旬の発病率は0%(平成0.5%)であった。	ヒメビウカのイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率が低かったため。	ヒメビウカの防除。
和歌山県	普通期水稲	稲こうじ病	9月	並	9月上旬の発病率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	8月上旬～中旬の25株あたり被害株数は0株(平成0株)であった。		1化期、育苗箱薬剤の施用。 2化期：8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	セジロウンカ	6～10月	並	25株あたり平均虫数は、7月中旬が36.2頭(平成53.2頭)、8月上旬が48.5頭(平成38.9頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。 8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	トビロウンカ	6～10月	多	25株あたり平均虫数は、8月上旬～中旬が6.1頭(平成0.5頭)、9月上旬が69.0頭(平成2.7頭)であった。9月以降、坪枯れの発生が散見された。	飛来量が多かった。	育苗箱薬剤の施用。 8月の薬剤防除。多発時の追加防除。病害虫防除技術情報第3号(7月31日)、病害虫発生予察注意報第1号(8月14日)、第2号(9月11日)により注意喚起を実施。
和歌山県	普通期水稲	ヒメビウカ	6～10月	やや少	8月上旬～中旬の25株あたり平均虫数は8.8頭(平成20.0頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
和歌山県	普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	並	8月上旬～中旬の25株あたり平均虫数は2.1頭(平成3.1頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。 8月の薬剤防除。

都道府県	農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
和歌山県	普通期水稲	斑点米カメムシ類	8～10月	並	すくい取り調査(捕虫網20回振り)による8月上～中旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部で38%(平成75%)、3.0頭(平成75頭)、県中部で100%(平成75%)、8.0頭(平成78頭)であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。 乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	普通期水稲	フタオビコヤガ	6月～8月	やや少	8月上～中旬の25株あたり平均成虫数は0頭(平成0.3頭)であった。	近年、少発生傾向が続いている。	8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	コブノメイガ	6～10月	やや多	紀の川市の蛍光灯誘殺箱による7月21日～8月5日の成虫誘殺数は、38頭(平成11.2頭)と多かった。8月上～中旬の25株あたり平均被害葉数は4.2葉(平成1.4葉)であった。		8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	並	7月中旬の25株あたり平均成虫数は0頭(過去5年0頭)であった。		育苗箱施薬剤の施用。
和歌山県	トマト(冬春)	疫病	8～6月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	灰色かび病	1～4月	やや少	3月中旬の発生ほ場率は0%(過去4年の平均7%)であった。	3月の気温が高く降雨量が少なかったため。	薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	葉かび病	3～6月	—	3月中旬の発生ほ場率は40%(過去2年の平均40%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	モザイク病	8～6月	並	3月中旬の発生ほ場率は0%(過去4年平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	黄化葉巻病	8～6月	並	3月中旬の発生ほ場率は10%(過去4年の平均9%)であった。		タバコナジラミの防除
和歌山県	トマト(冬春)	タバコナジラミ	12～6月	やや多	5月中旬の発生ほ場率は56%(平成27%)、生息葉率は3.9%(平成2.6%)であった。		防虫ネットの展張。 薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	アブラムシ類	12～6月	並	5月中旬の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		
和歌山県	トマト(夏秋)	疫病	5～11月	やや少	7月下旬の発生ほ場率は0%(平成10%)であった。	7月の気温が低かったため。	薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	灰色かび病	5～11月	並	7月下旬の発生ほ場率は0%(過去5年平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	葉かび病	6～11月	少	7月下旬の発生ほ場率は0%(過去4年平均53%)、発病株率は0%(過去4年平均9.8%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	モザイク病	6～11月	並	7月下旬の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	黄化葉巻病	6～11月	やや少	8月中旬の発生ほ場率は86%(平成69%)、発生株率は8.6%(平成30.2%)であった。		タバコナジラミの防除
和歌山県	ナス(冬春)	うどんこ病	12～6月	やや多	5月中旬の発生ほ場率は17%(過去9年の平均10%)であった。	3月の気温がかなり高かったため。	薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	灰色かび病	12～5月	並	5月中旬の発生ほ場率は0%(過去6年の平均9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	並	5月中旬の発生ほ場率は22%(平成27%)、生息葉率は1.3%(平成7.1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	アブラムシ類	9～6月	並	5月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%(平成0.6%)、ワタアブラムシ0%(平成0.1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	ハダニ類	9～6月	並	5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は22%(平成11%)、生息葉率は1.3%(平成1.3%)、ナミハダニの発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	うどんこ病	4～10月	並	6月中旬の発生ほ場率は0%(過去6年の平均:2%、発病葉率0.02%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	灰色かび病	4～10月	並	6月中旬の発生ほ場率は0%(過去6年の平均2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5～11月	やや多	9月中旬の発生ほ場率は67%(平成52%)、生息葉率は8.7%(平成15.8%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	アブラムシ類	5～11月	やや少	6月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ0%(平成2.4%)、ワタアブラムシ0.7%(平成3.9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハダニ類	5～11月	並	7月下旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ33%(平成27%)、6.7%(平成8.2%)であった。ナミハダニの発生は認められなかった(平成:発生ほ場率13%、生息葉率3.4%)。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	7～11月	やや多	9月中旬の発生ほ場率は33%(平成15%)、生息葉率は1.3%(平成1.1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	べと病	10～6月	やや多	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で38%(平成40%)、5月中旬の県中部で67%(平成58%)であった。	4月の気温が低く、同月中旬の降水量が多かったため。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	うどんこ病	10～6月	並	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で23%(平成19%)、5月中旬の県中部で67%(平成86%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	灰色かび病	10～6月	並	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で0%(過去9年の平成3%)、5月中旬の県中部で0%(過去9年の平均0%)であった。		薬剤防除

都道府県	農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
和歌山県	キュウリ(冬春)	褐斑病	10～6月	やや少	発生ほ場率は、5月中旬の県北部で15%(平成6年)、5月中旬の県中部で17%(過去4年の平均78%)であった。	県中部において耐病性品種が導入されつつあるため。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	やや少	4月中旬の発生ほ場率20%(過去6年の平均39.2%)、生息葉率4.6%(過去6年の平均3.0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	アブラムシ類	9～6月	並	4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は20%(過去6年の平均12.1%)、生息葉率0.2%(過去6年の平均0.2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	タバコナジラミ	9～6月	やや多	4月中旬の発生ほ場率は40%(過去6年の平均17.8%)、生息葉率7.3%(過去6年の平均0.5%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	つる枯病	5～7月	並	6月中旬の発生ほ場率は、県北部で0%(平成0年)、県中部で0%(平成8年)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	炭疽病	5～7月	並	6月下旬の発生ほ場率は、県北部で0%(過去9年の平均8%)、県中部で0%(過去9年の平均15%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	疫病	5～7月	並	6月下旬の発生ほ場率は、県北部で0%(平成0年)、県中部で0%(平成0年)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	シロイチモジヨトウ	4～8月	やや少	6月下旬の発生ほ場率は33%(平成41年)、被害果率は3.1%(平成5.0%)であった。		薬剤防除 交信攪乱剤による防除
和歌山県	スイカ	アブラムシ類	3～8月	やや多	6月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は89%(平成60年)、生息葉率は19.3%(平成6.2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハウサイ(秋冬)	軟腐病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去7年平均1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハウサイ(秋冬)	白斑病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去7年平均2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハウサイ(秋冬)	べと病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去7年平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハウサイ(秋冬)	黒斑病	10～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去7年平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハウサイ(秋冬)	モザイク病	9～12月	並	12月の発生ほ場率は0%(過去7年平均0%)であった。		アブラムシ類防除
和歌山県	キャベツ(春)	黒腐病	3～4月	並	4月中旬の発生ほ場率は0%(過去5年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	菌核病	3～4月	並	3月中旬の発生ほ場率は63%(過去5年の平均69%)、発病株率は2.7%(過去5年の平均4.0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	アブラムシ類	12～4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率は、モモアカアブラムシ0.9%(平成12.3%)、ニセダイコンアブラムシ0%(平成0.3%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	モンシロチョウ	4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率は0%(平成12年)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	コナガ	12～4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率は0%(平成11年)、1株あたり発生密度は0頭(平成0.02頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	ヨトウガ	4月	並	4月中旬の発生ほ場率は0%(平成0年)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	黒腐病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成1年)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	菌核病	10～12月	やや多	12月の発生ほ場率は22%(過去7年の平均12%)、発病株率は1.8%(平成0.8%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	アブラムシ類	9～3月	少	10月のモモアカアブラムシの発生ほ場率は13%(平成26%)、生息株率は0.6%(平成3.3%)であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は0%(平成47%)、生息株率は0.6%(平成10.6%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	モンシロチョウ	9～10月	やや多	10月の発生ほ場率は25%(平成13年)、生息株率2.5%(平成1.3%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	コナガ	9～3月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率9%、10株あたり生息密度0.06頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	ヨトウガ	9～3月	並	10月の発生ほ場率は0%(平成:発生ほ場率6%、生息株率0.6%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	やや多	10月の発生ほ場率は25%(平成15年)、生息株率は3.8%(平成1.4%)であった。		薬剤防除
和歌山県	タマネギ	白色疫病	2～4月	並	3月中旬の発生ほ場率は23%(平成24%)、発病株率は0.6%(平成2.7%)であった。		薬剤防除
和歌山県	タマネギ	べと病	1～5月	並	4月中旬の発生ほ場率は23%(平成25%)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	灰色かび病	10～4月	並	4月下旬の発生ほ場率は11%(過去4年の平均16%)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	うどんこ病	10～4月	並	4月下旬の発生ほ場率は11%(過去4年の平均9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	アブラムシ類	9～4月	やや少	4月中旬の発生ほ場率0%(平成8.4%)、生息葉率0%(平成0.4%)であった。		薬剤防除

都道府県	農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
和歌山県	イチゴ	アザミウマ類	9～4月	やや少	4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率13%(過去4年の平均69%)、1花当たり生息密度0.01頭(過去4年の平均1.1頭)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%(平均15%)、1花当たりの生息密度0頭(平均0.1頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	ハダニ類	9～4月	やや少	4月中旬のナミハダニは発生ほ場率38%(平均38%)、発生葉率5.6%(平均13.8%)、カンザワハダニは発生ほ場率13%(平均27%)、発生葉率0.6%(平均6.1%)であった。		薬剤防除。 天敵カブリダニ類の利用。
和歌山県	エンドウ(秋冬)	うどんこ病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平均4%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	灰色かび病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%(過去7年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	褐斑病	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平均6%、発病葉率0.2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	褐紋病	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平均10%、発病葉率0.4%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9～11月	やや少	10月の発生ほ場率は9%(平均22%、発生株率0.9%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ウラナミシジミ	9～12月	やや多	10月の発生ほ場率は73%(平均55%)、被害株率は14.5%(平均20.6%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8～10月	やや少	9月の発生ほ場率は9%(平均27%)、発生株率は0.9%(平均6.4%)であった。		防除ネット被覆、薬剤防除、交信攪乱剤
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ハダニ類	9～11月	やや少	9月の発生ほ場率は18%(平均33%)、生息株率4%(平均13%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9～11月	少	9月の発生ほ場率は0%(平均発生ほ場率30%、発生株率3.6%)であった。	気象条件による。	薬剤防除
和歌山県	カンキツ	そうか病	4～7月	やや多	平年に比べて6月はやや多、7月は並で推移し、10月の発生ほ場率は5%(平均3%)、発病果率は2.2%(平均0.3%)であった。	果実への感染時期である7月の降水量が多かったため。	常発ほ場では発芽直後に薬剤散布。その他一般防除圏では満開期を中心に予防散布。発病果実は摘果処理により除去。
和歌山県	カンキツ	黒点病	6～10月	やや多	予察ほ場(有田川町奥)における初発は6月17日と平年(5月31日)より遅かった。10月の発生ほ場率は86%(平均58%)、発病果率は38.7%(平均18.3%)であった。	果実への感染時期である7月の降水量が多かったため。	幼果期(5月下旬～6月上旬)から8月下旬にかけてマンゼブ剤およびマンネブ剤の予防散布による基幹防除及び伝染源である枯枝の剪除。
和歌山県	カンキツ	かいよう病	5～10月	並	10月の果実の発生ほ場率は23%(平均17%)、発病果率は1.7%(平均2.8%)であった。	気象条件による。	罹病性品種や常発ほ場において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病枝葉の剪除。
和歌山県	カンキツ	灰色かび病	5～6月	やや少	6月の発生ほ場率は6%(平均15%)であった。	5月の降水量が少なかつたため。	満開期～落弁期の予防散布。被害果は摘果処理により除去。
和歌山県	カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%(平均1%)であった。	気象条件による。	常発ほ場では薬剤散布と罹病果の除去。
和歌山県	カンキツ	貯蔵病害	10～3月	やや多	10月のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病の発生ほ場率は18%(平均14%)であった。	気象条件による。	収穫前にベンゾイミダゾール系薬剤、イミノクタジン酢酸塩剤等のいずれかを散布。
和歌山県	カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	やや少	予察ほ場(有田川町奥)の第1世代幼虫の初発は5月13日で平年(5月16日)よりやや早かった。10月の寄生果率は0%(平均0.3%)、発生ほ場率0%(平均6%)であった。	適期の薬剤防除が徹底された。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	並	越冬雌成虫は平年よりやや少なかった。10月の寄生葉率は2.0%(平均1.8%)であった。	気象条件による。	冬季または春季および6月にマシン油乳剤を散布。秋季に化学殺ダニ剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンサビダニ	5～11月	並	10月の発生ほ場率は3%(平均1%)であった。	気象条件による。	梅雨明け時期および秋季の発生時に薬剤散布。多発ほ場では落弁期にも実施。
和歌山県	カンキツ	カメムシ類	5～11月	やや少	チャバネアオカメムシの越冬成虫は平年よりやや少なかった。9～10月の紀の川市、有田川町、みなべ町の誘殺数は平年に比べやや少なかった。	春季は越冬成虫が平年よりやや少なかった。夏季以降は、新成虫の発生量がやや少なかった。	発生時に薬剤を散布。
和歌山県	カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	やや少	10月の被害ほ場率は9%(平均36%)であった。	気象条件による。	発生時に薬剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ナシマルカイガラムシ	5～10月	並	10月の発生ほ場率は0%(平均0.3%)であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平均0%)であった。	他害虫を防除することにより発生が抑制されている。近年の県内の発生量は少ない。	
和歌山県	カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	やや多	8月の発生ほ場率は22%(平均14%)であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カンキツ	アブラムシ類	5～7月	やや少	6月の夏秋梢における発生ほ場率は5%(過去6年の平均15%)であった。	表年で新梢の発生が少なかった。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カキ	炭そ病	5～10月	やや多	刀根早生・平核無では9月中旬の発生圃率は12%で平年に比べやや多かった。富有では9月中旬の発生圃率は35%で、10月中旬には71%と平年に比べやや多くなった。	伝染源の除去と薬剤防除が徹底されたが、秋季の連続降雨により発病果が増加した。	生育期(5/下～8/下)と9月に定期防除を実施。

都道府県	農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
和歌山県	カキ	うどんこ病	5～10月	並	5月から発生がみられ始め、9月中旬の発生圃率は、富有47%、刀根早生・平核無41%と平年並であった。10月中旬の富有の発生圃率は82%と平年並で、発生程度も平年並であった。	薬剤による防除が徹底された。	展葉期(4/下)と6、8月に定期的に防除を実施。
和歌山県	カキ	角斑落葉病	9～10月	並	9月から発生がみられ、9月中旬の発生圃率は、富有53%とやや多く、刀根早生・平核無29%で平年並であった。10月中旬の発生圃率は、富有77%と増加したが、平年並であった。	薬剤による防除が徹底された。	主要感染時期の5/下～7/上に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	円星落葉病	9～11月	少	9月から発生がみられ始め、9月中旬の発生圃率は、富有6%、刀根早生・平核無0%で発生は平年並であった。10月中旬の富有での発生圃率は0%で発生は少なかった。	薬剤による防除が徹底された。	主要感染時期の5/下～7/上に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	灰色かび病	5～7月	やや多	6月中旬の果実の発生圃率は、富有88%、刀根早生・平核無53%でやや多かった。	開花期に当たる5月中旬の降水量は多かった。	灰色かび病を対象とした基幹防除は行われていない。一部の園で臨機防除が実施された。
和歌山県	カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	9月中旬の発生圃率は、富有12%、刀根早生・平核無0%で平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
和歌山県	カキ	ハマキムシ類	5～10月	並	6月から被害果実がみられ、9月中旬の発生圃率は、富有24%、刀根早生・平核無18%で、被害果率は平年並であった。	気象条件等による。	
和歌山県	カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	並	9月中旬の発生圃率は、富有65%、刀根早生・平核無29%で平年並であり、被害果率も平年並であった。10月中旬の発生圃率は、富有77%で平年並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	冬期の粗皮削り、越冬世代の4月上旬および第1世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。有機リン系薬剤やネオニコチノイド系薬剤が主体である。
和歌山県	カキ	カメムシ類	5～10月	やや多	9月中旬の被害果の発生圃率は、富有77%、刀根早生・平核無24%でやや多かった。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年に比べやや少なかった。越冬世代の予察灯への飛来はツヤアオカメムシがやや多かった。収穫期の果樹園への飛来は9月に一部の園で多く、多発した園が認められた。発生園においては定期防除の励行の不備が発生を助長していた。	8月下旬から9月上旬に定期防除が行われている。
和歌山県	カキ	カンザワハダニ	4～10月	やや少	7月中旬での刀根早生・平核無の果実被害は認められず、やや少発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	5月に防除を実施。
和歌山県	カキ	チャノキイロアザミウマ	4～10月	並	8月中旬の発生圃率は、刀根早生・平核無23%で平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	5月、6月に防除を実施。
和歌山県	カキ	カキクダアザミウマ	4～10月	並	6月中旬の被害葉の発生圃率は、富有0%、刀根早生・平核無6%であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	5月、7月に防除を実施。
和歌山県	モモ	せん孔細菌病	4～8月	並	4月の枝における発生ほ場率は0% (平年24%)、発病枝率は0% (平年12%)で平年に比べ低かった。春から6月の袋かけ時期までは葉の発病は少なく推移した。7月の葉における発生ほ場率は100% (平年82%)、発病率は12.2% (平年11.4%)で平年並であったが、発病率は2.0% (平年7.1%)で平年に比べ低かった。8月の発病率は30.8% (平年20.0%)で、平年に比べやや高かった。	春先の伝染源となる本年4月の発病枝は少なかった。さらに、春から6月の袋かけ時期まで好天が続き、病原菌の活動、果実への感染が抑制されたと考えられる。梅雨期は降雨も多く、8月の発病率はやや高まった。	秋期と開花前の無機銅水和剤、生育期の抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。春型発病枝の徹底剪除を実施。風当たりの強い園では、防風ネットや防風網による防風対策を実施。
和歌山県	モモ	灰星病	5～7月	並	発生はほとんどみられなかった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。
和歌山県	モモ	シンクイムシ類	5～9月	並	ナシヒメシンクイによる新梢への被害は5月からみられ始めた。6月の枝における発生ほ場率は40%で、平年並であった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	4月上旬(落葉期)～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
和歌山県	モモ	カメムシ類	5～8月	並	調査期間中にほ場内への飛来はほとんどみられなかった。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年に比べやや少なかった。その後の予察灯への誘殺数は5月～6月にツヤアオカメムシがやや多かったが、モモ園への飛来はほとんどみられなかった。	モモ園への飛来はほとんどみられず、カメムシを対象とした薬剤散布は未実施。
和歌山県	モモ	ハダニ類	5～8月	やや少	カンザワハダニなどの発生は遅く、7月の発生ほ場率は0%で、平年より低かった。収穫後の8月には発生はやや増加した。	近年発生量は減少傾向にあり、収穫期に到るまで少発生で推移した。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。
和歌山県	ウメ	黒星病	4～7月	やや少	予察園の無防除樹における初発は5月中旬と平年並であった。一般防除園での6月の発生ほ場率は0.8% (平年19.5%)、発病率は0.3% (平年0.7%)で平年よりやや少なかった。	主感染時期である3月下旬から5月上旬の降水量が平年より少なくなかったことによる。	DMI剤、Qoi剤、水和硫黄剤等により防除。
和歌山県	ウメ	かいよう病	3～7月	少	予察園の無防除樹における初発は4月下旬と平年並であった。一般防除園での6月の発生ほ場率は11.8% (平年53.9%)、発病率は0.5% (平年2.4%)で平年より少なかった。	4月に暴風雨の発生がなかったことによる。	発芽前に無機銅剤、生育期に抗生物質剤により防除。
和歌山県	ウメ	すす斑病	6～7月	並	予察園の無防除樹における初発は6月中旬、発病率は46.5% (平年51.6%)でそれぞれ平年並であった。		DMI剤、Qoi剤等により防除。
和歌山県	ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	やや多	本年の発生時期は平年並であり、6月の発生ほ場率は82.4% (平年46.5%)と平年よりやや多かった。	気象条件による。	第1世代幼虫発生期に有機リン剤により防除。多発園では第2世代、第3世代に追加防除。
和歌山県	ウメ	コスカシバ	4～11月	並	発生時期は平年並であり、6月の発生ほ場率は26.5% (平年23.2%)と平年並であった。		フェロモン剤で防除。多発園は枝幹散布剤や捕殺も併用。
和歌山県	ウメ	アブラムシ類	3～7月	やや少	被害新梢率は平年に比べやや少なく、6月の発生ほ場率は2.9% (平年15.0%)と平年よりやや少なかった。	気象条件による。	発芽前にネオニコチノイド剤等で防除。
和歌山県	ウメ	ハダニ類	4～7月	やや少	発生時期は平年並であり、6月の発生ほ場率は23.5% (平年59.1%)と平年よりやや少なかった。	気象条件による。	発生に応じて殺ダニ剤で防除。
和歌山県	ウメ	カメムシ類	4～7月	並	越冬成虫の飛来数は平年並であった。		防除は行われなかった。
和歌山県	キウイフルーツ	かいよう病	2～6月	やや少	全般的に発生はほとんど見られなかった。	春は好天に恵まれたため、昨年よりも少発生であった。	発生地域では、収穫後、発芽前に無機銅剤の散布。生育期の4月上旬、4月下旬、5月上旬に抗生物質剤等の散布が行われた。また、剪定に使用するハサミやノコギリの消毒が励行された。

Ⅶ. 作物病害虫の発生状況調査

1. 水稻の生育概況

1. 水稻作付面積の推移

	平成28年 (ha)	平成29年 (ha)	平成30年 (ha)	令和元年 (ha)	令和2年 (ha)	前年比 (%)
作付面積	6,720	6,560	6,430	6,360	6,250	98.3

注)・令和2年の作付面積は令和2年12月9日公表の数値
・近畿農政局調べ

2. 作況および1等米比率の年次推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
穂数(本/m ²)	366	378	361	351	335
1穂籾数(粒/穂)	79.3	76.2	78.9	80.9	81.5
m ² 当たり全籾数(千粒)	288	288	285	284	273
玄米千粒重(g)	21.9	21.9	22.1	21.6	20.9
玄米収量(kg/10a)	507	507	492	494	462
作況指数	102	102	99	99	92
1等米比率(%)	19.1	27.9	15.4	30.5	26.0

注)・令和2年の1等米比率は令和2年12月31日現在、その他の項目は令和2年12月9日公表の数値
・近畿農政局調べ

3. 作業時期および出穂期の年次推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
田植期	6月3日	6月4日	6月3日	6月4日	6月6日
出穂期	8月6日	8月7日	8月5日	8月8日	8月6日
刈取期	9月20日	9月18日	9月18日	9月18日	9月17日

注) 令和2年12月9日公表の数値、近畿農政局調べ

4. 品種の作付動向

作付面積が増加した品種：「きぬむすめ」(前年比 109%)
「にこまる」(前年比 140%)
「つや姫」(前年比 173%)
作付面積が減少した品種：「キヌヒカリ」(前年比 95%)
「イクヒカリ」(前年比 95%)
「ミネアサヒ」(前年比 92%)

5. 栽培上の変化

近年目立った変化はない。

6. 気象概況、生育状況、被害程度、検査等級

- 1) 田植え後の気温は、気温は6月下旬に平年を上回る時期があったものの、7月中旬までは平年より低く、8月上中旬は平年より高く推移した。日照時間は、6月下旬から7月中下旬にかけて平年を大幅に下回り、7月下旬から8月上旬は平年を上回った。8月中下旬は平年を下回ったものの、9月以降は平年を上回った。降水量は、台風の接近により7月下旬および8月中旬には平年を大幅に上回った。
- 2) 水稻の作柄は、穂数が7月の日照不足の影響等により少なくなったものの、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから全籾数は「やや少ない」となった。また、出穂期以降高温、多照に経過したものの、トビイロウンカの発生拡大による登熟への障害がみられ、被害拡大回避のための早刈りが行われたことなどから登熟は「やや不良」

となった。これらのことから、10a 当たりの収量は 462kg となった。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は 92 となった。

3) 被害は、7月の日照不足分げつの抑制がみられた。また、早生品種を中心に8月中下旬の高夜温の影響で未熟粒の発生が多くみられた。さらに、トビイロウンカによる坪枯れ、倒伏が多発した。

4) 以上の結果、県内の水稲の収穫量(主食用)は2万8,900 tとなり、前年産に比べ2,500 t減少した。

5) 水稲うるち玄米の検査等級は令和2年12月31日現在で、1等：26.0%、2等：53.6%、3等：18.0%、規格外：2.4%であった。また、2等以下に格付された理由は形質：69.5%、着色粒：14.9%、整粒不足：12.1%であった。

2. 予察圃場などにおける定点調査

1) 水稲予察圃場調査

(1) 休閑田におけるツマグロヨコバイ・ヒメトビウンカの発生推移と齢構成

調査 月日	調査地点	調査圃場数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均虫数	成虫合計	幼虫合計			平均虫数	成虫合計	幼虫合計		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
3.11	紀の川市貴志川町高尾	4	0.0	0	0	0	0	4.8	8	0	9	2
3.12	伊都郡かつらぎ町窪	4	2.5	5	1	4	0	6.8	13	2	12	0
3.12	和歌山市小倉	4	0.0	0	0	0	0	2.5	3	1	6	0
4.6	紀の川市貴志川町高尾	4	8.5	34	0	0	0	4.0	16	0	0	0
4.6	伊都郡かつらぎ町窪	4	42.0	168	0	0	0	0.8	2	0	0	1
4.3	和歌山市小倉	4	4.3	17	0	0	0	3.0	12	0	0	0

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

(2) 本田(出穂後)における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地域	調査圃場数	平均虫数	内訳					
				クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカスジカスミカメ	その他
7.16	紀南地域	3	1.7	5	0	0	0	0	0
8.6	紀中地域	4	7.8	16	0	3	0	8	4
8.12	和歌山、海草	4	0.3	0	0	1	0	0	0
8.11	伊都、那賀	4	5.8	0	2	1	0	17	3

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数(頭)

(3) ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

調査地点	令和2年	平年	過去10年の年次推移(%)									
			平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
和歌山市 小倉	4.1 (74)	8.8	10.3	12.2	15.7	10.0	9.1	12.5	4.9	6.0	2.5	4.8
かつらぎ町 窪	4.0 (50)	11.0	19.1	12.7	15.9	16.9	12.0	17.4	4.9	7.9	1.6	2.0

※ヒメトビウンカ採集及び検定は4月上旬～中旬。令和2年は和歌山市で4月3日、かつらぎ町で4月6日に採集し、4月8日に検定。

平成31年は4月3日に採集し、4月9日検定。平成30年より調査地点は和歌山市小倉およびかつらぎ町窪の2か所。

()内の値は検定虫数(単位:頭)

検定:平成22~27年は高比重ラテックス凝集反応法、平成28年以降はDAS-ELISA法で実施。

3. 水稻巡回圃場調査

調査地域区分				
地域 (作型)	市町村	地域別	調査地点	調査圃場数
紀北 (普通期)	和歌山市	中山間	谷	17
		平坦	直川、和佐関戸、朝日、小瀬田	
	海南市	中山間	次々谷	
		平坦	別院	
	海草郡	山間	紀美野町福田	
	紀の川市	平坦	西三谷、井田、貴志川町丸栖	
	岩出市	平坦	中迫	
	橋本市	中山間	山田	
		平坦	赤塚	
	伊都郡	山間	かつらぎ町下天野	
平坦		かつらぎ町西飯降		
有田郡	平坦	広川町広		
紀中 (普通期)	御坊市	平坦	野口	7
	日高郡	山間	日高川町熊野川	
		中山間	印南町印南原、みなべ町西本庄	
		平坦	日高町高家、日高川町和佐	
田辺市A	山間	龍神村甲斐ノ川		
紀南 (早期)	田辺市B	山間	中辺路町栗栖川	6
	西牟婁郡	中山間	上富田町市ノ瀬	
		平坦	白浜町富田、すさみ町周参見立野	
	新宮市	山間	熊野川町日足神丸	
東牟婁郡	中山間	那智勝浦町中里		

水稻巡回圃場調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
和歌山市・海南市・海草郡・岩出市	7/15	8/12	9/ 8
紀の川市・橋本市・伊都郡	7/15	8/11	9/ 8
有田郡・御坊市・日高郡・田辺市A	7/16	8/ 6	9/ 8
田辺市B・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡	6/ 9	7/16	8/ 4

1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における病害の発生状況(第1回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	11.5	19.5	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	12	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	17	1.4	2.3	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
普通期	山間	4	5.8	9.8	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	5	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	15	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	24	1.0	1.6	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	6	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
県計	山間	6	3.8	6.5	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	17	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	30	0.8	1.3	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	3.8	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.5	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.8	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀中) 普通期	山間	0.3	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	1.5	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.8	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.8	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
普通期	山間	2.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.6	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.8	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀南) 早期	山間	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
県計	山間	1.4	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.5	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.5	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.7	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-

圃場における害虫の発生状況(第1回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	5.5	2.0	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	6.5
	中山間	3	0.3	0.7	59.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	12	2.0	0.5	32.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	17	2.1	0.7	35.3	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.8
(紀中) 普通期	山間	2	1.0	0.0	19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	15.5
	中山間	2	2.5	2.5	96.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	3	0.3	1.0	12.7	0.0	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	7	1.1	1.1	38.4	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	4.4
普通期	山間	4	3.3	1.0	19.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	11.0
	中山間	5	1.2	1.4	73.8	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	15	1.7	0.6	28.2	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	24	1.8	0.8	36.2	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	1.8
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
県計	山間	6	2.2	0.7	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	—	0.0	—	0.0	—	7.3
	中山間	7	0.9	1.0	52.7	0.0	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	17	1.5	0.5	24.9	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	30	1.5	0.7	29.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.4	0.0	—	0.0	—	0.0	—	1.5

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	1.7	11.1	20.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	-	0.1	-	0.4	-	1.6
	中山間	2.1	39.9	58.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	-	0.3	-	0.0	-	2.0
	平坦	1.1	9.5	27.4	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	-	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	1.4	15.0	32.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	-	0.1	-	0.0	-	0.7
(紀中) 普通期	山間	1.7	4.8	9.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.6	-	0.1	-	0.0	-	2.5
	中山間	2.9	29.9	62.4	1.7	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	-	0.1	-	0.0	-	0.0
	平坦	0.6	4.2	23.1	0.9	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.1	-	0.0
	計	1.6	11.7	30.3	0.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.2	-	0.0	-	0.0	-	0.7
普通期	山間	1.7	7.9	14.7	0.0	0.0	0.9	0.1	0.0	0.3	-	0.1	-	0.2	-	2.0
	中山間	2.4	35.9	59.9	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	-	0.2	-	0.0	-	1.2
	平坦	1.0	8.4	26.5	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	-	0.0	-	0.0	-	0.2
	計	1.4	14.1	31.5	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.3	-	0.1	-	0.0	-	0.7
(紀早南) 期	山間	0.2	0.4	10.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	5.8	-	0.0	-	0.1	-	0.1
	中山間	0.1	0.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	3.5	-	0.0	-	0.0	-	1.9
	平坦	1.1	0.1	3.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	1.3	-	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	0.5	0.2	5.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	3.5	-	0.0	-	0.0	-	0.6
県計	山間	1.2	5.5	13.2	0.0	0.0	0.6	0.1	0.1	2.1	-	0.1	-	0.2	-	1.4
	中山間	1.8	25.7	43.1	0.5	0.0	0.2	0.0	0.2	1.1	-	0.2	-	0.0	-	1.4
	平坦	1.0	7.4	23.8	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	-	0.0	-	0.0	-	0.2
	計	1.2	11.3	26.2	0.2	0.0	0.3	0.0	0.1	0.9	-	0.1	-	0.0	-	0.7

圃場における病害の発生状況(第2回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	4.5	9.0
	中山間	3	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	12	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	17	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.5	1.1
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	7	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.9	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	2.3	4.5
	中山間	5	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.6	1.2	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	15	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	24	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.4	0.8
(紀早期)	山間	2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	6	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
県計	山間	6	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.5	3.0
	中山間	7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.9	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	17	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	30	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.3	0.6

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	4.7	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	中山間	0.9	0.0	1.9	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.1	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.5	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
(紀中) 普通期	山間	1.1	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.9
	中山間	4.5	0.0	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.5	0.0	0.5	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	2.2	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
普通期	山間	2.9	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	2.3	0.0	1.4	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
	平坦	1.2	0.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	計	1.7	0.0	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
(紀早南) 普通期	山間	3.3	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
	中山間	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.1
	平坦	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6
県計	山間	3.0	1.6	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	2.0	0.0	1.0	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.9
	平坦	1.1	0.0	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	1.7	0.3	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.6

圃場における害虫の発生状況(第2回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.5	6.0	17.5	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	3	1.7	4.3	27.7	1.7	0.0	3.0	0.0	0.0	—	0.7	0.0	0.0	—	0.0	0.3
	平坦	12	1.3	8.3	49.8	3.1	0.0	1.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	計	17	1.3	7.4	42.1	2.5	0.0	1.6	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.1
(紀中) 普通期	山間	2	1.0	12.0	39.5	24.0	0.0	8.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	3.5
	中山間	2	3.5	5.0	26.5	20.5	0.0	3.5	0.0	0.0	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	3	6.3	17.0	105.3	5.3	0.0	16.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	7	4.0	12.1	64.0	15.0	0.0	10.4	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.0
普通期	山間	4	0.8	9.0	28.5	12.0	0.0	4.8	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	1.8
	中山間	5	2.4	4.6	27.2	9.2	0.0	3.2	0.0	0.0	—	0.6	0.0	0.0	—	0.0	0.2
	平坦	15	2.3	10.1	60.9	3.5	0.0	4.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	計	24	2.1	8.8	48.5	6.1	0.0	4.2	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.4
(紀南) 早期	山間	2	0.5	1.0	10.5	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2	2.0	0.5	13.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	6	0.8	0.5	7.8	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
県計	山間	6	0.7	6.3	22.5	8.0	0.0	4.8	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	1.2
	中山間	7	2.3	3.4	23.1	6.6	0.0	2.7	0.0	0.0	—	0.4	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	平坦	17	2.1	8.9	53.7	3.1	0.0	4.1	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	計	30	1.8	7.1	40.3	4.9	0.0	3.9	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.3

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第2回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	3.8	21.6	21.9	0.1	0.0	0.8	0.0	0.0	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	2.9
	中山間	2.6	14.5	12.7	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	-	0.0	0.8	0.0	-	0.0	0.5
	平坦	3.6	25.9	49.8	0.5	0.0	2.0	0.1	0.0	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.2
	計	3.4	23.4	40.0	0.4	0.0	1.5	0.1	0.0	-	0.0	0.3	0.0	-	0.0	0.5
(紀中) 普通期	山間	0.9	3.4	14.8	0.9	0.1	2.1	0.2	0.0	-	0.2	0.7	0.0	-	0.0	2.0
	中山間	5.0	17.7	17.9	1.8	0.0	1.3	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	1.8	13.1	23.1	1.6	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.1
	計	2.4	11.6	19.2	1.5	0.0	1.1	0.0	0.0	-	0.1	0.2	0.0	-	0.0	0.6
普通期	山間	2.3	12.5	18.4	0.5	0.0	1.4	0.1	0.0	-	0.2	0.4	0.0	-	0.0	2.4
	中山間	3.6	15.8	14.8	0.8	0.0	0.5	0.0	0.0	-	0.0	0.5	0.0	-	0.0	0.3
	平坦	3.2	23.4	44.5	0.7	0.0	1.7	0.1	0.0	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.1
	計	3.1	20.0	33.9	0.7	0.0	1.4	0.1	0.0	-	0.0	0.3	0.0	-	0.0	0.6
(紀早期) 普通期	山間	1.6	11.8	86.3	0.2	0.0	5.2	0.1	0.0	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2.0	11.2	38.2	0.1	0.0	5.2	0.1	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	1.5
	平坦	12.9	5.2	44.8	0.1	0.0	8.3	0.1	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	0.4
	計	5.5	9.3	53.2	0.1	0.0	6.2	0.1	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	0.6
県計	山間	2.1	12.3	37.8	0.4	0.0	2.7	0.1	0.0	-	0.1	0.3	0.0	-	0.0	1.6
	中山間	3.1	14.5	21.5	0.6	0.0	1.8	0.1	0.0	-	0.0	0.4	0.0	-	0.0	0.6
	平坦	4.3	21.2	44.5	0.6	0.0	2.4	0.1	0.0	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.2
	計	3.6	17.8	37.6	0.6	0.0	2.3	0.1	0.0	-	0.0	0.2	0.0	-	0.0	0.6

圃場における病害の発生状況(第3回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.7	5.3
	平坦	12	-	-	0.0	0.0	0.0	2.3	5.3	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.3	4.6
	計	17	-	-	0.0	0.0	0.0	1.6	3.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.1	4.2
(紀中) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.7	1.7
	計	7	-	-	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7
普通期	山間	4	-	-	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	5	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.6	3.2
	平坦	15	-	-	0.0	0.0	0.0	1.9	4.2	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.9	4.0
	計	24	-	-	0.0	0.0	0.0	1.3	2.8	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.5	3.2
(紀早期)	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	1.5	1.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3.5	10.0
	平坦	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.0	21.5
	計	6	-	-	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	3.8	10.5
県計	山間	6	-	-	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	7	-	-	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.1	5.1
	平坦	17	-	-	0.0	0.0	0.0	1.6	3.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.6	6.1
	計	30	-	-	0.0	0.0	0.0	1.1	2.3	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.0	4.6

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	-	13.9	2.0	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	9.7
	中山間	-	0.4	4.0	-	-	0.0	-	0.6	0.0	0.0	6.8
	平坦	-	0.7	6.0	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.8
	計	-	2.2	5.2	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.6
(紀中) 普通期	山間	-	0.5	2.3	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.2
	中山間	-	8.4	4.2	-	-	0.0	-	0.0	0.2	0.0	5.2
	平坦	-	0.3	2.9	-	-	0.0	-	0.5	0.0	0.0	5.1
	計	-	2.7	3.1	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	4.9
普通期	山間	-	9.2	2.1	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.7
	中山間	-	3.3	4.2	-	-	0.0	-	0.3	0.1	0.0	6.0
	平坦	-	0.6	5.5	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.0
	計	-	2.4	4.6	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.4
(紀南) 早期	山間	-	4.4	1.5	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.8
	中山間	-	0.0	0.5	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.7
	平坦	-	0.0	0.3	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.6
	計	-	1.5	0.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.1
県計	山間	-	6.9	2.0	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.7
	中山間	-	2.4	3.1	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	6.8
	平坦	-	0.5	4.8	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.2
	計	-	2.2	3.8	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.6

圃場における害虫の発生状況(第3回)

2020年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.5	0.0	8.5	148.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3	0.3	0.3	7.0	131.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	12	3.1	6.9	12.3	71.4	0.0	1.9	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	17	2.3	4.9	10.9	90.9	0.0	1.4	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	2	30.5	0.5	2.0	19.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	44.0	0.0	3.0	23.5	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	3	0.0	4.3	20.0	8.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	7	21.3	2.0	10.0	15.6	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
普通期	山間	4	15.5	0.3	5.3	83.5	0.0	0.0	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	5	17.8	0.2	5.4	88.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	15	2.5	6.4	13.9	58.7	0.0	1.5	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	24	7.8	4.1	10.7	69.0	0.0	1.0	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀南) 早期	山間	2	4.5	2.5	9.5	2.0	0.0	6.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	0.5	14.5	7.5	0.0	0.0	11.5	0.0	—	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2	19.0	4.0	20.5	10.0	0.0	2.5	0.0	—	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	6	8.0	7.0	12.5	4.0	0.0	6.7	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
県計	山間	6	11.8	1.0	6.7	56.3	0.0	2.0	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7	12.9	4.3	6.0	62.9	0.0	3.3	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	17	4.4	6.1	14.6	53.0	0.0	1.6	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	30	7.9	4.7	11.0	56.0	0.0	2.1	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2010~2019年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	5.2	17.2	16.8	1.1	0.0	1.5	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	3.8	11.7	6.2	0.2	0.0	6.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	3.5	17.7	13.4	4.1	0.0	12.1	0.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	3.7	16.5	12.4	3.0	0.0	9.7	0.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀中) 普通期	山間	11.7	7.5	30.4	2.1	0.0	4.2	0.1	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	9.1	14.2	15.2	1.5	0.0	27.7	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	0.4	35.0	9.9	1.5	0.0	5.5	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	6.1	21.2	17.3	1.7	0.0	11.4	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
普通期	山間	7.8	12.1	22.3	1.5	0.0	2.6	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	5.6	12.3	9.4	0.6	0.0	13.6	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	平坦	2.9	20.7	13.0	3.5	0.0	10.6	0.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	4.3	17.6	13.9	2.6	0.0	9.9	0.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
(紀南) 早期	山間	0.6	4.1	4.8	0.0	0.0	3.1	0.1	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	3.5	19.4	45.1	1.5	0.0	5.5	0.0	0.0	-	0.1	0.2	0.2	-	0.0	-
	平坦	5.6	17.7	17.7	1.9	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.1	0.2	0.0	-	0.0	-
	計	3.2	13.8	22.6	1.1	0.0	2.8	0.0	0.0	-	0.1	0.1	0.1	-	0.0	-
県計	山間	5.4	9.3	17.9	1.0	0.0	2.7	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-
	中山間	5.0	14.4	19.6	0.9	0.0	11.3	0.0	0.0	-	0.1	0.1	0.0	-	0.0	-
	平坦	3.2	20.4	13.5	3.3	0.0	9.4	0.0	0.0	-	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-
	計	4.1	16.8	15.5	2.3	0.0	8.5	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3956	発生面積	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
紀中 (普通期) 1330	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
普通期計 5286	発生面積	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
紀南 (早期) 1074	発生面積	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
県計 6360	発生面積	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	甚	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	多	233	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	中	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-
	少	0	-	0	0	0	-	0	-	0	-	-

発生程度基準: 葉いもち: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
 穂いもち: 25株あたり病穂数、少 \leq 50、50 $<$ 中 \leq 200、200 $<$ 多 \leq 350、甚 $<$ 350
 紋枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
 萎縮病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $<$ 17
 縞葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $<$ 17
 もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少 \leq 3、3 $<$ 中 \leq 8、8 $<$ 多 \leq 15、甚 $<$ 15
 馬鹿苗病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $<$ 7
 ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
 白葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 12、12 $<$ 中 \leq 20、20 $<$ 多 \leq 25、甚 $<$ 25
 稲こうじ病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $<$ 7
 内えい褐変病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 20、甚 $<$ 20

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3956	発生面積	2094	1629	3258	0	0	698	0	0	0	0	0	0	0	0	233	2560		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	少	2094	1629	3258	0	0	698	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2560		
紀中 (普通期) 1330	発生面積	760	570	1330	0	0	760	0	0	0	0	0	0	0	0	380	950		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0		
	少	760	570	1330	0	0	570	0	0	0	0	0	0	0	0	0	950		
普通期計 5286	発生面積	2854	2199	4588	0	0	1458	0	0	0	0	0	0	0	0	613	3510		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233	0		
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0		
	少	2854	2199	4588	0	0	1268	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3510		
紀南 (早期) 1074	発生面積	179	0	0	0	0	0	0	537	0	0	0	0	0	0	0	0		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	179	0	0	0	0	0	0	0	0		
	少	179	0	0	0	0	0	0	358	0	0	0	0	0	0	0	0		
県計 6360	発生面積	3033	2199	4588	0	0	1458	0	537	0	0	0	0	0	0	613	3510		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233	0		
	中	0	0	0	0	0	190	0	179	0	0	0	0	0	0	190	0		
	少	3033	2199	4588	0	0	1268	0	358	0	0	0	0	0	0	0	3510		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

ヒメトビウンカ:25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

セジロウンカ:25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚<2500

トビイロウンカ:25株あたり虫数、少≤125、125<中≤525、525<多≤1250、甚<1250

ニカメイガ:25株あたり被害株数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚<22

コブノメイガ:25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚<180

イチモンジセセリ:25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネミズゾウムシ:25株あたり虫数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネゾウムシ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

フタオビコヤガ:25株あたり虫数、少≤25、25<中≤100、100<多≤250、甚<250

ハモグリバエ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

イナゴ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3956	発生面積	1164	0	931	0	0	-	0	-	0	-	233
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	233
	少	1164	0	931	0	0	-	0	-	0	-	0
紀中 (普通期) 1330	発生面積	570	0	380	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	570	0	380	0	0	-	0	-	0	-	0
普通期計 5286	発生面積	1734	0	1311	0	0	-	0	-	0	-	233
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	233
	少	1734	0	1311	0	0	-	0	-	0	-	0
紀南 (早期) 1074	発生面積	537	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	少	537	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
県計 6360	発生面積	2271	0	1311	0	0	-	0	-	0	-	233
	甚	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	233
	少	2271	0	1311	0	0	-	0	-	0	-	0

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ミズ	ネゾ	米カ	オビ	ヨト	グリ	シン	ナゴ	ミリン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ウ	カ	コ	ウ	バ	ガ	レ	ン
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ウ	ム	メ	ヤ	エ	レ	セ	ン	ゴ
		イ	カ		カ			セ	シ	シ	ム	ガ		セ	チ	イ	ガ
											シ			ユ			
紀北 (普通期) 3956	発生面積	1629	3025	3491	2327	0	2094	0	0	—	465	0	0	—	0	465	2560
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	少	1629	3025	3491	2327	0	2094	0	0	—	465	0	0	—	0	465	2560
紀中 (普通期) 1330	発生面積	1140	1330	1330	1330	0	1330	0	0	—	190	0	0	—	0	190	760
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	—	0	0	0	—	0	190	0
	少	1140	1330	1330	1330	0	1140	0	0	—	190	0	0	—	0	0	760
普通期計 5286	発生面積	2769	4355	4821	3657	0	3424	0	0	—	655	0	0	—	0	655	3320
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	—	0	0	0	—	0	190	0
	少	2769	4355	4821	3657	0	3234	0	0	—	655	0	0	—	0	465	3320
紀南 (早期) 1074	発生面積	358	358	358	0	0	716	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	少	358	358	358	0	0	716	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
県計 6360	発生面積	3127	4713	5179	3657	0	4140	0	0	—	655	0	0	—	0	655	3320
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	—	0	0	0	—	0	190	0
	少	3127	4713	5179	3657	0	3950	0	0	—	655	0	0	—	0	465	3320

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚<750

斑点米カメムシ類:25株当たり虫数、少≤1、1<中≤4、4<多≤10、甚<10

アワヨトウ:25株当たり虫数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚<100

シンガレセンチュウ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3956	発生面積	-	0	1629	0	-	0	0	0	0	0	1629
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	233
	中	-	0	233	0	-	0	0	0	0	0	465
	少	-	0	1396	0	-	0	0	0	0	0	931
紀中 (普通期) 1330	発生面積	-	0	190	0	-	0	0	0	0	0	380
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	少	-	0	190	0	-	0	0	0	0	0	380
普通期計 5286	発生面積	-	0	1819	0	-	0	0	0	0	0	2009
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	233
	中	-	0	233	0	-	0	0	0	0	0	465
	少	-	0	1586	0	-	0	0	0	0	0	1311
紀南 (早期) 1074	発生面積	-	0	358	0	-	0	0	0	0	0	358
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	179
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	179
	少	-	0	358	0	-	0	0	0	0	0	0
県計 6360	発生面積	-	0	2177	0	-	0	0	0	0	0	2367
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	412
	中	-	0	233	0	-	0	0	0	0	0	644
	少	-	0	1944	0	-	0	0	0	0	0	1311

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ミズ	ゾウ	米	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミ
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	ガ	ジ	ズ	カ	コ	コ	バ	ガ	ガ	ゴ	リ
		バイ	ン	カ	ン			セ	ウ	メ	カ	ヤ	エ	レ	セ	ゴ	ン
			カ		カ			セ	ム	ム	メ	ガ		セ	ン	ゴ	ゴ
								リ	シ	シ	シ			ン	ン	ゴ	イ
											類			チ	チ	イ	
														ユ	ユ		
紀北 (普通期) 3956	発生面積	1629	2792	3723	3491	0	1164	0	-	-	465	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	1164	0	0	0	-	-	233	0	0	-	0	-	-
	少	1629	2792	3723	2327	0	1164	0	-	-	233	0	0	-	0	-	-
紀中 (普通期) 1330	発生面積	570	570	950	1330	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	少	570	570	950	1330	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
普通期計 5286	発生面積	2199	3362	4673	4821	0	1164	0	-	-	465	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	1164	0	0	0	-	-	233	0	0	-	0	-	-
	少	2199	3362	4673	3657	0	1164	0	-	-	233	0	0	-	0	-	-
紀南 (早期) 1074	発生面積	537	895	895	358	0	716	0	-	-	358	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	少	537	895	895	358	0	716	0	-	-	358	0	0	-	0	-	-
県計 6360	発生面積	2736	4257	5568	5179	0	1880	0	-	-	823	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	1164	0	0	0	-	-	233	0	0	-	0	-	-
	少	2736	4257	5568	4015	0	1880	0	-	-	591	0	0	-	0	-	-

発生程度基準: ツマグロヨコバイは第2回発生面積の基準に同じ
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 い もち	穂 い もち	紋 枯 病	萎 縮 病	縞 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	ば か 苗 病	ご ま 葉 枯 病	白 葉 枯 病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期) 3956	発生面積	1164	0	1629	0	0	0	0	0	0	0	1629
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233
	中	0	0	233	0	0	0	0	0	0	0	465
	少	1164	0	1396	0	0	0	0	0	0	0	931
紀中 (普通期) 1330	発生面積	570	0	380	0	0	0	0	0	0	0	380
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	570	0	380	0	0	0	0	0	0	0	380
普通期計 5286	発生面積	1734	0	2009	0	0	0	0	0	0	0	2009
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	233
	中	0	0	233	0	0	0	0	0	0	0	465
	少	1734	0	1776	0	0	0	0	0	0	0	1311
紀南 (早期) 1074	発生面積	537	0	358	0	0	0	0	0	0	0	358
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179
	少	537	0	358	0	0	0	0	0	0	0	0
県計 6360	発生面積	2271	0	2367	0	0	0	0	0	0	0	2367
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	412
	中	0	0	233	0	0	0	0	0	0	0	644
	少	2271	0	2134	0	0	0	0	0	0	0	1311

主要害虫の発生程度別面積(年計)

2020年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ミズ	ネ	点	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミリン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	米	カ	ビ	バ	ガ	ガ	レ	ン
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ウ	メ	メ	コ	エ	レ	セ	ン	ゴ
		イ	カ	カ	カ			セ	ム	ム	ム	ヤ		セ	ン	イ	イ
		イ	カ	カ	カ			セ	シ	シ	シ	ガ		ン	ン	ゴ	ゴ
		イ	カ	カ	カ			セ	シ	シ	シ	ガ		ン	ン	ゴ	ゴ
		イ	カ	カ	カ			セ	シ	シ	シ	ガ		ン	ン	ゴ	ゴ
		イ	カ	カ	カ			セ	シ	シ	シ	ガ		ン	ン	ゴ	ゴ
紀北 (普通期) 3956	発生面積	2094	3025	3723	3491	0	2094	0	0	0	465	0	0	0	0	465	2560
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	1164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	2094	3025	3723	2327	0	2094	0	0	0	465	0	0	0	0	465	2560
紀中 (普通期) 1330	発生面積	1140	1330	1330	1330	0	1330	0	0	0	190	0	0	0	0	380	950
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0
	少	1140	1330	1330	1330	0	1140	0	0	0	190	0	0	0	0	0	950
普通期計 5286	発生面積	3234	4355	5053	4821	0	3424	0	0	0	655	0	0	0	0	845	3510
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	1164	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0
	少	3234	4355	5053	3657	0	3234	0	0	0	655	0	0	0	0	465	3510
紀南 (早期) 1074	発生面積	537	895	895	358	0	716	0	537	0	358	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	179	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	537	895	895	358	0	716	0	358	0	358	0	0	0	0	0	0
県計 6360	発生面積	3771	5250	5948	5179	0	4140	0	537	0	1013	0	0	0	0	845	3510
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	1164	0	190	0	179	0	0	0	0	0	0	190	0
	少	3771	5250	5948	4015	0	3950	0	358	0	1013	0	0	0	0	465	3510

4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

1) 予察灯 (60W白熱灯)

単位：頭

月 半月	ニカメイガ						ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ							
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町			
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年		
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.1	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
5 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.1
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	1.3	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.6
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.6	0	1.4	0	1.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	1.7	0	10.8	0	1.7	0	0.4	0	0.2	0	0.4	0	0.4
6 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	0.5	0	4.2	0	5.9	0	0.5	1	0.0	0	0.2	0	0.2
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	12.5	0	7.1	0	0.9	0	0.1	0	0.8	0	0.8
5	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	2	17.4	2	4.1	0	0.5	1	0.2	0	0.5	0	0.5
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	9.1	1	3.2	1	0.7	6	0.0	0	0.1	0	0.1
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	2.9	9	37.0	0	0.8	0	0.0	0	0.3	0	0.3
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.7	1	30.9	0	0.4	0	0.0	3	0.5	3	0.5
7 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.9	1	4.5	5	76.2	0	0.9	3	0.5	1	5.5	1	5.5
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.7	3	18.3	5	121.2	3	0.6	1	0.0	1	1.2	1	1.2
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.3	1	38.0	8	93.5	1	1.0	2	0.1	3	1.6	3	1.6
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.4	3	16.8	2	76.9	0	1.1	9	0.2	2	1.5	2	1.5
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.4	7	3.9	8	25.6	2	4.3	30	0.6	5	10.1	5	10.1
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.8	7	2.2	5	21.9	2	5.8	8	0.3	0	2.9	0	2.9
8 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	3.5	0	1.5	10	46.5	2	6.2	1	0.4	3	9.6	3	9.6
4	0	0.0	0	0.0	1	0.0	1	1.8	2	0.6	1	94.0	5	3.5	26	0.4	2	10.8	2	10.8
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.6	0	0.5	1	91.3	9	9.2	1	0.1	5	2.6	5	2.6
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	2.4	1	0.4	0	70.9	14	4.0	10	0.3	5	5.2	5	5.2
合 計	1	0.3	0	0.0	1	0.0	37	24.5	27	151.2	58	810.5	40	41.2	99	3.6	30	55.0	30	55.0

単位：頭

月 半旬	セジロウンカ						トビイロウンカ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.9
6	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.7
1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	35	6.1	0	1.5
2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	7.8	7	5.4
5 3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.8	1	8.2
4	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	4.0	0	1.8
5	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	8.7	3	6.3
6	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	9	3.0	1	1.4
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	9	2.1	0	0.9
2	0	0.2	0	1.4	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.4	0	1.1
6 3	0	1.6	7	0.9	11	2.5	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.6	0	1.6
4	0	28.3	13	22.2	1	13.2	0	0.1	2	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.8
5	0	25.4	3	26.0	0	5.3	0	0.0	1	0.1	2	0.1	0	0.0	0	0.4	0	0.1
6	0	3.8	13	4.1	1	4.3	0	0.1	3	0.0	0	0.9	0	0.0	0	2.0	0	1.1
1	1	10.8	341	19.7	85	19.9	0	0.1	140	0.1	37	0.6	0	0.0	0	1.0	0	2.7
2	14	2.1	5	1.5	54	20.7	4	0.0	3	0.1	89	0.3	0	0.0	0	1.4	4	4.7
7 3	1	10.4	61	5.7	11	16.4	2	0.3	7	0.2	31	0.6	0	0.0	2	1.5	6	5.7
4	4	1.1	56	0.8	19	5.4	6	0.1	1	0.0	11	0.4	0	0.0	0	0.4	3	8.1
5	48	1.2	16	0.9	17	18.1	1	0.0	3	0.0	6	0.1	1	0.0	1	0.8	8	5.9
6	22	3.1	26	2.4	34	17.2	1	0.3	0	0.2	10	0.1	0	0.0	1	0.6	0	6.7
1	10	5.8	55	2.1	62	15.9	2	0.4	7	0.2	0	0.1	0	0.0	1	0.6	4	4.2
2	4	26.2	84	2.0	2	7.5	6	0.6	10	0.2	2	12.2	0	0.0	0	0.2	2	3.8
8 3	15	13.8	23	1.6	14	21.0	7	0.7	4	0.3	2	3.7	0	0.0	2	0.3	0	2.4
4	14	30.2	149	8.7	10	92.3	3	0.8	7	0.2	3	10.1	0	0.0	3	0.4	0	1.3
5	152	15.7	33	4.6	75	74.7	3	2.2	17	2.3	5	9.9	0	0.0	0	0.3	0	0.6
6	139	7.1	88	1.8	52	129.4	203	3.9	473	4.9	104	30.8	0	0.0	0	0.1	0	0.3
合 計	424	186.9	973	106.7	449	464.7	238	9.6	678	9.0	304	70.2	1	0.1	90	51.9	39	78.7

斑点米カメムシ類

紀の川市

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	イネカ メムシ	ホソミ ドリカ スミカ メ類
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	2	0	0
1	0	0	0	0	0	5	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	6
6 3	0	0	1	0	0	3	0	24
4 4	0	0	0	0	0	1	0	1
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	3	0	1
1	0	0	0	0	0	1	0	1
2	0	0	0	0	0	0	0	0
7 3	1	0	0	0	2	1	0	0
4 4	2	0	0	0	0	2	0	2
5 5	0	0	0	0	3	11	0	2
6 6	0	0	0	0	0	4	0	0
1	7	0	0	1	0	5	0	2
2	22	0	0	0	0	19	0	2
8 3	46	0	0	0	1	19	0	1
4 4	29	0	0	0	2	36	0	4
5 5	28	0	0	0	1	10	1	0
6 6	9	0	2	0	0	22	1	3
合 計	144	0	3	1	9	144	2	49

上富田町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	イネカ メムシ	ホソミ ドリカ スミカ メ類
4	1	0	0	0	1	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	1	0	0	0
5	1	0	0	0	1	0	0	0
	2	0	0	0	1	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	2	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	7	0	0
6	1	0	0	0	0	5	0	3
	2	0	0	0	0	23	0	0
	3	0	0	0	1	52	0	1
	4	0	0	0	14	14	0	0
	5	0	0	0	11	4	0	1
	6	0	0	0	7	0	0	2
7	1	0	0	3	11	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	5	0	0	0
	4	0	0	0	2	2	0	0
	5	0	0	0	0	1	0	0
	6	0	0	0	0	2	1	0
8	1	1	0	0	0	6	2	1
	2	3	0	0	1	5	2	0
	3	0	0	0	1	5	1	0
	4	2	0	0	1	2	1	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	1	0	0	0
合 計	6	0	0	3	59	130	7	8

那智勝浦町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	イネカ メムシ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	0	0	
5	1	0	0	0	0	0	1	0	
	2	0	0	0	0	6	0	0	
	3	0	0	1	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	2	0	
	6	0	0	0	0	0	9	1	
6	1	0	0	0	0	16	0	29	
	2	0	0	0	0	42	0	7	
	3	1	0	0	0	1	82	7	
	4	0	0	0	0	17	0	4	
	5	6	0	0	0	16	2	1	
	6	14	0	0	0	13	3	0	
7	1	1	0	0	0	8	2	2	
	2	5	0	0	0	4	12	2	
	3	8	0	0	1	10	10	0	
	4	4	0	0	0	33	12	0	
	5	8	0	0	0	74	28	0	
	6	12	1	0	0	24	48	1	
8	1	14	0	0	0	18	15	1	
	2	18	0	0	0	1	20	9	0
	3	28	5	0	0	9	23	24	0
	4	49	1	0	0	17	17	25	0
	5	25	2	0	0	25	14	20	0
	6	6	0	0	0	20	40	10	1
合 計	199	9	1	1	79	482	221	56	

2) フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.1
	2	0	0.8
4	3	0	0.7
	4	2	0.3
	5	1	0.9
	6	1	0.3
<hr/>			
	1	0	0.6
	2	0	0.3
5	3	0	0.3
	4	0	0.3
	5	0	0.3
	6	1	0.1
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
6	3	1	0.1
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.4
7	3	1	0.3
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
9	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.1
<hr/>			
合 計		7	8.0

3) 蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.0
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	1	0.0
	2	0	0.0
7	3	4	0.1
	4	3	1.5
	5	3	3.7
	6	15	3.2
<hr/>			
	1	13	1.3
	2	5	1.6
8	3	2	1.4
	4	—	—
	5	—	—
	6	—	—
<hr/>			
合 計		46	12.8

Ⅷ. 野菜・花き病害虫の発生状況調査

1. 巡回調査における発生状況

1) キャベツ

①キャベツにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	黒腐病		菌核病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
4.15	16	0	0	0	0	0	0
10.20	13	0	0	0	0	-	-
12.18	18	0	0	22	1.8	-	-
3.24	15	0	0	47	0.6	13	0.5

注) 1圃場100株調査

②キャベツにおける害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				コナガ		モンシロチョウ	
		モモアカアブラムシ		ニセダイコンアブラムシ		発生圃場率 (%)	生息密度 (頭/株)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)				
4.15	11	18	0.9	0	0	0	0	0	0
10.16	8	137	0.6	0	0	0	0	25	2.5
3.15	7	14	0.7	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ヨトウガ		ハスモンヨトウ		ウワバ類		オオタバコガ		シロイチモジヨトウ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.15	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.16	8	0	0	25	3.8	0	0	0	0	0	0
3.15	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場20株調査。

2) ハクサイ

①ハクサイにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		軟腐病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.20	16	0	0	0	0	0	0
12.18	17	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	白斑病		黒斑病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.20	16	6	2.9	0	0
12.18	17	0	0	0	0

注) 1圃場100株調査

3) スイカ

①露地栽培スイカにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.20	9	0	0	0	0	0	0	0	0
6.16	9	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

②露地栽培スイカにおける病害の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.20	13	0	0	0	0	0	0	0	0
6.17	15	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

③露地栽培スイカにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類 ※1		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	被害果率 (%)
4.22	10	50	0.0	80	0.1	0	0	0	0	0
5.22	8	63	2.3	88	5.0	0	0	0	0	0
6.22	9	89	19.3	78	21.3	0	0	33	0	3

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.22	10	0	0	0	0	10	0.1
5.22	8	0	0	0	0	0	0
6.22	9	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

※1 発生種：ワタアブラムシ

4) キュウリ

①施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		斑点細菌病		べと病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	13	0	0	0	0	31	2.7	0	0
5.19	13	0	0	0	0	38	4.3	23	1.6
6.17	13	0	0	0	0	38	1.3	31	2.1

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	13	0	0	0	0	8	0.7
5.19	13	0	0	0	0	15	0.8
6.17	13	0	0	0	0	15	0.5

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

②施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	10	0	0	0	0	0	0	60	31.6
5.19	12	0	0	17	2.3	0	0	67	25.5
1.26	11	0	0	0	0	0	0	36	9.9
2.24	10	0	0	0	0	0	0	30	10.7
3.17	10	0	0	0	0	0	0	70	16.1

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	10	70	14.4	10	0.2	0	0	20	0.7
5.19	12	67	17.3	0	0	0	0	17	3.5
1.26	11	73	8.3	0	0	0	0	9	2.2
2.24	10	80	8.8	0	0	0	0	0	0
3.17	10	80	14.8	0	0	0	0	10	0.2

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

③施設栽培キュウリにおける害虫の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類		コナジラミ類			
						オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.16	10	20	0.4	0	0	0	0	40	7.3
5.18	8	38	0.9	0	0	0	0	75	5.8
3.17	10	0	0	0	0	0	0	40	6.2

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.16	10	20	4.6	10	0.1	0	0
5.18	8	75	7.6	0	0	0	0
3.17	10	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場50株、2葉/株調査

5) ナス

①露地栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
5.20	7	0	0	0	0
6.16	8	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

②施設栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.17	13	8	0.5	8	0.1	0	0
5.19	12	17	1.9	0	0	8	0.1
6.17	12	17	1.1	0	0	25	1.0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

③露地栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.18	6	0	0	17	0.7	17	0.7	0	0
7.13	6	0	0	17	0.7	33	6.7	0	0
8.13	6	0	0	50	2	17	6.7	0	0
9.16	6	0	0	67	5.3	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.18	6	0	0	0	0	33	1.3
7.13	6	0	0	0	0	0	0
8.13	6	50	10.7	0	0	0	0
9.16	6	67	8.7	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
		6.18	6	17	4
7.13	6	0	0	0	0
8.13	6	0	0	0	0
9.16	6	33	1.3	0	0

注) 1圃場中位葉25枚調査

④施設栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.18	9	0	0	0	0	22	1.3	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類							
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.18	9	22	1.3	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場中位葉25枚調査

6) トマト・ミニトマト

①露地栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（日高町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		疫病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
6.23	7	0	0	0	0	0	0	57	5.7
7.21	7	0	0	0	0	0	0	71	26.0
8.18	7	0	0	86	8.6	0	0	14	5.1

注) 1圃場50株調査

②施設栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		灰色かび病		葉かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.23	10	0	0	10	0.2	0	0	50.0	18.4
5.21	10	0	0	0	0	0	0	90.0	34.6
9.23	10	0	0	0	0	0	0	0	0
10.15	10	0	0	0	0	0	0	0	0
11.19	10	0	0	0	0	0	0	0	0
12.16	10	0	0	0	0	0	0	70.0	15.2
1.20	10	0	0	0	0	0	0	50.0	10.4
2.22	10	0	0	0	0	0	0	40.0	4.0
3.18	10	0	0	0	0	0	0	50.0	7.4

③施設栽培ミニトマトにおける害虫の発生状況（印南町、日高町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		アブラムシ類		ハダニ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.18, 22	9	56	3.8	11	0.1	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類	
		発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)
5.18, 22	9	0	0

注) 1圃場100葉調査

7) タマネギ

①タマネギにおける病害の発生状況（和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	さび病		べと病				白色疫病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	(越年罹病株)		(二次感染株)		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)				
4.15	30	0	0	3	0.10	23	0.67	30	0.54	0	0
2.17	29	0	0	3	0.06	0	0	3	0.01	0	0
3.4	30	0	0	10	0.09	0	0	7	0.05	3	0.003
3.17	30	0	0	10	0.12	10	0.27	17	0.21	0	0

注) 1圃場500株調査

8) エンドウ

①露地栽培サヤエンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
9.24	16	0	0	0	0	0	0
10.21	16	0	0	6	0.6	6	0.6

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.24	16	0	0	0	0
10.21	16	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

②露地栽培実エンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.18	13	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
3.18	13	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

③露地栽培エンドウにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類				アザミウマ類	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	カンザワハダニ		ナミハダニ		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)		
9.23	11	0	0	0	0	0	0	0	0
10.20	11	0	0	0	0	0	0	100	27.5

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ウラナミシジミ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
10.20	11	0	0	27	3.6	9	0.9	73	14.5

注) 1圃場10株調査

9) イチゴ

①施設栽培イチゴにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		うどんこ病			
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	(葉)		(果実)	
				発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
3.22	8	13	0.1	0	0	0	0

注) 1圃場100果または100葉調査

②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		アザミウマ類		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
3.22	8	0	0	25	11.2	0	0.0	13	11.2

注) 1圃場20株、1株1複葉調査

2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市：紀の川市貴志川町高尾
和歌山市：和歌山市岩橋

御坊市：御坊市名田町野島
印南町：日高郡印南町印南

1) コナガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年※			本年	平年	本年	平年※
1	1	0	0.5	1	1.1	7	1	0	0.2	10	20.3
	2	1	0.2	0	1.6		2	3	0.2	10	8.8
	3	1	0.6	0	0.1		3	0	0.2	2	2.8
	4	0	0.5	0	3.0		4	0	0.0	1	2.2
	5	3	0.4	0	0.4		5	0	0.1	0	0.7
	6	4	0.6	1	0.3		6	0	0.0	0	0.7
2	1	0	0.5	1	0.4	8	1	0	0.0	1	0.0
	2	0	0.5	1	0.6		2	0	0.0	2	0.0
	3	0	0.2	0	0.3		3	0	0.0	0	0.1
	4	0	0.2	5	0.6		4	0	0.0	2	0.0
	5	0	0.6	4	1.8		5	0	0.0	0	0.0
	6	0	1.1	8	1.3		6	0	0.1	0	0.1
3	1	0	1.8	14	2.0	9	1	0	0.0	4	0.3
	2	1	2.2	9	3.3		2	0	0.0	4	1.4
	3	0	1.2	18	3.6		3	0	0.0	8	3.6
	4	1	1.9	23	8.8		4	0	0.0	4	8.9
	5	1	3.5	11	9.4		5	0	0.0	9	8.9
	6	4	1.7	10	19.6		6	0	0.0	9	7.9
4	1	2	2.3	6	17.9	10	1	0	0.1	9	11.8
	2	1	2.2	12	20.4		2	0	0.0	6	14.8
	3	0	2.6	30	27.6		3	0	0.0	3	17.3
	4	1	2.1	21	26.7		4	0	0.0	7	16.3
	5	2	1.9	47	24.0		5	0	0.4	5	15.0
	6	0	2.1	93	15.9		6	0	0.2	9	13.2
5	1	1	2.2	95	26.0	11	1	1	0.1	33	9.2
	2	1	4.0	81	28.1		2	0	0.5	25	10.2
	3	0	4.0	8	45.6		3	0	0.4	23	9.1
	4	0	5.0	0	66.1		4	0	0.9	9	12.6
	5	0	2.6	9	103.8		5	0	0.9	4	5.0
	6	0	1.4	11	114.2		6	2	1.9	2	1.0
6	1	0	1.3	12	35.1	12	1	1	0.2	0	4.0
	2	0	1.0	6	7.2		2	2	0.4	1	5.4
	3	0	1.1	10	2.7		3	0	0.8	1	2.7
	4	0	0.3	6	5.3		4	0	0.9	1	2.7
	5	0	0.0	7	14.1		5	2	0.9	0	4.3
	6	0	0.4	32	19.6		6	3	0.7	1	1.7
						合 計					
						38 64.8 797 881.2					

※ 1～3月は過去8年間、4～12月は過去9年間の平均

2) ハスモンヨトウ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年※	本年	平年	本年	平年
1	1	0	0.0	0	0.0	1	1.4	0	2.6
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	1.4
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.5
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.7
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.4	1	0.4
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.3	1	0.5
2	1	0	0.1	0	0.0	0	0.6	0	0.7
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.3
	3	0	0.1	0	0.1	0	0.6	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	1	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.8	3	0.2
	6	0	0.0	0	0.0	0	1.1	0	0.1
3	1	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.6
	2	0	0.1	0	0.3	1	1.4	5	0.6
	3	0	0.1	1	0.0	4	0.5	8	0.7
	4	0	0.0	0	0.0	7	1.9	8	1.1
	5	0	0.3	2	0.0	3	2.9	19	1.6
	6	0	0.4	5	0.1	3	3.8	5	1.4
4	1	1	0.5	0	0.7	2	6.6	0	2.3
	2	1	0.9	0	1.3	1	8.3	1	1.6
	3	1	0.3	1	0.6	1	6.0	0	7.6
	4	4	1.5	3	1.4	1	11.3	3	7.4
	5	3	1.7	2	4.9	2	11.6	6	7.0
	6	2	1.2	0	8.8	2	13.1	10	8.6
5	1	1	3.7	3	7.1	0	15.2	5	13.0
	2	0	5.5	5	6.7	8	18.6	12	12.2
	3	2	3.4	5	6.1	7	19.7	13	15.1
	4	2	4.3	6	6.4	6	17.9	4	22.8
	5	2	1.7	7	16.4	4	11.5	0	16.4
	6	2	4.6	16	12.4	6	11.6	4	15.4
6	1	1	3.2	3	9.6	7	15.6	5	9.0
	2	8	6.3	42	18.6	4	23.4	0	6.3
	3	15	6.5	22	26.7	9	25.9	4	18.1
	4	62	10.5	358	13.2	24	19.8	28	14.8
	5	98	11.6	327	32.3	22	21.3	46	19.8
	6	123	10.2	93	43.3	50	51.1	25	27.1
7	1	364	15.7	485	43.1	75	61.2	6	22.1
	2	106	14.5	143	26.7	39	52.3	0	14.1
	3	27	6.7	76	14.2	11	24.4	5	15.9
	4	17	7.9	29	12.8	3	8.6	9	11.4
	5	30	10.7	53	30.2	8	9.6	14	10.9
	6	69	15.9	145	45.0	12	26.5	11	26.5
8	1	15	15.5	30	24.3	2	47.4	0	19.9
	2	143	18.4	112	29.3	27	54.5	0	32.0
	3	131	14.6	80	19.7	30	22.0	3	9.0
	4	83	22.7	51	16.2	24	18.4	8	13.7
	5	122	31.1	153	84.2	17	32.2	34	19.1
	6	167	85.1	360	221.0	33	119.1	33	60.2
9	1	380	70.9	529	364.3	164	124.7	69	104.8
	2	582	87.5	1374	244.6	291	244.2	15	118.8
	3	418	66.9	832	205.7	345	118.7	26	96.4
	4	281	62.1	798	211.9	232	172.5	8	85.1
	5	176	76.3	497	360.8	132	138.4	27	84.8
	6	358	48.7	661	493.1	424	324.4	76	104.2
10	1	188	132.3	549	462.8	582	469.5	161	157.6
	2	214	241.4	554	503.1	672	498.3	480	207.8
	3	336	212.1	690	406.7	637	606.8	318	216.7
	4	250	293.3	381	223.7	1168	457.4	189	279.8
	5	676	218.9	415	265.9	345	304.1	238	197.5
	6	1023	234.3	575	323.9	1036	338.2	139	140.2
11	1	460	203.8	304	203.6	459	365.5	156	108.9
	2	704	246.6	520	192.3	480	348.0	146	157.8
	3	342	246.7	253	107.7	313	185.0	111	181.2
	4	868	203.8	756	60.0	371	112.5	146	121.9
	5	509	129.6	335	59.4	210	101.9	112	103.0
	6	189	53.0	36	32.6	48	44.9	95	60.6
12	1	25	58.2	10	42.1	63	77.9	63	46.7
	2	11	20.8	12	10.8	73	30.1	62	16.5
	3	9	14.8	5	1.7	84	20.7	56	15.1
	4	0	0.4	0	1.0	0	6.2	0	8.6
	5	0	2.2	0	2.6	0	6.8	0	12.1
	6	0	0.2	0	0.4	4	3.1	0	4.6
合 計		9601	3262.4	12704	5564.4	8590	5904.0	3033	3123.8

※ 1～3月は過去8年間、4～12月は過去9年間の平均

3) シロイチモジヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	—	—	0	0.9	0	0.7
2	—	—	0	0.6	10	0.3
3	—	—	0	0.0	5	0.2
4	—	—	0	0.2	5	0.0
5	—	—	0	0.0	0	0.1
6	—	—	0	0.0	0	0.1
2	—	—	0	0.1	0	0.1
2	—	—	0	0.2	0	0.1
3	—	—	0	0.2	0	0.0
4	—	—	2	0.2	0	0.1
5	—	—	0	0.2	0	0.0
6	—	—	0	0.4	0	0.0
3	—	—	0	0.4	0	0.2
2	—	—	1	0.1	0	0.3
3	—	—	0	0.5	0	0.1
4	—	—	0	1.2	1	0.1
5	—	—	1	0.6	3	0.4
6	—	—	2	0.8	0	0.5
4	0	0.0	1	2.5	0	0.4
2	0	0.1	1	2.4	0	0.6
3	0	0.0	0	3.5	0	0.8
4	0	0.3	1	7.5	0	0.9
5	0	0.4	1	8.0	0	0.7
6	0	1.0	0	4.8	0	1.6
5	1	0.6	0	9.7	0	1.4
2	0	0.6	1	10.6	0	1.1
3	1	0.5	0	12.4	0	1.4
4	0	1.5	1	11.0	0	1.8
5	3	1.7	0	8.6	1	2.1
6	0	4.4	0	10.5	0	3.3
6	1	4.0	0	11.7	0	4.1
2	8	4.0	0	20.9	0	5.1
3	12	2.9	1	19.6	2	3.6
4	3	2.5	2	20.8	0	3.6
5	1	2.0	2	20.5	2	7.6
6	2	5.2	0	16.5	0	8.9
7	4	6.2	5	20.6	1	8.0
2	3	4.6	0	24.5	0	6.4
3	3	3.4	4	21.4	0	10.4
4	1	5.1	5	18.4	0	9.1
5	0	6.4	3	9.2	0	8.3
6	0	8.7	4	10.0	0	5.6
8	1	4.0	1	31.7	0	6.5
2	1	4.5	1	44.2	0	8.5
3	5	6.3	1	14.6	0	3.9
4	9	7.3	0	11.3	0	4.5
5	2	4.4	0	11.5	0	3.6
6	7	11.7	0	11.4	0	4.4
9	14	6.8	0	14.2	0	3.3
2	18	9.7	0	17.9	0	4.4
3	5	13.7	4	15.3	0	5.6
4	8	13.7	13	19.8	0	5.0
5	10	8.6	4	15.2	0	1.7
6	11	6.7	6	10.9	0	2.4
10	11	4.3	1	16.4	0	2.8
2	11	3.6	0	16.9	0	4.5
3	5	3.7	4	16.1	0	4.1
4	0	2.9	5	11.9	0	2.6
5	3	0.9	5	12.7	0	3.7
6	0	0.7	1	10.3	0	6.1
11	0	1.0	3	10.1	0	3.8
2	1	1.2	2	14.4	0	2.6
3	0	2.0	7	14.3	0	3.3
4	0	1.8	2	9.0	0	2.6
5	2	0.5	1	3.9	0	2.8
6	1	1.2	0	5.9	1	3.1
12	0	0.5	0	3.9	0	2.0
2	0	0.4	0	1.5	0	1.4
3	0	0.2	0	1.3	0	1.1
4	0	0.0	0	0.3	0	1.1
5	0	0.0	0	1.2	0	1.7
6	0	0.0	0	0.4	0	1.6
合 計	168	188.4	99	680.7	31	204.9

4) オオタバコガ

単位：頭

月	半月	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	0	0.0	0	0.3
	2	—	—	3	0.5	0	0.6
	3	—	—	1	0.4	0	0.3
	4	—	—	0	0.4	0	0.2
	5	—	—	0	0.0	4	0.8
	6	—	—	3	0.1	1	0.0
2	1	—	—	0	0.1	0	0.0
	2	—	—	0	0.3	0	0.1
	3	—	—	0	0.1	0	0.0
	4	—	—	1	0.1	0	0.0
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	0	0.2	0	0.4
	2	—	—	0	0.1	0	0.3
	3	—	—	1	0.2	0	0.1
	4	—	—	0	0.1	0	0.1
	5	—	—	0	0.1	0	0.3
	6	—	—	2	0.4	0	0.3
4	1	0	0.2	0	0.9	0	0.1
	2	0	0.5	0	0.5	0	0.2
	3	0	0.0	0	0.2	0	0.6
	4	0	0.2	3	0.5	0	0.3
	5	0	0.7	1	0.5	0	0.3
	6	0	0.9	1	1.4	1	0.2
5	1	1	1.3	0	0.7	0	0.3
	2	2	1.9	2	1.4	1	0.6
	3	2	3.0	0	1.8	0	1.7
	4	4	3.6	2	2.1	2	2.2
	5	0	3.0	0	0.6	2	1.8
	6	0	3.0	0	1.9	0	1.2
6	1	3	2.5	1	1.1	0	0.7
	2	6	1.4	0	0.5	0	1.2
	3	6	1.9	0	0.6	1	1.3
	4	0	1.8	0	0.2	0	1.9
	5	1	3.3	0	2.2	1	1.2
	6	1	5.1	0	1.2	1	1.3
7	1	4	5.7	0	2.6	3	2.2
	2	6	3.2	0	1.7	0	1.6
	3	4	2.1	0	1.9	0	1.1
	4	0	1.2	1	0.9	0	0.5
	5	2	0.9	0	1.1	1	0.4
	6	0	2.8	0	0.1	0	0.1
8	1	2	2.9	0	0.3	0	0.2
	2	0	2.5	0	0.8	0	0.2
	3	0	2.5	0	0.2	0	0.0
	4	0	1.0	0	0.2	0	0.2
	5	0	2.9	0	0.3	0	0.1
	6	1	4.8	0	0.6	0	0.2
9	1	16	6.1	0	0.1	0	0.3
	2	10	5.3	0	0.6	0	1.2
	3	5	2.7	0	0.4	0	0.6
	4	4	3.7	0	1.8	0	1.3
	5	1	3.2	0	1.8	0	3.8
	6	0	2.9	0	2.9	9	3.3
10	1	7	4.6	0	4.7	7	2.4
	2	22	6.4	0	11.7	13	5.6
	3	14	7.7	0	10.0	9	2.7
	4	3	10.7	1	5.9	16	9.2
	5	6	6.2	1	3.9	14	12.3
	6	6	6.0	0	3.8	11	11.1
11	1	3	5.3	0	4.5	7	7.2
	2	10	3.3	0	3.4	13	4.4
	3	3	5.2	2	4.3	3	5.3
	4	2	5.5	1	3.1	1	4.6
	5	0	2.0	0	2.6	2	2.6
	6	5	1.5	1	1.7	4	3.2
12	1	0	2.7	0	4.0	3	3.0
	2	0	0.3	0	2.4	4	3.0
	3	0	0.3	0	1.1	1	1.0
	4	0	0.2	0	0.4	0	0.5
	5	0	0.4	2	0.4	0	0.4
	6	0	0.8	1	0.2	0	0.4
合	計	162	159.8	31	107.9	135	117.4

5) ヨトウガ

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	14	5.5
	2	10	4.8
3	3	8	3.6
	4	3	1.8
	5	2	1.8
	6	6	1.7
<hr/>			
	1	2	2.1
	2	3	7.9
4	3	2	4.9
	4	17	9.7
	5	9	13.0
	6	5	10.5
<hr/>			
	1	1	4.2
	2	2	3.6
5	3	2	2.1
	4	4	3.2
	5	1	1.4
	6	0	3.5
<hr/>			
	1	0	1.1
	2	0	0.2
6	3	0	0.3
	4	2	0.4
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.0

単位：頭

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.2
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	1	0.8
9	3	1	2.3
	4	0	4.2
	5	6	5.6
	6	9	3.6
<hr/>			
	1	1	3.4
	2	3	1.5
10	3	2	1.4
	4	0	0.7
	5	0	0.5
	6	0	0.7
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
11	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.7
	6	0	0.2
<hr/>			
合	計	116	114.1

3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

		紀の川市				紀の川市	
月	半旬	本年	平年	月	半旬	本年	平年
1	1	2	1.7	7	1	0	7.1
	2	7	1.1		2	0	2.0
	3	1	0.6		3	0	2.0
	4	3	0.7		4	0	1.6
	5	5	0.1		5	5	3.0
	6	2	1.1		6	1	5.2
2	1	6	0.3	8	1	7	5.7
	2	2	0.9		2	7	6.9
	3	5	0.9		3	27	15.7
	4	3	0.8		4	97	28.4
	5	0	2.5		5	38	12.0
	6	3	0.6		6	11	16.0
3	1	2	2.4	9	1	4	21.0
	2	1	1.4		2	10	23.5
	3	2	2.3		3	9	17.4
	4	10	4.2		4	9	29.5
	5	6	5.4		5	23	37.3
	6	0	10.0		6	31	25.8
4	1	5	11.0	10	1	19	16.8
	2	14	17.4		2	7	6.6
	3	14	17.4		3	1	8.2
	4	29	34.3		4	1	10.6
	5	5	51.7		5	0	11.0
	6	21	26.9		6	8	14.2
5	1	31	42.0	11	1	4	14.7
	2	36	44.8		2	2	15.6
	3	66	44.0		3	7	30.5
	4	71	37.7		4	10	26.2
	5	18	48.6		5	7	13.2
	6	30	45.3		6	10	19.4
6	1	27	43.4	12	1	4	13.7
	2	24	33.3		2	4	4.6
	3	5	17.2		3	8	5.3
	4	1	16.3		4	0	5.9
	5	0	9.2		5	2	3.8
	6	0	9.0		6	3	2.2
合 計		833	1069.1				

単位：頭

Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

1. 予察ほ場における調査成績

1) カンキツ

(1) 生育状況 (有田川町奥)

a) 生育調査 (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期		
			始期	盛期	終期
早生ウンシュウミカン	3/23 (4/5)	4/21 (4/24)	5/2 (5/4)	5/7 (5/9)	5/12 (5/14)
普通ウンシュウミカン	4/2 (4/6)	4/27 (4/23)	5/4 (5/6)	5/11 (5/11)	5/15 (5/16)
不知火	3/31 (4/4)	4/15 (4/21)	5/9 (5/8)	5/22 (5/14)	5/25 (5/19)

()内は平年

b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	調査月日										
	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/1	12/15
早生ウンシュウミカン	3.8 (3.6)	4.3 (4.2)	4.6 (4.7)	5.1 (5.3)	5.7 (5.7)	6.2 (6.2)	6.5 (6.5)	6.7 (6.9)	6.8 (7.0)	6.9 (7.0)	6.9 (7.1)
普通ウンシュウミカン	3.6 (3.3)	4.3 (4.0)	4.6 (4.5)	5.1 (5.1)	5.3 (5.5)	6.3 (6.0)	6.7 (6.4)	7.0 (6.8)	7.3 (7.1)	7.5 (7.2)	7.6 (7.2)
不知火	3.9 (4.0)	4.8 (4.9)	5.1 (5.6)	5.8 (6.4)	6.7 (7.0)	7.5 (7.6)	7.9 (8.1)	8.3 (8.6)	8.6 (8.8)	8.7 (8.9)	8.5 (8.9)

()内は平年

概要 (平年との比較)

早生ウンシュウミカンの発芽期、展葉期は早く、開花期は平年並であった。

普通ウンシュウミカンの発芽期はやや早く、展葉期はやや遅く、開花期は平年並であった。

不知火の発芽期、展葉期はやや早かった。開花始期は平年並で、盛期、終期は遅かった。生育期間中の果実肥大は、早生ウンシュウミカンが平年並、普通ウンシュウミカンがやや大きく推移した。不知火はやや小さく推移した。

(2) 黒点病

a) 発病状況調査 (有田川町奥)

区	調査項目	調査時期				
		6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除ほ場	発病果率(%)	15.5 (24.5)	100 (98.6)	100 (100)	100 (100)	100 (100)
	発病度	2.2 (4.7)	38.3 (21.6)	72.7 (35.0)	70.7 (45.4)	79.2 (58.1)
防除ほ場	発病果率(%)	0 (0.6)	29.5 (11.1)	43.0 (17.5)	60.0 (33.2)	65.3 (44.1)
	発病度	0 (0.1)	4.2 (1.7)	6.3 (2.7)	9.3 (5.1)	9.7 (7.4)

()内は平年

(注) 無防除ほ場は25年生興津早生、防除ほ場は48年生宮川早生の各区4樹1樹につき50果を調査

自然感染

防除ほ場使用薬剤(散布日):

ストロビードライフロアブル 2,000倍 (5/12)

エムダイファー水和剤 600倍 (6/1)
 ジマンダイセン水和剤 600倍 (6/24、7/15、8/4、8/31)
 ナティーボフロアブル 1,500倍 (9/15)

概要：果実の初発は6月17日（平年6月1日）で平年より遅かった。無防除ほ場および防除ほ場の発病は6月中旬は平年並であったが7月中旬以降は多く推移した。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査（有田川町奥）

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率	調査月日	発病葉率	発病度	調査月日	発病果率	発病度
3月17日	13.3%	6月15日	10.0%	2.6	7月14日	24.0%	9.1
(3月中下旬)	(10.2%)	(6月中下旬)	(6.8%)	(2.3)	(7月中下旬)	(3.4%)	(0.9)

()内は平年

(注) 24年生ネーブル3樹

越冬病斑は旧葉、春葉発病は春葉について1樹につき100葉を調査

果実発病は全着果（3樹の合計31果）を調査

自然感染

概要：越冬病斑の発病葉率は平年並であった。春葉での初発は5月20日（平年5月22日）で平年並であった。6月中旬における春葉の発病は平年並であった。着果が少ない中での調査であったが、7月中旬における果実の発病は平年より多かった。

(4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査(有田川町奥)

10葉当たり虫数(頭)

調査月日	1 齢	雌 2 齢	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5. 1	0	0	0	17	17
5. 10	0	0	0	17	17
5. 13	20	0	0	17	37
5. 17	76	0	0	17	93
5. 20	109	0	0	17	126
6. 10	9	93	0	17	119

概要：5月1日に成虫の寄生葉をマークし、第1世代1齢幼虫の発生状況を調査した。初発は5月13日と平年よりやや早く、その後もやや早く推移した。

(5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査(有田川町奥)

100葉当たり雌成虫数(頭)

調査月日	無防除ほ場	防除ほ場
3. 5	0	0
15	2	0
25	0	0
4. 6	2	0
15	1	0
24	5	0
5. 5	3	0
15	1	0
25	10	0
6. 5	0	0
15	0	0
25	0	0
7. 6	0	0
15	0	0
27	0	0
8. 5	0	0
13	0	0
25	0	0
9. 4	0	0
15	0	0
25	0	0
10. 5	0	0
15	0	0
26	0	0
11. 5	0	0
13	0	0
25	0	0
12. 4	0	0
15	3	0
25	12	0
1. 5	4	0
14	4	0
25	11	0
2. 5	14	0
15	10	0
25	6	0

概要：無防除ほ場における発生は3月中旬から5月下旬に認められ、6月上旬から12月上旬までは認められなかった。12月中旬から再び発生し、以降はやや増加した。防除ほ場における発生は調査期間を通して認められなかった。

(6) チャノキイロアザミウマ

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

予察ほ場 (有田川町奥)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	1	0	1
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	1	1
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	2	2	4
5	2	0	2
6	0	1	1
6・1	0	0	0
2	5	4	9
3	0	10	10
4	0	12	12
5	0	3	3
6	6	44	50
7・1	5	27	32
2	3	14	17
3	0	5	5
4	2	2	4
5	0	4	4
6	1	4	5
8・1	0	0	0
2	4	2	6
3	0	1	1
4	0	3	3
5	0	1	1
6	2	1	3
9・1	7	13	20
2	10	5	15
3	8	9	17
4	5	3	8
5	1	1	2
6	1	1	2
10・1	4	2	6
2	0	9	9
3	1	7	8
4	0	0	0
5	0	4	4
6	0	0	0

概要：6月第6半旬に多く誘殺されたが、調査期間を通して誘殺数はやや少なかった。

b) 発生状況調査（黄色平板粘着トラップによる誘殺消長）
 予察ほ場（由良町畑）頭／トラップ

調査時期（月・半旬）	No. 1	No. 2	計
4・1	2	2	4
2	0	0	0
3	0	0	0
4	1	2	3
5	0	1	1
6	0	0	0
5・1	1	1	2
2	1	0	1
3	3	4	7
4	13	11	24
5	6	4	10
6	8	6	14
6・1	4	12	16
2	21	44	65
3	82	156	238
4	10	34	44
5	3	19	22
6	14	22	36
7・1	15	29	44
2	14	16	30
3	7	3	10
4	5	4	9
5	11	3	14
6	7	2	9
8・1	4	2	6
2	1	14	15
3	73	39	112
4	51	88	139
5	30	62	92
6	75	59	134
9・1	60	21	81
2	29	8	37
3	15	4	19
4	8	6	14
5	16	0	16
6	15	2	17
10・1	5	1	6
2	9	0	9
3	5	0	5
4	1	0	1
5	1	1	2
6	0	0	0

概要：6月第2半旬から第3半旬、8月第3半旬から9月第1半旬に多く誘殺された。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる誘殺消長)

予察ほ場 (有田川町奥)

頭/トラップ

調査時期(月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4・1	5	1	6
2	0	0	0
3	0	0	0
4	3	0	3
5	1	0	1
6	0	0	0
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7・1	0	0	0
2	2	1	3
3	0	1	1
4	3	0	3
5	0	0	0
6	1	0	1
8・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
9・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
10・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	1	1

概要：調査期間を通して誘殺数は少なかった。

b) 発生状況調査（黄色平板粘着トラップによる誘殺消長）
 予察ほ場（由良町畑）頭／トラップ

調査時期（月・半旬）	No. 1	No. 2	計
4・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5・1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6・1	0	1	1
2	0	0	0
3	1	1	2
4	0	0	0
5	0	1	1
6	0	0	0
7・1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	1	0	1
5	0	0	0
6	0	0	0
8・1	0	1	1
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	4	4
5	0	0	0
6	0	0	0
9・1	4	1	5
2	1	1	2
3	0	0	0
4	1	0	1
5	0	0	0
6	0	0	0
10・1	0	2	2
2	2	0	2
3	0	0	0
4	1	0	1
5	0	2	2
6	0	0	0

概要：調査期間を通して誘殺数は少なかった。

(8) 果樹カメムシ類

a) チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

頭/落葉50リットル

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	1/31	1/31	0	0	0	0	
橋本市市脇	1/31	1/31	0	0	0	0	
橋本市清水	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
橋本市学文路	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/21	2/21	0	0	0	0	
橋本市高野口町下中	2/21	2/21	0	0	0	0	
九度山町下古沢	1/31	1/31	0	0	0	0	
九度山町慈尊院	1/31	1/31	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
かつらぎ町教良寺	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/ 1	2/ 1	1	1	2	0	
かつらぎ町東谷	2/ 1	2/ 1	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	2/27	2/27	0	0	0	0	
紀の川市中尾	2/27	2/27	0	1	1	0	
紀の川市林ヶ峯	2/27	2/27	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	2/27	2/27	0	0	0	0	
紀の川市鞆渕	2/27	2/27	0	0	0	0	
紀の川市桃山町黒川	2/27	2/27	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	2/27	2/27	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/19	2/21	0	0	0	0	
海南市東畑	2/19	2/21	0	0	0	0	
海南市ひや水	2/19	2/21	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/19	2/21	0	0	0	0	
紀美野町松瀬	2/19	2/21	1	2	3	0	
紀美野町釜滝	2/19	2/21	0	0	0	0	
紀美野町大角	2/19	2/21	1	0	1	0	
紀美野町永谷	2/19	2/21	0	2	2	0	
紀美野町津川	2/19	2/21	1	0	1	0	

(つづき)

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
有田川町奥(果試場内No. 1)	2/12	2/19	0	0	0	0	
有田川町奥(果試場内No. 2)	2/12	2/20	0	0	0	0	
有田川町修理川	2/12	2/20	0	0	0	0	
有田川町川口	2/12	2/20	0	0	0	0	
広川町津木	2/12	2/26	0	0	0	0	
広川町室川	2/12	2/26	0	0	0	0	
日高川町千津川	2/12	2/20	0	0	0	0	
印南町白河	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
みなべ町高城	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
みなべ町広野	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
みなべ町清川	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
田辺市竹藪	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
田辺市上野	2/25	3/ 2	0	0	0	0	
上富田町岩田	2/27	3/ 2	0	0	0	0	
白浜町口ヶ谷	1/24	3/ 2	0	0	0	0	
すさみ町和深川	1/24	3/ 2	0	0	0	0	
串本町重畳山	1/24	3/ 2	0	0	0	0	
那智勝浦町井関	1/24	3/ 2	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	1/24	3/ 2	0	0	0	0	

調査方法：定点における雑木林の落葉50リットルを採集し、落葉中のチャバネアオカメムシ成虫数を計数した。

概要：県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、落葉50リットル当たり平均0.2頭（前年0.1頭、平年0.6頭）、捕獲地点率は13.0%（前年6.4%、平年22.5%）で平年よりもやや少なかった。

b) 予察灯による誘殺状況

予察ほ場 (有田川町奥 予察灯: 100W水銀灯)

頭

調査月日 月・半旬	チャバネアカメムシ			ツヤアオカメムシ			クサキカメムシ			3種の 合計
	♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	
4・1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
5・1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
2	0	1	1	69	123	192	0	0	0	193
3	0	0	0	5	8	13	0	0	0	13
4	0	2	2	32	47	79	0	0	0	81
5	0	2	2	13	11	24	0	0	0	26
6	1	0	1	5	5	10	0	0	0	11
6・1	2	1	3	10	15	25	0	1	1	29
2	0	2	2	13	13	26	0	2	2	30
3	10	11	21	57	49	106	2	0	2	129
4	2	2	4	7	2	9	0	0	0	13
5	6	8	14	33	23	56	1	2	3	73
6	14	14	28	67	38	105	0	0	0	133
7・1	8	8	16	7	6	13	1	0	1	30
2	42	27	69	45	27	72	2	1	3	144
3	7	7	14	17	8	25	0	0	0	39
4	9	5	14	8	1	9	1	1	2	25
5	8	7	15	9	5	14	1	0	1	30
6	4	1	5	7	4	11	3	5	8	24
8・1	2	1	3	1	2	3	0	0	0	6
2	7	10	17	1	4	5	0	0	0	22
3	5	5	10	4	4	8	17	9	26	44
4	10	11	21	10	7	17	15	14	29	67
5	9	17	26	5	6	11	3	4	7	44
6	34	42	76	19	6	25	6	7	13	114
9・1	10	7	17	6	1	7	3	6	9	33
2	27	17	44	61	38	99	1	4	5	148
3	28	23	51	20	19	39	0	2	2	92
4	26	19	45	45	20	65	1	1	2	112
5	4	2	6	19	4	23	0	0	0	29
6	3	4	7	13	9	22	2	0	2	31
10・1	2	5	7	7	3	10	3	0	3	20
2	3	0	3	35	8	43	0	0	0	46
3	1	0	1	5	4	9	0	0	0	10
4	0	0	0	3	3	6	0	0	0	6
5	1	0	1	4	1	5	0	0	0	6
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

概要: チャバネアカメムシの誘殺数は調査期間を通してやや少なかった。ツヤアオカメムシは5月第2半旬、6月第3半旬、第6半旬に多く誘殺されたが、調査期間を通してやや少なかった。

2) カキ

(1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種		発芽期	展葉期	開花期			収穫期
				始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
平核無	本 年	3月7日	3月22日	5月9日	5月12日	5月14日	10月31日
	平 年 比	- 5	- 7	0	0	0	+ 4
富 有	本 年	3月11日	3月30日	5月16日	5月19日	5月22日	11月24日
	平 年 比	- 5	- 5	0	+ 1	0	+ 5

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：平核無の発芽期は平年に比べやや早く、展葉期は早かった。開花期は平年並であったが、収穫期は高温により着色が遅れたために平年より4日遅かった。

富有の発芽期、展葉期共に比べやや早かった。開花期は平年並であったが、収穫期は高温により着色が遅れたために平年より5日遅かった。

(2) 炭疽病

a) 越冬病斑調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	1月22日	平年
平核無	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病枝率 (%)	0.0	0.4

概要：枝の越冬病斑は、富有、平核無ともにみられなかった。

b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月28日	平年
平核無	発病果率 (%)	0.0	0.5
	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病果率 (%)	2.0	1.8
	発病枝率 (%)	0.0	0.3

概要：平核無では枝および果実の発病がみられなかったが、富有では果実発病が認められた。

(3) うどんこ病

a) 子のう殻越冬密度調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	子のう殻 附着枝率		1枝当たりの 子のう殻数	
		本年	平年	本年	平年
平核無	1月22日	0.0	8.3	0.00	0.44
富 有	1月22日	0.0	2.3	0.00	0.03

概要：枝の子のう殻は、平核無、富有ともにみられなかった。

b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月28日	10月13日	平年
平核無	発病葉率 (%)	0.0	13.3	29.1
	発 病 度	0.0	1.7	14.3
富 有	発病葉率 (%)	0.0	1.0	4.9
	発 病 度	0.0	0.1	1.2

概要：葉の発病は、平核無、富有ともに平年よりもやや少なかった。

(4) 落葉病

a) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	種 類	調査項目	9月28日	10月13日	平年
平核無	角斑落葉病	発病葉率(%)	52.3	70.7	69.3
		発病度	23.2	31.6	37.5
	円星落葉病	発病葉率(%)	3.7	17.3	66.4
		発病度	2.9	6.4	24.6
富 有	角斑落葉病	発病葉率(%)	56.3	77.3	77.3
		発病度	22.1	31.4	46.2
	円星落葉病	発病葉率(%)	41.0	48.7	48.1
		発病度	33.9	34.4	20.0

概要：角斑落葉病の発病は、平核無、富有ともに、平年並であった。

円星落葉病の発病は、平核無では平年より少なかった。富有は平年並であった。

(5) ハマキムシ類 (付表1参照)

概要：チャハマキは4月第1半旬から誘殺され始め、4月第3～4半旬、5月第1～2半旬の誘殺数が多かった。

チャノコカクモンハマキは4月第1半旬誘殺され始め、4月第3半旬～5月第4半旬(ピークは5月第1～2半旬)、6月第5半旬～7月第1半旬の誘殺数が多かった。

(6) アザミウマ類

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ) (予察ほ場: 紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャノキイロアザ ミウマ		カキクダ アザミウマ	
	本年	平年	本年	平年
4・1	0	1.7	0	1.6
2	0	1.7	0	1.3
3	0	1.3	0	1.4
4	0	0.6	0	2.2
5	0	0.3	0	0.8
6	0	0.1	0	0.5
5・1	0	0.2	0	0.4
2	1	0.1	0	0.5
3	0	0.7	0	0.5
4	2	2.6	0	0.2
5	5	3.1	0	0.1
6	3	3.1	0	0.2
6・1	5	1.8	4	1.7
2	4	3.2	4	8.3
3	13	8.4	1	20.2
4	13	14.2	0	21.0
5	18	21.3	0	15.5
6	22	28.1	0	7.8
7・1	107	42.0	0	3.7
2	49	60.5	0	2.2
3	36	46.3	0	1.2
4	16	32.6	0	1.4
5	23	29.0	0	0.8
6	25	39.0	0	0.6
8・1	24	36.3	0	0.6
2	27	28.4	0	0.8
3	41	35.8	2	1.1
4	42	31.6	2	1.5
5	37	34.0	1	1.0
6	43	32.7	0	0.8
9・1	56	25.5	1	0.6
2	44	24.4	1	0.8
3	18	19.1	1	0.5
4	31	16.4	0	0.3
5	33	13.4	0	0.0
6	21	10.8	0	0.5
10・1	12	6.8	0	0.3
2	4	3.9	0	0.3
3	2	1.1	0	0.2
4	0	1.0	0	0.3
5	0	0.2	0	0.2
6	0	0.0	0	0.0
合 計	777	663.3	17	103.9

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。

平年値は平成22～令和元年の平均を示す。

概要: チャノキイロアザミウマは5月第2半旬から誘殺され始め、7月第1半旬の誘殺数が多かった。

カキクダアザミウマは6月第1半旬から誘殺され始め、6月第1～2半旬の誘殺数が多かった。

(7) コガシラアワフキ

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	コガシラ アワフキ
4・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
5・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
6・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
7・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
8・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
9・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
10・1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0

概要：調査期間を通じて誘殺は認められなかった。

(8) カメモシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメモシ	ツヤアオ カメモシ	クサギ カメモシ	合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0
5・1	8	12	0	20
2	31	90	0	121
3	13	31	0	44
4	15	58	0	73
5	24	63	0	87
6	9	26	0	35
6・1	14	37	0	51
2	10	83	0	93
3	65	340	10	415
4	12	21	7	40
5	73	105	7	185
6	72	74	8	154
7・1	48	40	7	95
2	127	60	5	192
3	44	51	8	103
4	87	56	24	167
5	55	24	15	94
6	87	19	54	160
8・1	33	1	13	47
2	59	19	35	113
3	62	54	80	196
4	62	64	28	154
5	112	52	45	209
6	78	53	22	153
9・1	31	11	6	48
2	17	13	3	33
3	114	82	12	208
4	53	56	7	116
5	24	20	1	45
6	5	4	1	10
10・1	2	3	0	5
2	1	17	0	18
3	1	1	0	2
4	0	0	0	0
5	0	3	0	3
6	0	0	0	0

概要：チャバネアオカメモシは5月第1半旬から誘殺され始め、7月第2半旬、8月第5半旬、9月第3半旬に誘殺数が多かった。
ツヤアオカメモシは5月第1半旬から誘殺され始め、6月第3半旬、6月第5半旬に誘殺数が多かった。

3) モモ

(1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	発芽期	開花期			収穫期
		始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
白 鳳 本 年	3月3日	3月28日	3月31日	4月8日	7月7日
平 年 比	-10	-5	-4	-2	-2

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：白鳳の発芽期は平年に比べ早く、開花期はやや早かった。収穫期は平年並であった。

(2) ナシヒメシンクイ (付表1参照)

概要：ナシヒメシンクイは4月1半旬から誘殺され始め、5月第1半旬、6月第6半旬～7月第1半旬、7月第6半旬に誘殺数が多かった。

(3) モモハモグリガ (付表1参照)

概要：モモハモグリガは4月第2半旬から誘殺され始め、5月第2～3半旬、6月第5半旬、8月第1～2半旬、10月第1半旬に誘殺数が多かった。

(4) コスカシバ (付表1参照)

概要：コスカシバは5月1半旬から誘殺され始め、6月第1～2半旬、8月3～4半旬、に誘殺数が多かった。

(5) モモシンクイガ (付表2参照)

概要：モモシンクイガは5月5半旬から7月4半旬まで誘殺された。
誘殺数は平年並であった。

付表1) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

(予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャハマキ		チャノコカクモンハマキ		ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ		コスカシバ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	5	1.8	1	1.5	10	24.5	0	3.0	0	0.0
2	1	3.9	4	2.7	13	22.8	1	4.8	0	0.0
3	7	4.9	10	1.9	15	14.1	0	2.5	0	0.0
4	9	3.5	15	8.9	16	18.5	0	2.2	0	0.1
5	3	5.7	20	18.3	8	9.8	0	1.3	0	0.1
6	3	1.5	40	27.5	10	7.8	0	2.4	0	0.6
5・1	13	2.9	75	33.0	32	13.9	0	2.8	1	0.6
2	16	2.0	76	32.8	16	14.0	5	4.9	0	2.2
3	3	3.1	33	22.7	4	2.6	5	6.7	1	0.7
4	3	1.8	20	11.8	2	3.6	3	64.0	2	1.2
5	0	1.1	4	2.8	4	6.7	3	8.4	0	2.4
6	5	1.1	3	0.8	10	14.9	1	6.9	0	1.3
6・1	0	0.3	2	3.7	18	24.6	1	3.8	3	2.1
2	0	0.4	5	2.1	18	14.2	6	2.9	3	2.4
3	0	0.2	5	5.0	10	13.5	6	10.4	0	2.0
4	1	0.4	2	5.7	3	11.8	2	18.6	0	1.4
5	1	0.3	21	9.7	7	10.8	9	11.2	0	2.4
6	1	1.1	29	8.6	28	10.2	5	6.6	0	1.2
7・1	2	1.0	19	11.7	28	19.0	0	4.9	0	1.4
2	0	1.6	4	7.7	22	14.4	3	13.9	0	1.9
3	0	0.6	2	3.7	20	18.6	2	30.7	0	0.7
4	0	0.4	3	1.8	18	16.5	2	11.9	0	1.3
5	0	0.4	2	2.7	18	16.1	4	12.6	0	1.8
6	2	0.6	4	5.3	20	24.0	7	32.3	1	1.8
8・1	2	0.1	4	5.1	15	30.8	8	43.2	1	1.1
2	2	0.4	4	3.4	14	24.0	8	33.0	0	2.3
3	1	0.6	4	3.6	12	23.0	3	31.1	4	1.2
4	0	0.2	4	2.8	12	28.5	1	8.4	3	1.0
5	0	0.3	1	1.5	13	28.8	0	8.3	0	2.6
6	0	0.7	1	1.3	8	31.7	0	12.6	0	1.7
9・1	0	0.7	1	1.0	6	19.0	1	13.6	0	2.4
2	0	1.4	1	1.5	10	19.0	0	12.7	0	2.1
3	0	0.9	2	3.7	13	13.2	1	22.9	0	3.4
4	0	0.9	4	5.3	8	11.3	1	50.9	1	3.6
5	0	1.2	3	9.9	5	7.8	3	22.5	0	7.3
6	0	1.3	1	12.5	2	4.1	3	7.5	0	5.6
10・1	0	1.0	3	12.2	2	1.8	8	4.8	0	4.0
2	0	2.1	2	9.0	2	1.8	1	3.9	0	3.1
3	0	3.5	2	10.0	1	0.7	1	2.2	0	0.7
4	0	1.8	3	6.7	2	0.3	0	0.8	0	0.4
5	0	2.1	1	5.1	0	0.0	0	0.2	0	0.4
6	0	1.4	0	4.1	1	0.0	0	0.3	0	0.0
合計	80	61.2	440	331.1	476	592.4	104	548.6	20	72.5

注) 平年値は平成22～令和元年の誘殺数から求めた。

ただし、ナシヒメシンクイとモモハモグリガについては、平成25年は調査未実施のため平年値は平成21～24年、平成26～令和元年の誘殺数から求めた。

付表2) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

調査時期 月・半旬	モモシンクイガ							
	県予察圃場 紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		かつらぎ町 東洪田 (モモ園)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	2	0.1	0	0.0	0	0.8
6	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	1.0
6・1	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	1.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	1.4
3	0	0.0	0	0.0	1	1.4	2	1.8
4	0	0.0	0	0.1	1	0.9	2	3.3
5	0	0.0	0	0.0	1	3.1	2	2.4
6	0	0.0	0	0.0	1	2.3	3	2.9
7・1	0	0.0	0	0.0	1	1.5	2	2.1
2	0	0.0	0	0.0	1	1.0	2	0.6
3	0	0.0	0	0.0	0	0.6	2	1.6
4	0	0.0	0	0.0	0	1.3	2	1.5
5	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	0.4
6	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	1.5
8・1	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.5
2	0	0.0	0	0.1	0	0.6	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	0.6
4	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.4
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.0	4	0.7	6	17.8	17	24.3

注) 平年値は平成22～令和元年の誘殺数から求めた。

ただし、かつらぎ町東洪田においては平成22～23年、平成26～令和元年の平均。

4) ウ メ

(1) 生育状況 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

品種	開花期			発芽期	収穫期*		
	始期	最盛期	終期		始期	最盛期	終期
南高	1/28	2/3	2/17	3/24	6/2	6/4	6/9

*収穫期は青ウメでの時期

(2) 黒星病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日				
	5月17日	5月25日	6月1日	6月5日	6月12日
発病果率%	7.8	37.3	51.1	60.8	81.4
発病度	2.4	14.2	26.8	32.2	47.4

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実での初発は5月中旬で、6月にかけて増加した。

b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	6月23日	7月20日	8月20日	9月17日
発病新梢率%	6.4	13.6	22.0	19.2

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢での発病は6月下旬から認められ、8月中旬にかけて増加した。

(3) かいよう病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	5月1日	5月8日	5月17日	5月25日
発病果率%	0.0	0.0	0.0	0.0
発病度	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

概要：果実発病は認められなかった。

b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	6月23日	7月20日	8月20日	9月17日
発病新梢率%	4.4	2.8	10.4	7.2

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

概要：新梢での発病は6月下旬から認められ、8月中旬にかけて増加した。

(4) すず斑病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日
	6月12日
発病果率%	39.8
発病度	20.9

注) 品種：南高 5樹、1樹あたり全着果数を調査(無防除)

概要：果実での初発は6月中旬であった。

(5) ハダニ類

a) 発生状況調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査月日	100葉あたり 雌成虫数	調査月日	100葉あたり 雌成虫数
4. 6	0	8. 5	0
10	0	12	0
15	0	14	0
20	0	20	0
24	0	26	0
30	0	31	0
5. 5	0	9. 8	0
11	0	10	0
15	0	15	0
21	2	17	0
25	0	22	0
31	0	27	0
6. 5	5		
10	2		
15	0		
19	0		
26	0		
30	0		
7. 7	1		
10	0		
15	0		
20	0		
25	0		
29	0		

注) 品種：南高 2樹平均 無防除

概要：5月第4半旬から6月第2半旬および7月第1半旬にハダニ類の発生を確認した。

(6) カメムシ類

a) 誘殺状況調査 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	チャバネア カメムシ	ツヤア カメムシ	クサギ カメムシ	前記3種の 合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	3	0	3
5	0	1	0	1
6	4	142	0	146
5・1	18	808	0	826
2	23	654	0	677
3	28	170	0	198
4	35	615	3	653
5	30	243	0	273
6	7	146	1	154
6・1	23	385	0	408
2	14	144	0	158
3	6	89	0	95
4	64	137	0	201
5	50	99	0	149
6	84	244	0	328
7・1	48	62	0	110
2	33	78	0	111
3	28	33	0	61
4	9	23	0	32
5	15	16	0	31
6	15	16	0	31
8・1	10	2	1	13
2	28	51	2	81
3	47	51	3	101
4	98	80	9	187
5	138	101	15	254
6	161	97	6	264
9・1	157	70	4	231
2	126	102	2	230
3	284	255	1	540
4	152	468	3	623
5	33	339	0	372
6	7	110	0	117
10・1	3	64	0	67
2	1	42	0	43
3	5	49	0	54
4	0	0	0	0
5	0	34	0	34
6	0	0	0	0

概要：チャバネアオカメムシは4月第6半旬から10月第3半旬まで誘殺され、8月第4半旬から9月第4半旬の誘殺数が特に多かった。

ツヤアオカメムシは4月第4半旬から10月第5半旬まで誘殺され、4月第6半旬から7月第2半旬および8月第4半旬から9月第6半旬の誘殺数が特に多かった。

(7) ウメシロカイガラムシ

a) 歩行幼虫発生状況調査 (両面テープトラップ) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日
4・1	0	6・4	0	9・1	0
2	0	5	0	2	0
3	0.1	6	2.6	3	0
4	2.9	7・1	1.5	4	0.1
5	3.4	2	0	5	0.9
6	2.3	3	0	6	0.8
5・1	2.8	4	0	10・1	0.5
2	0	5	0	2	0.2
3	0.1	6	0	3	0.4
4	0	8・1	0	4	0
5	0	2	0.0	5	0.1
6	0.1	3	0	6	0
6・1	0	4	0		
2	0	5	0.7		
3	0	6	0		

注) 5トラップ平均、1半旬に1頭のみ捕獲された場合は0.0と記載。

概要：第1世代は4月第3半旬から5月第6半旬まで、第2世代は6月第6半旬から7月第1半旬まで、第3世代の発生は8月第2半旬から10月第5半旬までみられた。

(8) アメリカシロヒトリ

a) 雄成虫誘殺状況調査 (フェロモントラップ) (予察ほ場：みなべ町西本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4・1	0	6・4	0	9・1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	7・1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
5・1	0	4	0		
2	0	5	1		
3	0	6	0		
4	0	8・1	0		
5	0	2	0		
6	0	3	0		
6・1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		

概要：アメリカシロヒトリは7月第5半旬に確認された。

2.巡回調査結果

1) カンキツ

(1) 6月調査

(11~12日)

2020年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類	
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	生息果率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	生息果率(%)	虫数(頭/100果)	生息新梢率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)	
ウンシュウミカン	下津	8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.8	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	58.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.0	0.0	2.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	16.3	30.8	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	1.7	0.2	2.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	0.0	0.0	1.1	1.7	0.6	0.6	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	0.3	0.0	1.3	0.3	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	10.6	29.1	0.1	0.1	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		2.9		11.8		11.8	0.0				0.0	20.6		2.9		2.9	0.0	0.0		0.0	0.0	
八朔 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	3.9	8.3	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		0.0		0.0		0.0	0.0				0.0	16.7		0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
夏橙 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.2	0.0	0.0	13.9	35.6	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		0.0		0.0		0.0	0.0				0.0	50.0		0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
ネーブル 平均	3	31.1	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.1	0.0	0.0	33.3	61.1	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		66.7		0.0		0.0	0.0				0.0	33.3		0.0		33.3	0.0	0.0		0.0	0.0	
伊予柑 平均	4	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	80.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		25.0		0.0		0.0	0.0				0.0	50.0		0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
清見 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		0.0		0.0		0.0	0.0				0.0	0.0		0.0		16.7	0.0	0.0		0.0	0.0	
不知火 平均	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		0.0		0.0		0.0	0.0				0.0	20.0		0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
中晩柑 平均	30	3.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	10.6	25.7	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		10.0		0.0		0.0	0.0				0.0	16.7		0.0		26.7	0.0	6.7		0.0	0.0	
合計 平均	64	1.7	0.2	0.7	0.2	0.3	0.0	0.0	0.3	0.04	0.0	0.0	10.6	27.5	0.1	0.1	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		6.3		6.3		6.3	0.0				0.0	12.5		0.0		23.4	1.6		4.7	0.0	0.0	

(2) 7月調査
(15~16日)

2020年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発生果率(%)	生息葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	生息葉率(%)	虫数(頭/100果)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	3.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	3.6	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	10.8	1.7	3.8	2.2	0.8	0.1	4.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	19.4	5.2	6.7	4.3	0.0	0.0	1.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	7.3	1.5	2.1	1.3	0.2	0.0	1.6	0.4	0.0	1.4	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
発生ほ場率(%)		35.3		8.8		5.9		38.2		0.0	3.1		0.0		0.0	5.9		0.0	
八朔	平均	6	3.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		33.3		0.0		0.0		16.7		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0
夏橙	平均	6	5.0	0.7	0.0	0.0	1.1	0.3	3.1	0.5	0.0	15.6	41.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		33.3		0.0		16.7		66.7		0.0	16.7		0.0		0.0	0.0		0.0
ネーブル	平均	3	45.6	10.0	0.0	0.0	2.2	0.3	0.3	0.0	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		100.0		0.0		33.3		33.3		0.0	33.3		0.0		0.0	0.0		0.0
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		0.0		0.0		25.0		0.0		0.0	0.0		0.0		25.0	0.0		0.0
清見	平均	6	13.9	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	6.1	10.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		83.3		0.0		0.0		16.7		0.0	16.7		0.0		16.7	0.0		0.0
不知火	平均	5	1.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		20.0		0.0		0.0		20.0		0.0	20.0		0.0		0.0	0.0		0.0
中晩柑	平均	30	9.3	2.3	0.0	0.0	0.6	0.2	0.9	0.1	0.0	5.0	11.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		43.3		0.0		10.0		26.7		0.0	16.7		0.0		6.7	0.0		0.0
合計	平均	64	8.2	1.9	1.1	0.7	0.4	0.1	1.3	0.3	0.0	3.1	6.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.03	0.0
	発生ほ場率(%)		39.1		4.7		7.8		32.8		0.0	9.3		0.0		3.1	3.1		0.0

(3) 8月調査
(11~12日)

2020年

品種	地区	調査 ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				こは ん症	ミカンハダニ		チャノキイロ アザミウマ		ハナ ムグ リ類	ゴマダラ カミキリ		ナメク ジ類	
			発病 果率 (%)	発病 度	発病 果率 (%)	発病 度	発病 果率 (%)	発病 度	発病 葉率 (%)	発病 度	発生 果率 (%)	生息 葉率 (%)	♀成 虫数 (頭/ 100 葉)	生息 果率 (%)	虫数 (頭/ 100 果)	被害 果率 (%)	食害 (被 害樹 率%)	成虫 数 (頭/ ほ場)	被害 果率 (%)	
ウンシュウ ミカン	下津	8	17.9	3.2	0.0	0.0	0.4	0.2	0.7	0.1	0.0	10.8	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	2.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	25.4	4.5	5.4	2.7	1.7	1.1	1.2	0.3	0.0	5.0	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	34.4	7.9	9.4	3.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	10.6	25.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	平均	34	17.3	3.3	2.9	1.2	0.5	0.3	0.5	0.1	0.0	6.4	15.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		58.8		8.8		8.8		17.6		0.0	32.4		0.0		0.0		0.0		0.0	
八朔	平均	6	7.8	2.2	0.0	0.0	3.3	1.4	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		50.0		0.0		50.0		0.0		0.0	16.7		0.0		0.0		0.0		0.0	
夏橙	平均	6	16.1	4.0	0.0	0.0	2.8	1.2	1.2	0.2	0.3	3.3	8.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		33.3		0.0		33.3		50.0		16.7	16.7		0.0		16.7		0.0		0.0	
ネーブル	平均	3	65.6	19.5	0.0	0.0	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		100.0		0.0		33.3		0.0		0.0	33.3		0.0		0.0		0.0		0.0	
伊予柑	平均	4	25.0	8.8	0.0	0.0	0.8	0.1	0.0	0.0	9.0	9.2	35.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		50.0		0.0		25.0		0.0		50.0	25.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
清見	平均	6	35.0	6.7	0.0	0.0	1.7	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		66.7		0.0		16.7		16.7		0.0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
不知火	平均	5	28.7	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		80.0		0.0		0.0		20.0		0.0	20.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
中晩柑	平均	30	26.4	6.5	0.0	0.0	1.8	0.8	0.3	0.1	1.3	2.4	6.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		60.0		0.0		26.7		16.7		10.0	16.6		0.0		3.3		0.0		0.0	
合計	平均	64	21.6	4.8	1.6	0.6	1.1	0.5	0.4	0.1	0.6	4.7	11.6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		59.4		4.7		17.2		17.2		4.7	25.0		0.0		1.6		0.0		0.0	

(4)10月調査 病害
(15~16日)

2020年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病	こはん症
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発生果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	44.2	8.2	0.0	0.0	1.3	0.5	0.8	0.2	0.0	0.4	0.0
	有田	12	32.2	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
	日高	8	62.9	14.1	5.0	3.0	0.0	0.0	0.9	0.2	0.0	1.3	0.0
	西牟婁	6	47.8	13.6	16.7	6.0	1.7	0.9	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0
	平均	34	45.0	9.3	4.1	1.8	0.6	0.3	0.4	0.1	0.0	0.7	0.0
発生ほ場率(%)			91.2		8.8		11.8		20.6		0.0	17.6	0.0
八朔	平均	6	5.6	1.0	0.0	0.0	5.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			66.7		0.0		50.0		0.0		0.0	0.0	0.0
夏橙	平均	6	22.8	5.0	0.0	0.0	4.4	1.1	1.5	0.2	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			66.7		0.0		50.0		66.7		0.0	0.0	0.0
ネーブル	平均	3	86.7	34.9	0.0	0.0	4.4	1.6	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			100.0		0.0		66.7		66.7		0.0	0.0	0.0
伊予柑	平均	4	22.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.5
発生ほ場率(%)			100.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	100.0
清見	平均	6	21.1	3.7	0.0	0.0	2.8	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			83.3		0.0		50.0		0.0		0.0	0.0	0.0
不知火	平均	5	48.7	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	2.0	0.0
発生ほ場率(%)			80.0		0.0		0.0		20.0		0.0	60.0	0.0
中晩柑	平均	30	29.7	7.9	0.0	0.0	2.9	1.0	0.4	0.1	0.0	0.3	3.8
発生ほ場率(%)			80.0		0.0		36.7		23.3		0.0	10.0	13.3
合計	平均	64	38.7	8.6	2.2	0.9	1.7	0.6	0.4	0.1	0.0	0.5	1.8
発生ほ場率(%)			85.9		4.7		23.4		21.9		0.0	14.1	6.3

(4)10月調査 虫害
(15~16日)

2020年

品種	地区	調査ほ場数	ミカンハダニ			チャノキイロアザミウマ				ハナムグリ類	ヤノネカイガラムシ	ヤガ類	コナカイガラムシ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類					
			生息葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	春葉被害度	果頂部		果梗部						被害果率(%)	被害果率(%)		被害果率(%)	寄生率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
						被害果率(%)	被害度	被害果率(%)	被害度												
ウンシュウミカン	下津	8	0.0	0.0	35.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	有田	12	0.0	0.0	23.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0					
	日高	8	2.9	2.9	22.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	西牟婁	6	9.4	21.1	26.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0					
	平均	34	2.3	4.4	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			11.7			0.0		0.0		0.0	0.0	5.9	0.0	0.0		0.0					
八朔	平均	6	3.9	8.3	11.8	0.0	0.0	1.1	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			16.7			0.0		16.7		16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
夏橙	平均	6	3.3	5.0	25.2	0.0	0.0	0.6	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			16.7			0.0		16.7		16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
ネーブル	平均	3	1.1	1.1	30.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			33.3			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
伊予柑	平均	4	0.0	0.0	37.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
清見	平均	6	0.0	0.0	13.3	3.3	0.6	16.7	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			16.7		50.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
不知火	平均	5	0.0	0.0	7.6	6.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			20.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
中晩柑	平均	30	1.6	2.8	19.4	1.8	0.5	3.7	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			10.0			6.7		16.7		6.7	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
合計	平均	64	2.0	3.6	23.3	0.8	0.2	1.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			10.9			3.1		7.8		3.1	0.0	3.1	0.0	0.0		0.0					

2) カキ

(1) 5月調査 (14, 15日)

調査品種：富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 新梢率	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	11	東浜田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
紀の川市	12	野上	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
	13	切畑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2
発生ほ場数			0.0	4.0		0.0	0.0	0.0	4.0	2.0
発生ほ場率(%)			0.0	23.5		0.0	0.0	0.0	23.5	11.8

100葉、50果、50新梢調査

調査品種：刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイ ロアザミウ マ 被害 果率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ	
	No.	字名		発病 葉率	発病 度						被害 葉率	被害 花蕾率
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西浜田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	0.0
発生ほ場数				1.0		0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0	0.0
発生ほ場率(%)				5.9		0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	5.9	0.0

100葉、50果、50新梢調査

(2) 6月調査 (16,17日)

調査品種: 富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	さび果症 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	0.0	2.0	0.2	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	1.0	0.1	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	10	西飯降	0.0	1.0	0.1	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	19.0	3.2	6.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	31.0	4.2	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	12.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	17	大角	0.0	2.0	0.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	3.4	0.5	5.2	0.2	0.0	1.2	0.7	0.0	0.2
発生ほ場数			0.0	7.0		15.0	2.0	0.0	2.0	5.0	0.0	1.0
発生ほ場率(%)			0.0	41.2		88.2	11.8	0.0	11.8	29.4	0.0	5.9

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイロ アザミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	
	No.	字名		品種	発病 葉率	発病 度	発病 果率						発病 葉率
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	10.0	1.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	6.0	0.6	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	13.0	2.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	1.1	0.2	2.6	0.2	0.0	1.5	0.1	0.6	0.0
発生ほ場数				0.0	2.0		9.0	3.0	0.0	8.0	1.0	2.0	0.0
発生ほ場率(%)				0.0	11.8		52.9	17.6	0.0	47.1	5.9	11.8	0.0

100葉、50果調査

(3) 7月調査 (15, 17日)

調査品種: 富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度								
橋本市	1	柏原	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	4.0	0.4	2.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	10	西飯降	0.0	8.0	1.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東浜田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	41.0	10.4	0.0	0.0	16.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	17.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	8.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	6.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	17	大角	0.0	2.0	0.7	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	5.1	1.0	0.4	0.0	3.2	0.8	0.0	0.0	0.6	0.5
発生ほ場数			0.0	12.0		2.0	0.0	9.0	4.0	0.0	0.0	5.0	3.0
発生ほ場率(%)			0.0	70.6		11.8	0.0	52.9	23.5	0.0	0.0	29.4	17.6

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウ マ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		品種	発病 葉率							
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	4.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西浜田	刀根早生	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0
発生ほ場数				0.0	3.0		0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
発生ほ場率(%)				0.0	17.6		0.0	0.0	11.8	0.0	11.8	0.0

100葉、50果調査

(4) 8月調査 (17, 19日)

調査品種: 富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度									
橋本市	1	柏原	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0	14.0
	2	市脇	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	10.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	6.0	0.0	6.0	2.0	0.0	4.0	6.0
	9	丁ノ町	2.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	2.0	0.0	2.0	4.0
	10	西飯降	0.0	25.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	2.0	0.0	4.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	4.0
紀の川市	12	野上	0.0	51.0	18.4	0.0	0.0	2.0	0.0	32.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	19.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	2.0
	14	調月	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	2.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	14.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	17	大角	2.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	2.0	0.0	2.0	0.0
平均			0.2	6.6	1.7	0.0	0.0	1.9	0.0	7.2	1.2	0.0	1.3	3.2
発生ほ場数			2.0	10.0		0.0	0.0	6.0	0.0	14.0	10.0	0.0	6.0	8.0
発生ほ場率(%)			11.8	58.8		0.0	0.0	35.3	0.0	82.4	58.8	0.0	35.3	47.1

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		品種	発病 葉率								
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	5.0	1.4	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	8.0	2.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	4.0	0.6	0.0	0.0	26.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	13.0	4.3	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	1.6	0.4	0.0	4.2	1.3	0.2	0.0	1.3	0.4
発生ほ場数				0.0	5.0		0.0	7.0	6.0	2.0	0.0	4.0	3.0
発生ほ場率(%)				0.0	29.4		0.0	41.2	35.3	11.8	0.0	23.5	17.6

100葉、50果調査

(5) 9月調査 (15,16日)

調査品種: 富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率
	No.	字名		発病 業率	発病度	発病 業率	発病度	発病 業率	発病度						
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	24.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0
	4	山田	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	5	大野	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	4.0	84.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	14.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	10.0	2.4	23.0	7.2	1.0	0.2	44.0	0.0	10.0	0.0	4.0	0.0
	9	丁ノ町	2.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	6.0	0.0	14.0	0.0
	10	西飯降	2.0	24.0	11.8	6.0	1.0	0.0	0.0	12.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	68.0	27.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	24.0	2.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	55.0	31.6	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	20.0	4.8	1.0	0.2	0.0	0.0	4.0	0.0	22.0	2.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	2.0	4.0	0.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	8.0	2.0	4.0	0.0	4.0	0.0
	17	大角	4.0	8.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.0	0.0	10.0	0.0
平均			1.2	11.1	4.7	2.4	0.6	0.1	0.0	6.5	0.4	8.7	0.6	11.5	0.1
発生ほ場数			6.0	8.0		9.0		1.0		10.0	2.0	11.0	4.0	13.0	1.0
発生ほ場率(%)			35.3	47.1		52.9		5.9		58.8	11.8	64.7	23.5	76.5	5.9

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 果率
	No.	字名		品種	発病 業率	発病度	発病 業率	発病度	発病 業率						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	6.0	0.0
	5	大野	平核無	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	14.0	1.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	31.0	8.3	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	9.0	1.3	6.0	1.7	0.0	0.0	68.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	6.0	1.7	0.0	0.0	8.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	2.0	0.0	0.0	6.0	2.0	0.0	0.0	16.0	0.0	2.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	45.0	24.5	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	12.0	2.8	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.8	6.1	2.3	1.4	0.4	0.0	11.2	0.0	1.2	0.5	1.5	0.1
発生ほ場数				2.0	7.0		5.0		0.0	12.0	0.0	5.0	3.0	4.0	1.0
発生ほ場率(%)				11.8	41.2		29.4		0.0	70.6	0.0	29.4	17.6	23.5	5.9

100葉、50果調査

(6) 10月調査 (14, 15日)

調査品種: 富有

2020年

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナカ イガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメモシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	1.0	0.1	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	18.0
	2	市脇	2.0	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	3	学文路	2.0	2.0	0.2	41.0	11.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	24.0
	4	山田	2.0	4.0	0.4	7.0	1.2	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0	4.0
	5	大野	6.0	9.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	98.0
九度山町	6	広良	0.0	7.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	4.0	3.0	0.3	5.0	0.8	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	6.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	31.0	8.7	60.0	24.0	0.0	0.0	60.0	0.0	4.0	2.0	4.0
	9	丁ノ町	2.0	3.0	0.3	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	32.0
	10	西飯降	4.0	52.0	21.6	6.0	2.7	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	12.0	2.0	12.0
紀の川市	12	野上	2.0	88.0	38.6	10.0	1.8	0.0	0.0	4.0	0.0	24.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	57.0	23.8	2.0	0.3	0.0	0.0	2.0	0.0	20.0	2.0	2.0
	14	調月	0.0	40.0	18.2	33.0	8.8	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	2.0	2.0	0.6	6.0	1.3	0.0	0.0	12.0	0.0	18.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	11.0	2.0	0.0	0.0	14.0	4.0	6.0	0.0	8.0
	17	大角	14.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	12.0	0.0	4.0
平均			2.6	18.0	6.9	11.2	3.3	0.0	0.0	9.2	0.2	7.2	0.4	12.8
発生ほ場数			12.0	14.0		13.0		0.0		13.0	1.0	13.0	3.0	13.0
発生ほ場率(%)			70.6	82.4		76.5		0.0		76.5	5.9	76.5	17.6	76.5

100葉、50果調査

3) モモ

(1)4月調査(16日)

2020年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 枝率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	嶋	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
平均				0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
発生ほ場数				0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
発生ほ場率(%)				0.0	0.0	0.0	0.0	30.0

100葉叢、100結果枝 調査

(2)5月調査(14,15日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 葉率	うどんこ病 発病 果率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率	コスカシバ 被害 箇所数
	No.	字名									
紀の川市	1	杉原	白鳳	7.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	8.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	2.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				3.1	1.6	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				8.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				80.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:10樹、樹高1m以下調査

(3)6月調査(16,17日)

2020年

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率						
紀の川市	1	杉原	白鳳	5.0	-	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	4.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	5	元	白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	14.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	15.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	5.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	10	東浜田	白鳳	5.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
平均				5.3	2.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				8.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				80.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は有袋のため未調査

(4)7月調査(15,17日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		灰星病発病果率	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率							
紀の川市	1	杉原	白鳳	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	13.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	19.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	19.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	清水白桃	4.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	37.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	9.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東浜田	白鳳	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				12.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				10.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)				100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は収穫済みのため果実無し

(5)8月調査(17,19日)

2020年

市町村	調査場所		品種	せん孔 細菌病 発病 葉率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名							
紀の川市	1	杉原	白鳳	33.0	0	0	6.0	0	0
	2	遠方	日川白鳳	47.0	0	0	4.0	0	0
	3	嶋	白鳳	21.0	0	26.0	8.0	0	0
	4	長田中	白鳳	28.0	0	0	0	0	0
	5	元	白鳳	3.0	0	0	6.0	0	0
	6	市場	清水白桃	38.0	0	10.0	12.0	0	0
	7	段	清水白桃	27.0	0	1.0	4.0	0	0
	8	段新田	清水白桃	71.0	0	0	14.0	0	0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	23.0	0	1.0	2.0	0	0
	10	東洪田	白鳳	17.0	0	3.0	2.0	0	0
平均				30.8	0	4.1	5.8	0	0
発生ほ場数				10	0	5	9	0	0
発生ほ場率(%)				100.0	0	50.0	90.0	0	0

100葉、50果、50新梢調査

4) キウイフルーツ

調査品種:ヘイワード

2020年

市町村	調査場所		4月調査(15,16日)		5月調査(11,14日)		6月調査(15,17日)	
			かいよう病		かいよう病		かいよう病	
	No.	字名	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度
紀の川市	1	名手上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	北涌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海南市	3	下津町小南	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	下津町小原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	下津町下津	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10新梢の100葉調査

5) ウメ

(1) 4月調査(4月10、13日)

調査品種：南高

2020年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメロ カガラムシ
	No.	字名	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	被害 新梢率	寄生 枝率
みなべ町	1	東岩代1	4.0	2.5	36.0	8.9	64.0	0.0	22.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	12.0	5.3	46.0	0.0	34.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	24.0
	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	0.0	6.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	26.0
	6	東本庄3	2.0	1.0	0.0	0.0	48.0	0.0	36.0
	7	西本庄1	0.0	2.0	0.0	0.0	40.0	0.0	8.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	6.0
	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	0.0	2.0
	10	井戸が谷2	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	10.0
	11	埴田1	0.0	0.0	2.0	30.0	16.0	0.0	28.0
	12	埴田2	0.0	0.0	10.0	4.2	24.0	0.0	8.0
	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	50.0
	14	晩稲2	0.0	0.0	4.0	1.0	22.0	0.0	20.0
	15	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	16.0
	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	26.0
	17	岩代P1	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	22.0
	18	岩代P2	2.0	4.0	0.0	0.0	64.0	0.0	14.0
	19	高城1	0.0	0.0	2.0	2.0	24.0	0.0	4.0
	20	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	8.0
	21	清川1	0.0	0.0	2.0	1.0	42.0	0.0	2.0
	22	清川2	2.0	1.0	4.0	1.5	24.0	0.0	4.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	2.0	4.0	70.0	0.0	16.0
	2	下三栖2	6.0	1.0	0.0	0.0	58.0	0.0	10.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	18.0
	4	上秋津2	8.0	1.3	2.0	1.0	20.0	0.0	46.0
	5	団栗	2.0	1.0	0.0	0.0	60.0	0.0	10.0
	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	62.0	0.0	4.0
	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	8.0
	8	秋津川1	16.0	1.3	2.0	1.0	22.0	0.0	34.0
	9	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	52.0	0.0	10.0
	10	秋津川3	2.0	2.0	0.0	0.0	60.0	0.0	18.0
	11	上芳養1	2.0	1.0	0.0	0.0	40.0	0.0	10.0
	12	上芳養2	2.0	1.0	0.0	0.0	52.0	0.0	8.0
	平均		1.4	0.6	2.3	1.8	43.6	0.0	16.7
	発生ほ場数		11		11		34	0	34
	発生ほ場率(%)		32.4		32.4		100.0	0.0	100.0

(2) 6月調査(6月1、2日)

調査品種: 南高

2020年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	すす斑病	ウミノカガラムシ	ハダニ類		コスカシバ	アブラムシ類
	No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病枝率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率
みなべ町	1	東岩代1	4.0	2.3	1.0	0.3	1.0	1.0	38.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0	60.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	56.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	32.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	26.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	16.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	井戸が谷2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	16.0	8.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	26.0	4.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	22.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	22.0	4.0	5.0	5.0	0.0	21.0
	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	岩代P1	0.0	0.0	3.0	1.0	0.0	0.0	46.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18	岩代P2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	42.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	19	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	42.0	0.0	3.0	12.0	0.0	0.0
	20	高城2	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	2.0	38.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	21	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	22	清川2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	32.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	90.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	60.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	62.0	12.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	4	上秋津2	5.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0	32.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	5	団栗	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	48.0	2.0	2.0	2.0	5.0	0.0
	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	40.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	38.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	秋津川1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	24.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	60.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	秋津川3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	76.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	11	上芳養1	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	30.0	8.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	12	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	54.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	平均		0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.4	37.3	4.1	0.5	0.7	0.6	0.6
	発生ほ場数		3		4		6	20	34	28	8		9	1
	発生ほ場率(%)		8.8		11.8		17.6	58.8	100.0	82.4	23.5	0.0	26.5	2.9